

令和2年度（2020年度）
磐田市自治会等意識調査

調査結果報告書

令和3年3月

磐 田 市

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	3
	1. 団体のことについて	4
	2. 地域（磐田市）の特性について	6
	3. 磐田市の今後の取り組みについて	10
	4. 地域活動について	18
	5. 新型コロナウイルス感染症について	42
	6. まちづくり全般について	58
III	調査票	79

I 調査の概要

1. 調査の目的

令和4年度から8年度のまちづくりの指針となる「第2次磐田市総合計画（後期基本計画）」を策定するにあたり、市民の目線に立って検討を行うために、これまで市で実施してきた取り組みに対する市民の評価と、今後の取り組みについて伺う市民意識調査を実施した。

2. 調査の内容

- 1 団体のことについて
- 2 地域（磐田市）の特性について
- 3 磐田市の今後の取り組みについて
- 4 団体の活動について
- 5 新型コロナウイルス感染症について
- 6 まちづくり全般について

3. 調査の設計

対象者：市内の全自治会長、支部・地区長、地域づくり協議会長

標本数：340人

調査方法：郵送配布－郵送回収

調査期間：令和2年7月22日～8月11日

4. 回収結果

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
340件	300件	300件	88.2%

※有効回収数は、回収数のうち無効票を除いた数

5. 注意事項

- ・回答率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、比率の数値の合計が100.0%にならない場合がある。また、グラフにおける比率の合計は、コメントにおける比率の合計と一致しない場合がある。
- ・複数回答可の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・グラフ中の「n（Number of caseの略）」は基数で、その質問に回答すべき人数を表している。
- ・本文中に「前回調査」とあるものは、平成27年度調査を指している。
- ・地域を分析軸として、上位5位を示した集計表は、「その他」の回答および無回答を除いた順位である。

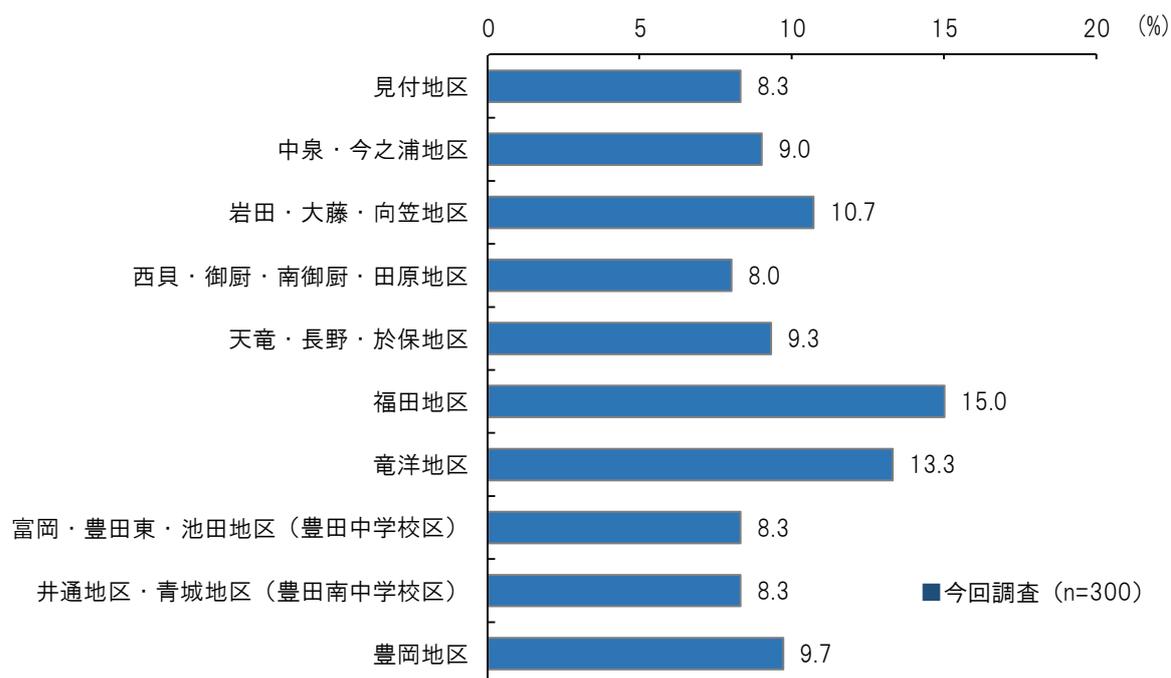
Ⅱ 調査の結果

1. 団体のことについて

(1) 団体の属する地域

問1 貴団体の属する地域をお答えください。〈○印を1つ〉

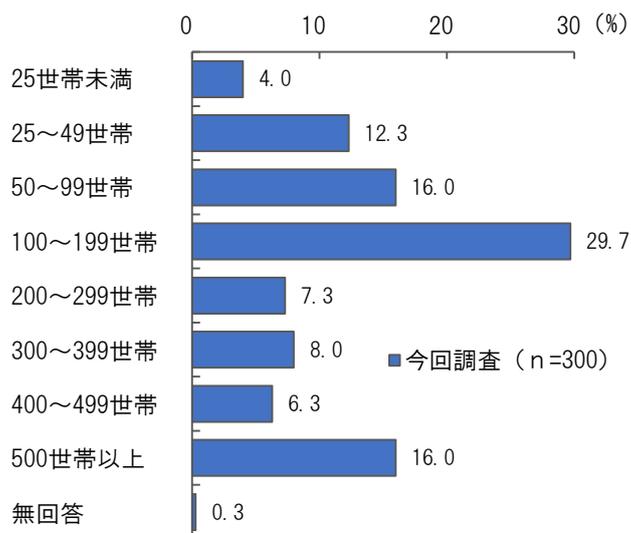
「福田地区」が15.0%と最も多く、次いで「竜洋地区」が13.3%、「岩田・大藤・向笠地区」が10.7%などとなっている。



(2) 団体の世帯数

問2 貴団体の世帯数をお答えください。〈○印を1つ〉

「100～199世帯」が29.7%と最も多く、次いで「50～99世帯」「500世帯以上」がともに16.0%、「25～49世帯」が12.3%などとなっている。



2. 地域（磐田市）の特性について

（1）団体が日頃活動する地域の強み（良い点、活かすべき点）

問3 貴団体が日頃活動されている地域の強み（良い点、活かすべき点）は何だと思えますか？
 <○印を3つまで>

地域の強み（良い点、活かすべき点）は、

- ・「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」
- ・「地域の連帯感・協力等」 ・「自然環境・地形」

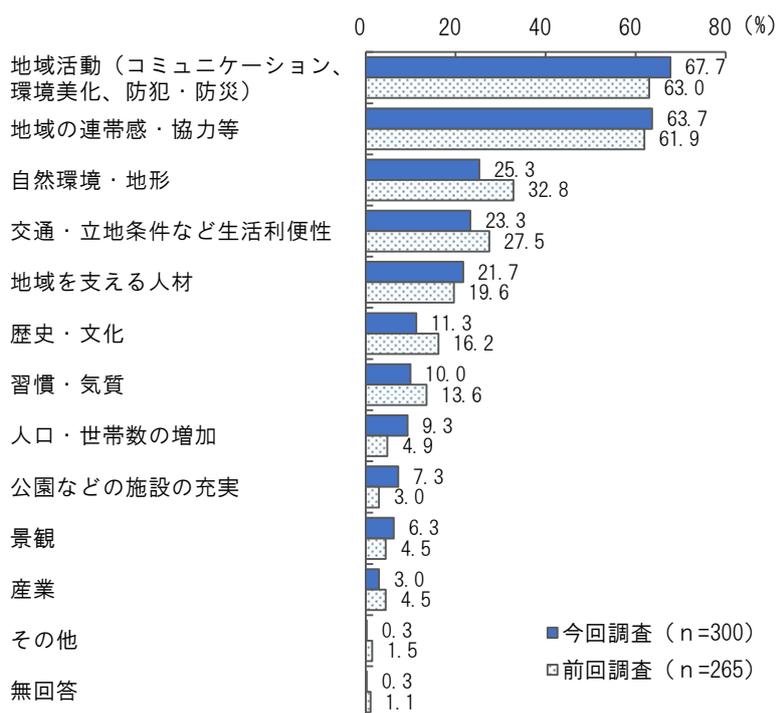
■前回調査と比較

「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」が4.7ポイント増加し、「自然環境・地形」が7.5ポイント減少している

■地域別の傾向

複数の地区で最も多い項目は、

- ・「地域の連帯感・協力等」
- ・「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」



■今回調査の結果

- ・「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」(67.7%) が最も多く、次いで「地域の連帯感・協力等」(63.7%)、「自然環境・地形」(25.3%) となっている。

■前回調査との比較

- ・「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」が4.7ポイント増加している。
- ・「自然環境・地形」が7.5ポイント、「交通・立地条件などの生活利便性」が4.2ポイント減少している。

■地域別の傾向

- ・複数の地区で最も多い項目は、「地域の連帯感・協力等」「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」となっている。

【地域別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
見付地区	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	歴史・文化	地域を支える人材	交通・立地条件など生活利便性
	団体割合	19団体 76.0%	18団体 72.0%	11団体 44.0%	7団体 28.0%	4団体 16.0%
中泉・今之浦地区	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	交通・立地条件など生活利便性	地域の連帯感・協力等	地域を支える人材	・自然環境・地形 ・公園などの施設の充実 ・人口・世帯数の増加
	団体割合	19団体 70.4%	16団体 59.3%	15団体 55.6%	6団体 22.2%	3団体 11.1%
岩田・大藤・向笠地区	強み	地域の連帯感・協力等	自然環境・地形	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	・地域を支える人材 ・習慣・気質	
	団体割合	22団体 68.8%	21団体 65.6%	15団体 46.9%	5団体 15.6%	
西貝・御厨・南御厨・田原地区	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	自然環境・地形	歴史・文化	交通・立地条件など生活利便性
	団体割合	19団体 79.2%	14団体 58.3%	7団体 29.2%	6団体 25.0%	5団体 20.8%
天竜・長野・於保地区	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	地域を支える人材	自然環境・地形	人口・世帯数の増加
	団体割合	19団体 67.9%	16団体 57.1%	10団体 35.7%	6団体 21.4%	4団体 14.3%
福田地区	強み	地域の連帯感・協力等	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	自然環境・地形	習慣・気質	地域を支える人材
	団体割合	31団体 68.9%	27団体 60.0%	14団体 31.1%	10団体 22.2%	8団体 17.8%
竜洋地区	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	地域を支える人材	交通・立地条件など生活利便性	・歴史・文化 ・公園などの施設の充実
	団体割合	33団体 82.5%	27団体 67.5%	11団体 27.5%	7団体 17.5%	6団体 15.0%
富岡・豊田東・池田地区	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	交通・立地条件など生活利便性	地域を支える人材	自然環境・地形
	団体割合	24団体 96.0%	16団体 64.0%	8団体 32.0%	7団体 28.0%	4団体 16.0%
井通地区・青城地区	強み	交通・立地条件など生活利便性	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	地域を支える人材	・自然環境・地形 ・歴史・文化 ・人口・世帯数の増加
	団体割合	16団体 64.0%	13団体 52.0%	12団体 48.0%	4団体 16.0%	3団体 12.0%
豊岡地区	強み	地域の連帯感・協力等	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	自然環境・地形	人口・世帯数の増加	・地域を支える人材 ・交通・立地条件など生活利便性 ・景観
	団体割合	20団体 69.0%	15団体 51.7%	12団体 41.4%	6団体 20.7%	4団体 13.8%

(2) 団体が日頃活動する地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）

問4 貴団体が日頃活動されている地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）は何だと思えますか？ <○印を3つまで>

地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）は、

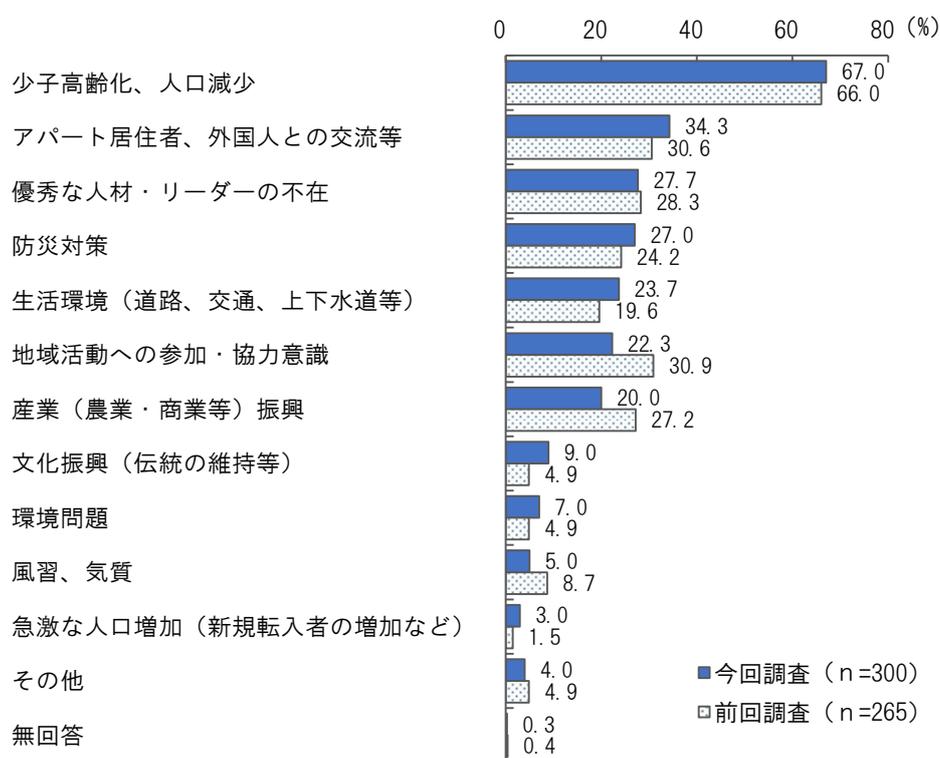
- ・「少子高齢化、人口減少」
- ・「アパート居住者、外国人との交流等」
- ・「優秀な人材・リーダーの不在」

■前回調査と比較

「生活環境（道路・交通・上下水道等）」「文化振興（伝統の維持等）」がそれぞれ4.1ポイント増加し、「地域活動への参加・協力意識」が8.6ポイント減少している

■地域別の傾向

すべての地区で、最も多い項目は、「少子高齢化、人口減少」



■今回調査の結果

- ・「少子高齢化、人口減少」（67.0%）が最も多く、次いで「アパート居住者、外国人との交流等」（34.3%）、「優秀な人材・リーダーの不在」（27.7%）となっている。

■前回調査との比較

- ・「生活環境（道路・交通・上下水道等）」「文化振興（伝統の維持等）」がそれぞれ4.1ポイント増加している。
- ・「地域活動への参加・協力意識」が8.6ポイント、「産業（農業・商業等）振興」が7.2ポイント減少している。

■地域別の傾向

- ・すべての地区で「少子高齢化、人口減少」が最も多い。

【地域別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
見付地区	弱み	少子高齢化、人口減少	アパート居住者、外国人との交流等	文化振興（伝統の維持等）	地域活動への参加・協力意識	優秀な人材・リーダーの不在
	団体割合	17団体 68.0%	9団体 36.0%	8団体 32.0%	6団体 24.0%	4団体 16.0%
中泉・今之浦地区	弱み	少子高齢化、人口減少	アパート居住者、外国人との交流等	優秀な人材・リーダーの不在	地域活動への参加・協力意識	防災対策
	団体割合	16団体 59.3%	13団体 48.1%	10団体 37.0%	9団体 33.3%	5団体 18.5%
岩田・大藤・向笠地区	弱み	少子高齢化、人口減少	産業（農業・商業等）振興	生活環境（道路、交通、上下水道等）	防災対策	風習、気質
	団体割合	25団体 78.1%	17団体 53.1%	14団体 43.8%	9団体 28.1%	5団体 15.6%
西貝・御厨・南御厨・田原地区	弱み	・アパート居住者、外国人との交流等 ・少子高齢化、人口減少		優秀な人材・リーダーの不在	・生活環境（道路、交通、上下水道等） ・防災対策	
	団体割合		11団体 45.8%	9団体 37.5%		6団体 25.0%
天竜・長野・於保地区	弱み	少子高齢化、人口減少	生活環境（道路、交通、上下水道等）	アパート居住者、外国人との交流等	防災対策	・地域活動への参加・協力意識 ・優秀な人材・リーダーの不在
	団体割合	14団体 50.0%	13団体 46.4%	12団体 42.9%	10団体 35.7%	7団体 25.0%
福田地区	弱み	少子高齢化、人口減少	・アパート居住者、外国人との交流等 ・優秀な人材・リーダーの不在		防災対策	地域活動への参加・協力意識
	団体割合	36団体 80.0%		16団体 35.6%	14団体 31.1%	12団体 26.7%
竜洋地区	弱み	少子高齢化、人口減少	アパート居住者、外国人との交流等	優秀な人材・リーダーの不在	防災対策	地域活動への参加・協力意識
	団体割合	28団体 70.0%	17団体 42.5%	14団体 35.0%	13団体 32.5%	9団体 22.5%
富岡・豊田東・池田地区	弱み	少子高齢化、人口減少	・アパート居住者、外国人との交流等 ・優秀な人材・リーダーの不在		地域活動への参加・協力意識	・生活環境（道路、交通、上下水道等） ・防災対策
	団体割合	16団体 64.0%		8団体 32.0%	5団体 20.0%	4団体 16.0%
井通地区・青城地区	弱み	少子高齢化、人口減少	アパート居住者、外国人との交流等	地域活動への参加・協力意識	産業（農業・商業等）振興	・生活環境（道路、交通、上下水道等） ・防災対策
	団体割合	16団体 64.0%	12団体 48.0%	7団体 28.0%	6団体 24.0%	5団体 20.0%
豊岡地区	弱み	少子高齢化、人口減少	防災対策	生活環境（道路、交通、上下水道等）	優秀な人材・リーダーの不在	産業（農業・商業等）振興
	団体割合	22団体 75.9%	12団体 41.4%	10団体 34.5%	8団体 27.6%	5団体 17.2%

3. 磐田市の今後の取り組みについて

(1) 磐田市総合計画の基本施策のうち、特に重要である・優先すべきと思うもの

問5 磐田市では、総合計画において31の基本施策に取り組んでいます。今後の取り組みとして、特に重要であると思うもの、優先すべきと思うものはどれですか？5つまで選んで、優先度の高い順にその取り組みの番号を記入してください。

「特に重要・優先すべき」基本施策は、

- ・「危機管理・防災対策の推進」
- ・「高齢者福祉の充実」
- ・「地域医療体制の充実」

■地域別の傾向

複数の地区で最も多い項目は、

- ・「高齢者福祉の充実」
- ・「危機管理・防災対策の推進」

■今回調査の結果

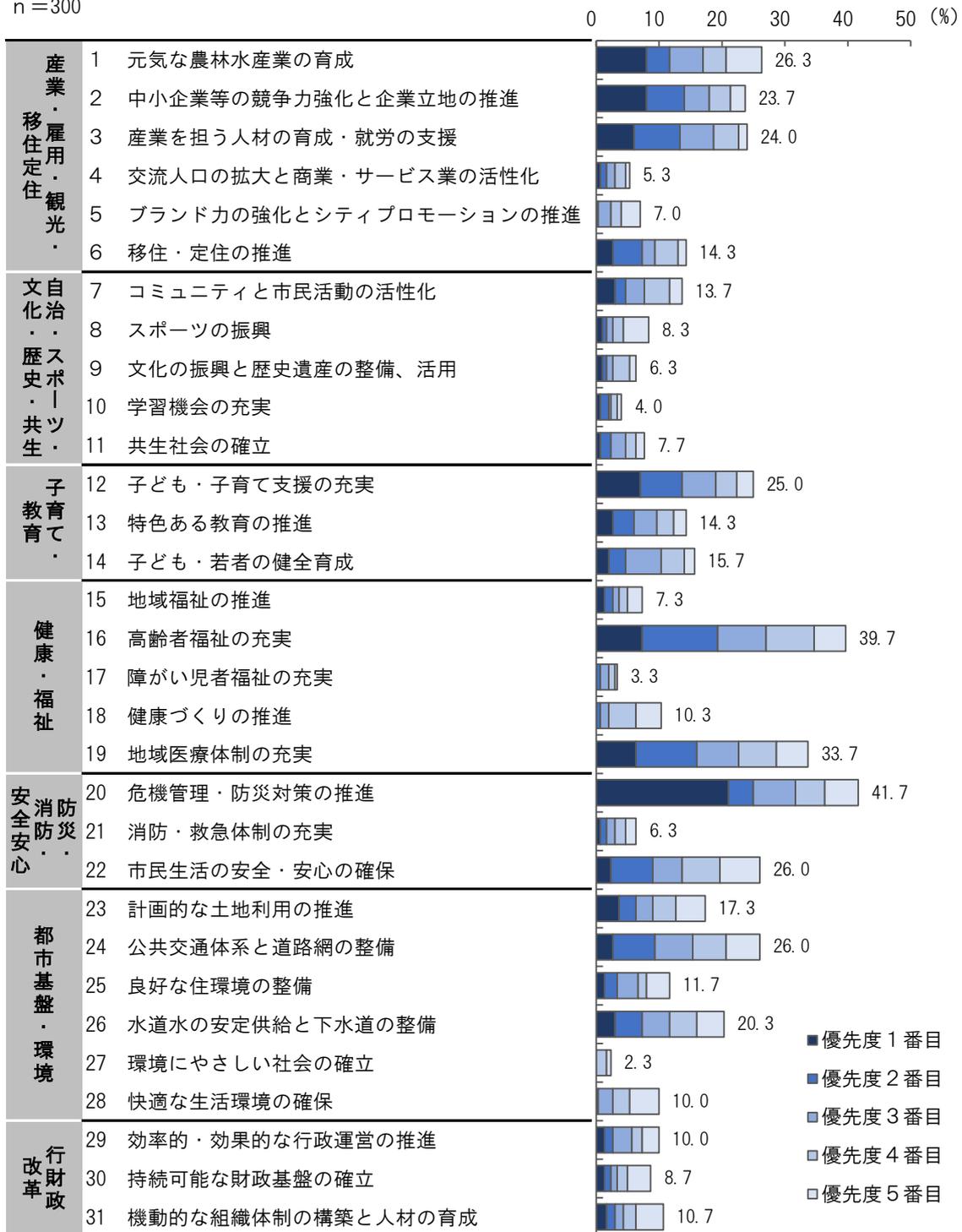
- ・「危機管理・防災対策の推進」(41.7%)が最も多く、次いで「高齢者福祉の充実」(39.7%)、「地域医療体制の充実」(33.7%)となっている。

■地域別の傾向

- ・複数の地区で最も多い項目は、「高齢者福祉の充実」「危機管理・防災対策の推進」となっている。

■優先度1番目～5番目の合計

n = 300



無回答を除いて掲載している。

【地域別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
見付地区	重要	高齢者福祉の充実	子ども・子育て支援の充実	公共交通体系と道路網の整備	地域医療体制の充実	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・危機管理・防災対策の推進
	団体割合	13団体 52.0%	11団体 44.0%	10団体 40.0%	8団体 32.0%	7団体 28.0%
中泉・今之浦地区	重要	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・危機管理・防災対策の推進 ・良好な住環境の整備			・高齢者福祉の充実 ・地域医療体制の充実	
	団体割合	10団体 37.0%			8団体 29.6%	
岩田・大藤・向笠地区	重要	元気な農林水産業の育成	高齢者福祉の充実	危機管理・防災対策の推進	・地域医療体制の充実 ・計画的な土地利用の推進	
	団体割合	16団体 50.0%	14団体 43.8%	12団体 37.5%	10団体 31.3%	
西貝・御厨・南御厨・田原地区	重要	公共交通体系と道路網の整備	危機管理・防災対策の推進	・高齢者福祉の充実 ・地域医療体制の充実		・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・子ども・子育て支援の充実
	団体割合	11団体 45.8%	9団体 37.5%	8団体 33.3%		7団体 29.2%
天竜・長野・於保地区	重要	高齢者福祉の充実	・危機管理・防災対策の推進 ・市民生活の安全・安心の確保		・元気な農林水産業の育成 ・子ども・子育て支援の充実	
	団体割合	13団体 46.4%	11団体 39.3%		9団体 32.1%	
福田地区	重要	危機管理・防災対策の推進	市民生活の安全・安心の確保	・高齢者福祉の充実 ・公共交通体系と道路網の整備		地域医療体制の充実
	団体割合	31団体 68.9%	18団体 40.0%	16団体 35.6%		15団体 33.3%
竜洋地区	重要	・地域医療体制の充実 ・危機管理・防災対策の推進		高齢者福祉の充実	・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・市民生活の安全・安心の確保	
	団体割合	18団体 45.0%		16団体 40.0%	11団体 27.5%	
富岡・豊田東・池田地区	重要	水道水の安定供給と下水道の整備	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・地域医療体制の充実 ・危機管理・防災対策の推進			・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・高齢者福祉の充実 ・計画的な土地利用の推進
	団体割合	9団体 36.0%	8団体 32.0%			6団体 24.0%
井通地区・青城地区	重要	市民生活の安全・安心の確保	・子ども・子育て支援の充実 ・高齢者福祉の充実		・地域医療体制の充実 ・危機管理・防災対策の推進	
	団体割合	10団体 40.0%	9団体 36.0%		8団体 32.0%	
豊岡地区	重要	高齢者福祉の充実	・高齢者福祉の充実 ・地域医療体制の充実 ・危機管理・防災対策の推進			子ども・若者の健全育成
	団体割合	16団体 55.2%	11団体 37.9%			9団体 31.0%

このページは白紙です

(2) 磐田市総合計画の基本施策のうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うもの

問6 日本全体が人口減少局面を迎えているなか、磐田市では、2060年（令和42年）に総人口13万6千人を確保することを目指しています。（※2020年3月末人口：16万9,673人）総合計画における31の基本施策のうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うものはどれですか？5つまで選んで、その取り組みの番号を記入してください。

人口減少問題に対して特に重要な基本施策は、

- ・「子ども・子育て支援の充実」
- ・「移住・定住の推進」
- ・「産業を担う人材の育成・就労の支援」

■地域別の傾向

複数の地区で最も多い項目は、

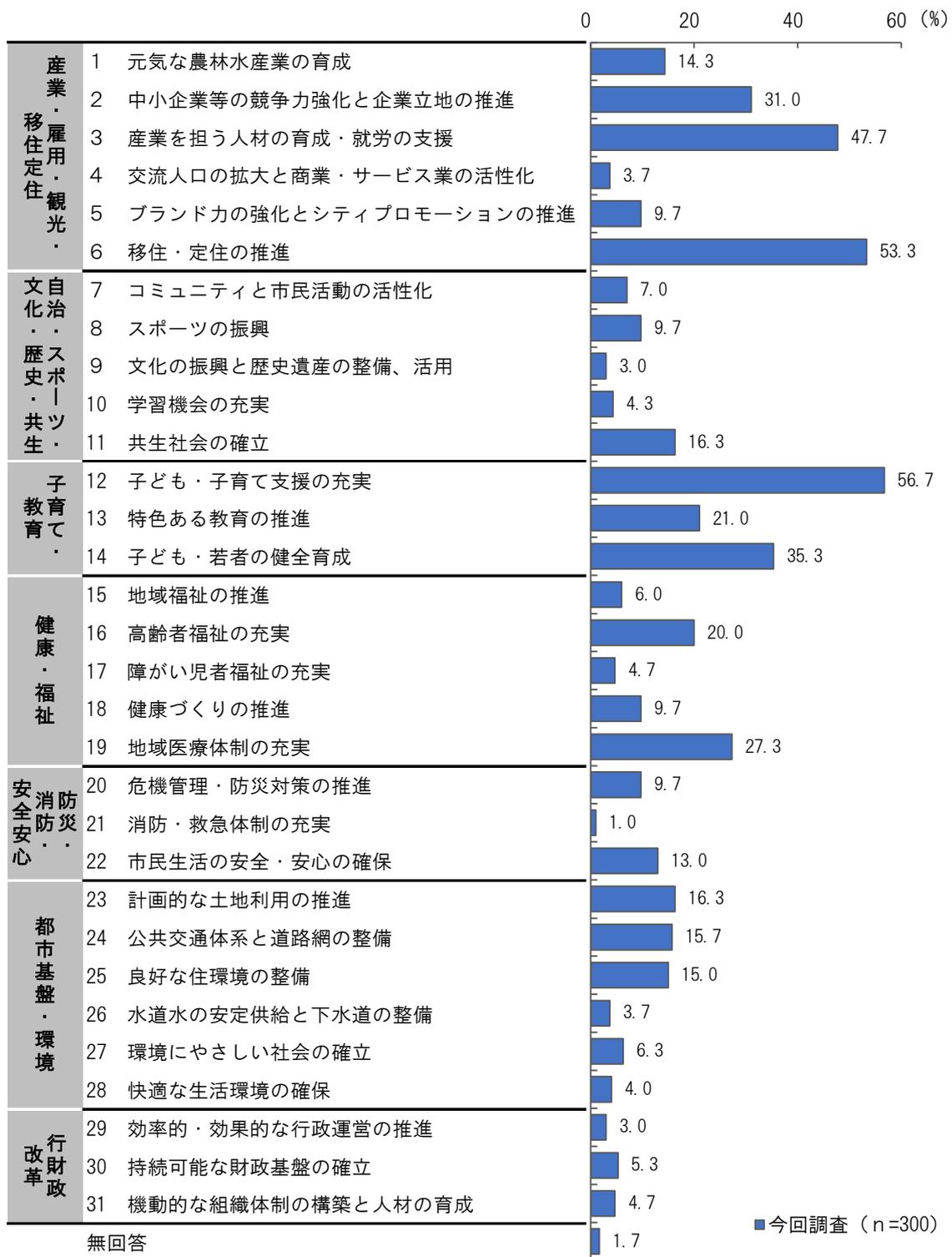
- ・「産業を担う人材の育成・就労の支援」
- ・「移住・定住の推進」
- ・「子ども・子育て支援の充実」

■今回調査の結果

- ・「子ども・子育て支援の充実」（56.7%）が最も多く、次いで「移住・定住の推進」（53.3%）、「産業を担う人材の育成・就労の支援」（47.7%）となっている。

■地域別の傾向

- ・複数の地区で最も多い項目は、「産業を担う人材の育成・就労の支援」「移住・定住の推進」「子ども・子育て支援の充実」となっている。



【地域別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
見付地区	重要	・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・移住・定住の推進 ・子ども・子育て支援の充実			子ども・若者の健全育成	地域医療体制の充実
	団体割合	12団体 48.0%			10団体 40.0%	8団体 32.0%
中泉・今之浦地区	重要	・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・子ども・子育て支援の充実		移住・定住の推進	・特色ある教育の推進 ・子ども・若者の健全育成	
	団体割合	14団体 51.9%		13団体 48.1%	9団体 33.3%	
岩田・大藤・向笠地区	重要	移住・定住の推進	産業を担う人材の育成・就労の支援	子ども・子育て支援の充実	計画的な土地利用の推進	地域医療体制の充実
	団体割合	22団体 68.8%	16団体 50.0%	15団体 46.9%	12団体 37.5%	11団体 34.4%
西貝・御厨・南御厨・田原地区	重要	・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・子ども・若者の健全育成		子ども・子育て支援の充実	移住・定住の推進	中小企業等の競争力強化と企業立地の推進
	団体割合	12団体 50.0%		11団体 45.8%	10団体 41.7%	9団体 37.5%
天竜・長野・於保地区	重要	産業を担う人材の育成・就労の支援	子ども・子育て支援の充実	移住・定住の推進	中小企業等の競争力強化と企業立地の推進	子ども・若者の健全育成
	団体割合	18団体 64.3%	16団体 57.1%	13団体 46.4%	12団体 42.9%	10団体 35.7%
福田地区	重要	子ども・子育て支援の充実	移住・定住の推進	・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・子ども・若者の健全育成		中小企業等の競争力強化と企業立地の推進
	団体割合	33団体 73.3%	21団体 46.7%	20団体 44.4%		17団体 37.8%
竜洋地区	重要	子ども・子育て支援の充実	移住・定住の推進	産業を担う人材の育成・就労の支援	地域医療体制の充実	中小企業等の競争力強化と企業立地の推進
	団体割合	23団体 57.5%	21団体 52.5%	17団体 42.5%	13団体 32.5%	12団体 30.0%
富岡・豊田東・池田地区	重要	子ども・子育て支援の充実	移住・定住の推進	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・子ども・若者の健全育成		高齢者福祉の充実
	団体割合	19団体 76.0%	12団体 48.0%	9団体 36.0%		8団体 32.0%
井通地区・青城地区	重要	移住・定住の推進	産業を担う人材の育成・就労の支援	子ども・子育て支援の充実	・高齢者福祉の充実 ・地域医療体制の充実	
	団体割合	19団体 76.0%	12団体 48.0%	10団体 40.0%	9団体 36.0%	
豊岡地区	重要	・移住・定住の推進 ・子ども・子育て支援の充実		産業を担う人材の育成・就労の支援	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・子ども・若者の健全育成	
	団体割合	17団体 58.6%		16団体 55.2%	10団体 34.5%	

このページは白紙です

4. 地域活動について

(1) 団体が活動をする上での問題点

問7 貴団体が活動をする上での問題点は何ですか？ <○印を3つまで>

活動するうえでの問題点は、

- ・「役員のなり手が少ない、又は調整が難しい」
- ・「高齢化が進み、若い人の参加が少ない」
- ・「活動に伴う役員の責任が重い」

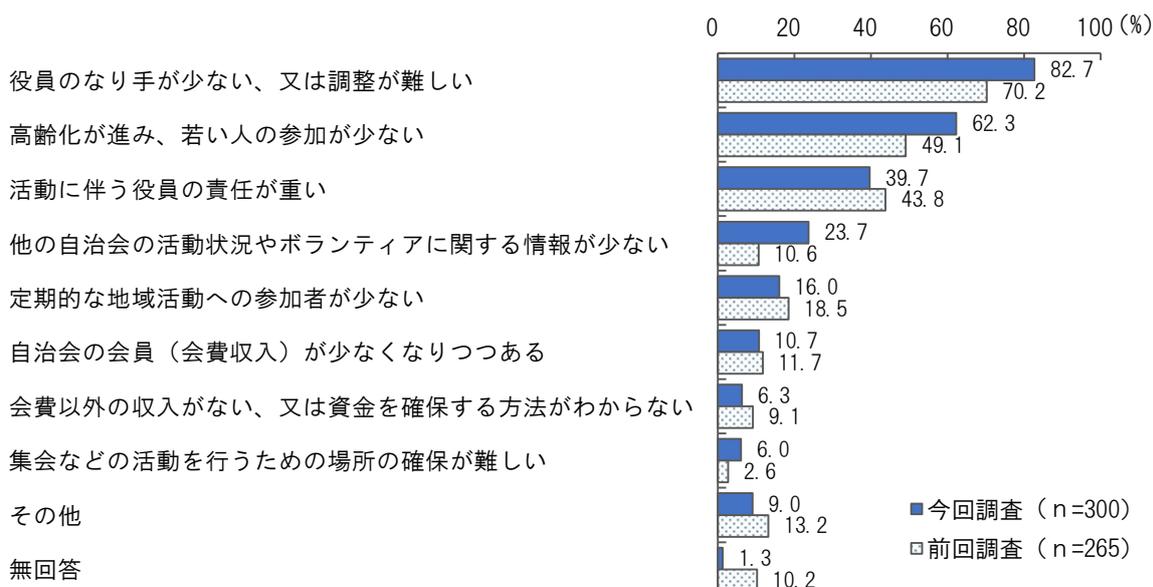
■前回調査との比較

回答が多い上位3項目は、前回調査と同じ

■地域別の傾向

複数の地区で最も多い項目は、

- ・「役員のなり手が少ない、又は調整が難しい」



■今回調査の結果

- ・「役員のなり手が少ない、又は調整が難しい」(82.7%)が最も多く、次いで「高齢化が進み、若い人の参加が少ない」(62.3%)、「活動に伴う役員の責任が重い」(39.7%)となっている。

■前回調査との比較

- ・「役員のなり手が少ない、又は調整が難しい」「高齢化が進み、若い人の参加が少ない」「他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない」が増加している。
- ・「活動に伴う役員の責任が重い」が減少している。
- ・回答が多い上位3項目は前回調査と同じである。

■地域別の傾向

- ・複数の地区で最も多い項目は、「役員のなり手が少ない、又は調整が難しい」となっている。

【地域別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
見付地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	定期的な地域活動 への参加者が少ない	自治会の会員（会費収入）が少なくなりつつある
	団体 割合	20 団体 80.0%	13 団体 52.0%	10 団体 40.0%	5 団体 20.0%	4 団体 16.0%
中泉・ 今之浦 地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	定期的な地域活動への参加者が少ない
	団体 割合	26 団体 96.3%	14 団体 51.9%	11 団体 40.7%	7 団体 25.9%	3 団体 11.1%
岩田・ 大藤・ 向笠地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	・自治会の会員（会費収入）が少なくなりつつある ・集会などの活動を行うための場所の確保が難しい	
	団体 割合	27 団体 84.4%	24 団体 75.0%	17 団体 53.1%		3 団体 9.4%
西貝・ 御厨・ 南御厨・ 田原地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	定期的な地域活動への参加者が少ない
	団体 割合	18 団体 75.0%	15 団体 62.5%	10 団体 41.7%	6 団体 25.0%	5 団体 20.8%
天竜・ 長野・ 於保地区	問題点	・役員のなり手が少ない、又は調整が難しい ・高齢化が進み、若い人の参加が少ない		活動に伴う役員 の責任が重い	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	自治会の会員（会費収入）が少なくなりつつある
	団体 割合		22 団体 78.6%	8 団体 28.6%	7 団体 25.0%	5 団体 17.9%
福田地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	定期的な地域活動への参加者が少ない	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない
	団体 割合	36 団体 80.0%	33 団体 73.3%	17 団体 37.8%	13 団体 28.9%	9 団体 20.0%
竜洋地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	定期的な地域活動への参加者が少ない
	団体 割合	35 団体 87.5%	28 団体 70.0%	13 団体 32.5%	12 団体 30.0%	5 団体 12.5%
富岡・ 豊田東・ 池田地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	定期的な地域活動への参加者が少ない
	団体 割合	21 団体 84.0%	14 団体 56.0%	9 団体 36.0%	5 団体 20.0%	3 団体 12.0%
井通地区・ 青城地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	活動に伴う役員 の責任が重い	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	定期的な地域活動への参加者が少ない	高齢化が進み、若い人の参加が少ない
	団体 割合	23 団体 92.0%	14 団体 56.0%	12 団体 48.0%	7 団体 28.0%	6 団体 24.0%
豊岡地区	問題点	役員のなり手が少ない、又は調整が難しい	高齢化が進み、若い人の参加が少ない	活動に伴う役員 の責任が重い	他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない	・自治会の会員（会費収入）が少なくなりつつある ・会費以外の収入がない、又は資金を確保する方法がわからない
	団体 割合	20 団体 69.0%	18 団体 62.1%	11 団体 37.9%	8 団体 27.6%	3 団体 10.3%

(2) 現在、取り組んでいること

問8 貴団体の活動において、工夫していることがありましたら、ご紹介ください。また、今後取り組みたいと思っていることもお教えください。

■見付地区

- 少世帯なのでできるだけ均一に情報を流し、また受け入れている。
- 災害時における各世帯の状況を把握し、いざという時のための各世帯の情報を集約して備えている。
- 公会堂の有効活用
- アパート、マンション内の入居者名簿をオーナー様よりいただいておりますので、入居者との顔と顔のつながりを大切にして、オーナー様に会員費用の整合性をお願いしております。
- 自治会役員をアパート、マンション入居者をお願いしています。来年度自治会役員もお願いする予定です。
- 高齢者の活性を図るためグラウンドゴルフ、百歳体操、史跡探訪などを行っている。
- 活動に理解を深めていただくために、広い人達に役員になってもらう。
- 祭典、運動会など町民全員が参加できるイベントの開催
- 公園草刈りなどのボランティアを募集し、コミュニケーションの活性化
- 共有施設の美化改善。集会場の環境変化により、会員の心を自治会と一体化推進。
- 情報伝達、開示の改善。プレゼンテーション化でペーパーレス推進を図っている。
- 役選方法の改善。年齢基準にて重役人選を図っている（副会長、福祉員、民生など）。
- 自治会長の任期。単年だけでなく複数年数の推進。
- 自治会アンケート集約による相互の連携を図る。
- 女性の参加。女性消防隊の結成に向けての活動
- ゆるママサークル（子育て世代）を通じて幅広い世代の自治会活動の輪を広げる。
- 年4回の町内イベントの実施（本年はコロナで中止が多い）
- 町内組織との連携（青年会、子ども会、高齢者団体）
- 地域づくり4役会の開催（自治会3役、社協会長、福祉課長、民児協会長、センター長、市応援課、社協職員で）、地区内の問題点を話し合い、議事録を作成
- 社協の生活応援クラブの支援、6月度は11件、掃除3件、草刈り8件
- お年寄り・子どもの食堂と見付寺子屋教室の実施、支援
- 案件決定事項は三役理事で話し合い、全世帯に報告している。
- 「安心安全、快適をテーマ」この地域に住んで良かった、住めて良かったと思われる取り組みを行っている。
- 幼児、子ども、高齢者毎にグループ活動を毎月実施、子どもから高齢者までにやさしいまちづくり
- 毎月1回地域の行事を行っている。また日々子ども見守り隊、きれいにし隊（美化）防犯パトロール巡回等活動を徹底している。
- 自治会組織は3役以外に、環境衛生、防災、祭典、祭事、交通安全、防犯、体育、民生・福祉、広報の専門理事を置き、活動している。
- 町民間のコミュニケーションをとるために、年3回ほどイベントを開催している。
- 子ども会のラジオ体操の時に高齢者にも呼びかけ、一緒に行く。
- 資源ごみ回収で自主財源の確保
- 公会堂建て替えの委員会設立
- 防災、防犯対策に重点を置き、要支援者支援に力を入れている。
- 民生委員、福祉委員と自治会役員、防災委員との交流を密にして、安全で安心して住めるまちづくりに努めている。

■中泉・今之浦地区

- 数年後に役の約束をすること
- 現在の役員に継続を依頼すること
- 女性に出てきてもらう（役に就いてもらう）。
- 防災訓練等に出てきた人（顔が合った時）に必ず声を掛ける。
- 防災知識の徹底（東日本大震災時の津波トラウマで逃げる意識が強い）
- ハザードマップの理解徹底
- 災害時の「要支援者体制」の確立
- 趣味の会の充実
- 今年7月より小地域ネットワーク活動（福祉）の会を発足し活動し始めた。
- サロン等役員が少なく、組長さんへ依頼するが人数が揃わない。
- 防災活動、防犯記録（青少年健全育成）
- 無電柱化、賑わいづくり
- 廃品回収（分別、記名の徹底）
- 府八幡宮祭典、山車の大修繕計画
- 中核になる人は、収入のない（手当のみ）ボランティアでは今後運営は難しい。パート並みの手当にする。
- 募金活動要請の対応はシンプルにする。組長が高齢で集金に大変苦労している。
- 核家族化が進む中、自治会内での付き合い、コミュニケーション充実を図るための活動（自治会主催の旅行、自治会新年会、夏祭り）
- ふれあいサロン（毎月1回）、100歳体操（毎週1回）
- 過去の習慣、風習などからそのまま何となく続いている活動を見直し、自治会活動としてやるべきことの選択と集中化
- 町内初盆の案内廃止、各組内における各種役員の兼任容認、ゴミ出し立会い当番の負担削減
- 新型コロナウイルスのため通常の活動ができないので、自治会員の皆さんに説明責任を果たすよう努めています。
- 地域の皆さんのご意見に丁寧に対応するよう努めています。
- 多くの町民が知り合いになるための行事
- 行事を支えるボランティア、各種委員に気持ちよく参加してもらう。
- 可能な限り情報をオープンに。
- 少人口の町内ですので、今は現役役員で一生懸命やるしかないと思っています。
- 高齢者の集会はかなり活発である。
- 自治会役員や委員とは、対面による情報伝達や相談（意見交換）を頻繁に実施している。
- 自治会運営上の情報を分かりやすく表示、回覧して町民の理解を得るようにしている。
- 防災訓練などは、小学生から大人までが楽しく活動できるメニューを構築している。
- 民生児童委員や福祉委員以外にも、独居老人の隣家が見守りをしている。
- 国、県、市などの施策の変化に対応するための活動対応
- 地区の活動と自治会活動の効果的連携
- 地域づくり協議会活動の軌道乗せ
- 市とのコミュニケーションを多くする（情報交換）。
- 安久路川堤防を遊歩道にすること
- 新しい所帯者に対して1～2か月後に訪問し、何か問題点がないか粗品を持って回っている。
- 学区が2つに分かれているので、両方の親子のふれあいの場を作る。

- 公園を利用しての活動をどうするか。
- てまり会を通して高齢者に多く参加してもらえるように工夫
- 女性だけの会議（三役と年齢が違う色々な方）
- 自治会でホームページを作成した。
- 女性の参加を促すため、女子会を開催している。
- レクリエーションを実施（バス旅行、BBQなど）

■岩田・大藤・向笠地区

- 役員の選出については年齢順を原則として、必要以上に時間をかけないようにして協力してもらっています。
- 地区住民数が年々減少傾向のため、自治会長、副自治会長に関しては何年か先まで決めて、それまで勉強してもらうよう何らかの役に就けている。
- 全て役員などは年齢順で選出している。
- 地域の「不便」を解決する（道路補修、荒地の草刈りなど）。
- 高齢化のため相互補助できる自治会へ。
- 不法投棄の撲滅
- 地域環境美化
- 組織及び事業の見直し。自治会負担減、役員及び事業の整理、統合など。
- 地域に必要とされる、親しまれる協議会の構築
- 福祉事業の充実
- 年代による役員選出から組回りで役員選出をする方法に変更した。
- 協議会の組織団体で地区社協に属している「みんなの会」の月例活動が、福祉（高齢と幼児）重点に積極的である。
- 県のふじのくに緑活動を行うか検討中
- 少子高齢化の伴う活動内容の見直し
- 誰でもが気軽に役員を引き受けられるように、自治会活動の見直し、検討を行い、業務の縮小を進めている。
- これまで定例会を毎月1回、できるだけ多くの家庭からの参加により開催することを心掛けてきた。しかしそれがコロナで難しくなってしまった。
- ブロック分け、役員（自治会長等）の選挙にして決定している。
- 小学校、こども園、ボランティアと連携したリフレッシュ活動
- 小学生、こども園児、中学生ボランティアも参加する社協夏祭り
- 岩田地区文化祭、敬老会の実施
- 若い人達（祭りの若連）が中心となって「夏祭り」を企画、運営
- 人材の発掘、育成
- LINEを利用した情報伝達、情報共有
- 2年先までの役員の目安を決めている。
- 公会堂と駐車場の建設計画
- 自治会選出方法の検討
- 若い人が参加しやすい体制づくり
- 自治会費の見直し
- 数年後までの自治会役員予定表を作り、各自ある程度覚悟してもらう。
- 必要でない会議は極力減らす。
- 公会堂の不要なもの、不要な書類の処分

- 高齢者の負担軽減
- 自治会長の負担軽減。衛生委員は別の人がやる。

■西貝・御厨・南御厨・田原地区

- 公会堂防虫対策
- 小中高、登校の見守り
- 新入会者への説明等
- 高齢者スポーツ参加（グラウンドゴルフ、ボッチャ、体操等）
- 新転入者への自治会活動関係の説明書作成、配布
- 地域づくり活動やイベントに小中学生の参加要請
- イベントを通じて地域特性を勉強する（ボランティアの活動内容）。
- 民生委員との協働活動（高齢者弁当を配達時、安否確認）
- 組織改革、役員の負担軽減（分担）
- 広報（自治会だより、定期発刊、回覧、掲示）
- 若手役員の養成（評議員として自治会参加企画）
- 定年延長に伴い会社と地域活動を両立するのが難しくなっているため、なるべく 65 歳以上の方が役員となるように探している。
- 環境美化活動
- 人材育成
- 地域安全のための防犯パトロール、小学校低学年の交通安全見守り、町内の環境美化活動パトロール等を通じて、互いの定期的な顔合わせ。会話が生まれコミュニティ形成となる。
- 自治会関係、施設、備品の老朽化へ対応するため、自治会費の一部を積み立てることの検討
- 自治会活動において役員の協力性が足りない（コロナの発生によるものか？）。
- 事業、イベント等への幅広い年齢層の参加呼びかけ
- 作業、行事準備等の短時間完了による負担軽減
- 熱心な有志のリーダーがいて、公園の除草作業は定期的に有志で実施している。
- 資源回収に有志で計画的に実施している。
- 地域づくり協議会での情報交換
- 高齢者の活動は活発であり、そのための場所の確保
- 年 2 回の祭りで子ども達の場を設け予算化している。
- 定年 70 歳に向けて会長職も 70 歳に近づけている。
- 4 か所あるゴミ収集所、今まで 2 名でしたが 4 名に増やし、特に 4 月・5 月に監視指導
- 公会堂内に事務局室を設けた。
- 個人主義の多い団体にて、どのようにコミュニケーションをとっていけば良いのかさえ分からない。
- お年寄りの人々を月 1 回公会堂に集合していただき、楽しめるような催し物を行っている。

■天竜・長野・於保地区

- 役員（三役、専門部長）は年齢順に選出する。
- 原則、何らかの役を必ず行う。
- コロナ禍で活動中止が多く、特になし。
- 水害対策

- アパートマンション問題
- 高齢化社会への対応
- 自治体のシンプル化
- 自治会活動が年度ごとで、ある意味完結している状況からの脱去
- 法人や集合住宅管理会社とのコミュニケーション拡大
- 役員の負担軽減
- 公民館（集会施設）の避難所として開設（洪水対策）
- ゴミ収集場の移転
- 草刈り等において、高齢者には体力の面で軽作業をしてもらうようにしている。
- 自治会の次年度の役員決めはあらかじめレールを敷いてある（理事→副会長→会長）。
- 理事、副会長はそれぞれ複数人いるので、この中で筆頭者を決めておく。この者が上へあがるシステム。
- 祭典など老若男女参加型のイベントの活性化
- 長野地区の近隣自治会とのイベント交流
- 地区内でイベントや趣味活動を通して活発にコミュニケーションを図る。
- 他地区との交流を図る（カラオケや碁、将棋等各地区での大会）。
- ふれあいサロンを通してお年寄り向け体操を活発に。
- 続けてきた活動を継承したいが、コロナでことごとく見直しで縮小している。
- 情報の見える化
- 役員等の発信機会の活性化
- LINEを使った連絡。主に訃報。
- プロジェクターを使った会議
- 祭り、イベントをまとめる企画・運営組織があり、子ども会、若者、中年、老年を含めて運営している。
- 家庭の日委員会と祭典実行委員会がある。
- 地域づくり協議会と自治会活動で協力してもらえるようにしている。今まで自治会活動で行ってきたものを地域づくり協議会で行うことを多くしているが、経費についても自治会の協議費から支援を行っている。
- 各活動拠点を1か所に統合し、地域づくり協議会、自治会活動の情報を正確、迅速に対応していきたい。
- ボランティアによる参加高齢者の送迎
- 会員同士の交流を深める（満腹グルメ、敬老会時の美術展示）。
- 防犯（小学生の見守り隊ボランティア）
- 持続性のあるイベント、行事ができるようにする。
- 世帯問題についてルール化を目指している。

■福田地区

- 自治会長の若年齢化が進むため、他の自治会での運営方法を聞きながら対応案を練っているところです。
- 自治会組織編成
- 自治会事業への参加は特に問題なく、全戸が参加してくれて特別な工夫は必要としていない。
- 子ども会を中心とした納涼祭の実施
- 自治会役員の仕事の分担、軽減のために自治会長経験者を相談役として配置した。
- 役員の交替の制度化見直しと任期2年の定着化
- 自治会活動の見える化（広報活動の強化）
- 業務が自治会長に集中しないよう各役員に分散化

- 自治会独自の広報を毎月2回発行
- 高齢化がネックとなり、少ない世帯で役員をやりくりしている。
- 行政の広報を広げるように案内を別途作成、回覧や掲示板表示
- 地域の歴史を再確認するため毎年「ふるさと歴史ウォーク」を開催している。
- 環境活動の一環として河川クリーンアップ作戦と海岸一斉清掃を実施している。河川クリーンアップ作戦は18年間、海岸一斉清掃は38年間継続している。
- 青少年健全育成の一環として、40年以上にわたり子ども対象の写生大会を実施している。
- 子ども達の環境意識の向上を図るため、毎年ウミガメ放流会と海岸清掃活動を実施している。
- 副自治会長を経験後、自治会長に就任
- LINEやSNSを使ったオンラインによる情報展開
- 各種イベントの実施
- 役員の仕事内容をマニュアル化して分かりやすくする。
- 自治会活動を継続的に続けていくための仕組みづくり
- 情報を見える化して具体的に伝える。
- 掲示板の空きスペースを利用し、自治会員への連絡方法の強化
- 役員による自発的な声掛けや防犯パトロールの実施
- 来年度より役員の年齢を上げる。
- 地域美化運動、道路脇の除草等
- 地域見守り。自転車で地域内を巡回する。
- 高齢者に対する支援
- 役員の若年齢化対策
- 小規模の自治体なので老人会はなく、3つの自治体が共同でサロン活動を行っている。会員を増やすため、サロンの行事予定を回覧板で回して加入を呼び掛けている。高齢者の活動を活発にしようとしている。
- 暑い時期の草刈りを一部業者やシルバーに委託
- 高齢者の買い物支援のため、農協支所でのJAファーマーズマーケットや出張販売の支援、協力
- 役員への連絡をメールやLINEを活用
- 健康寿命延伸のため、民生委員と協力し100歳体操の参加者勧誘
- 地域の安全、安心を確保するため、見守りボランティア参加啓蒙
- 早い段階から役員の人選を始める。
- 自治会連合会と地域づくり協議会は早く統合する（遅い！）。
- 行政と自治会、地域づくり協議会の連絡をメールで行うこと。エコと言いながら行政は紙での通知。メール希望者にはメールで配信せよ。
- 防犯に関してできるだけ目を常に見張る。
- 8050世帯で50が自治会に出でこないので、運営委員会を作って勧誘。
- 新加入者の勧誘に何回も行って加入してもらっているが、強引では？市で住民票手続きの時に加入させてほしい。建売り業者等に業務付け条例とか。
- 行政、公益団体等との協働による遊歩道維持管理
- 青パト、見守りボランティア
- 防災活動（事前防災）
- 高齢者の温かな見守り
- 文化活性化活動
- 回覧などを通して必要な情報がきちんと伝わるようにしている。

- 公民館建設のための積み立て、無駄な出費をしないようにしている。
- 自治会員数が少人数のため、自治会員任期を複数年お願いしている。
- 自治会員皆が楽しめるイベントを催す。
- 自治会長の年齢が 50 代と低年齢となり、数年前より 1 人で三役をするようにした。今では自治会長が 60 代になった。

■竜洋地区

- 通学路の安全確保（道路整備依頼や見通し悪い樹木伐採）
- 地区内の面積が広大であるため、防犯上の問題はないかパトロール実施
- 地区内の不法投棄パトロール。既に今年は 7 件警察依頼した。
- 地区内の見通し悪い交差点の草刈り実施
- 防災訓練や草刈り等には積極的に参加してくれるので、不参加負担金の制度を実行していない。
- 今年はコロナの影響でできなかったが、春と秋にコミュニケーションの場を設けています。
- 自治会規約が都度改定されているが、改訂版が不明確。
- 自治会活動の引継ぎ内容を確認している。
- 活動内容の電子フォルダ化を強化したい。
- 少子化の影響もあり、各組の人員が少なくなり、役員進出に影響が出始めた。
- 一部の組を合体させ、2 組から 1 名の役員進出に更新することを進める。
- 役員の数は減るが、担当業務内容を割り振り対応する予定
- 環境美化活動、区民全員参加による清掃活動
- 自治会祭典による新旧区民のふれあい
- ゴールドクラブによる神社、公民館等の奉仕作業
- ゴミ集積所の役員による鍵当番
- 公会堂の新築計画に取り組んでいる。令和 5 年完成予定。
- 現在順番制をとっている自治会長の若年化が顕著になってきたので、その対策として、過去の自治会長経験者に再登板してもらい、その他の役員も複数年担当してもらおう計画表を概ね 10 年先まで作成して各自承認、自覚してもらえるようにした。
- 全員参加の地域の祭り
- 全員参加のイベント等（BBQ、餅つき、年越し）
- 周囲とのコミュニケーション
- 役員の輪番制の再構築
- 草刈り面積、10 年で半減
- 情報発信と公開。活動に関する内容の全てを定期的に流し、関心の維持に努めている。
- コミュニケーション力の強化。一方通行ではなく相互通行になるように問いかけ。「あなたならこの問題をどう考えますか？」と問いかけ、検討する。
- サービス力の強化。身近な困りごと等、大小に関わらず班長会で吸い上げ申請等を通して解決するように動いている。
- 非常食のアルファ米をやめ、小袋に入ったレトルトタイプに変えた。
- 炊き出し等も減らし、口に入るものに素人は手を出さない、ということにしている。
- 昔から住民の移動が少ないので、各世帯の状況などは比較的近隣住民が周知している。
- 協議に地域のあらゆる団体に入会していただき、共通の情報を持ち、地域に広めていきたい。

- アンケート作成して部落の人々の関心を集める。
- 地区内の整備（花壇など）
- 自治会会合への会員8割以上の参加
- 毎月第一土曜日は夜間パトロール実施
- 若者が少ないため、祭典への参加を自治会外から募集。その結果として、責任者を自治会外の人間がやることになった。
- 年3回、高齢者と若者の交流イベントなどを実施（津島神社、BBQ、祭典）
- 定例で行う行事も内容を少しずつ変えていく。
- 組対抗で順位を付けている。
- 外国人（ブラジル）の方とのコミュニケーション
- 自主防災意識が低いため、安否確認マニュアル、住民説明の実施
- 自治会での備蓄品確保
- 自主防災体制の強化
- 本屋、新屋、別々に自治会加入について（隣の場合）
- 独居高齢者のイベント免除、会費軽減
- 資源ごみ回収について。スチール、アルミの選別について混合しないようにしている。
- 資源ごみのトラック回収、及び設置時交通整理人は住民に手伝ってもらっている。

■富岡・豊田東・池田地区

- 活動内容の見える化
- 活動内容の見直し
- 役員の目的意識の共有化
- 作業の簡素化
- 排水路、除草剤散布（年5回程度）
- 通学路、歩道の除草
- 通学路、交差点3か所で旗振り
- 高齢者への福祉
- 町内の美化
- 自治会の防災、防犯
- 役員の役割の見直し
- 自治会員の声を素直に聞く。
- 現場を自分の目で見る。
- 率先垂範の行動をする（まだ不十分です）。
- 明るい笑顔で自治会の皆さんに接する。
- 生活応援クラブの充実
- 防災訓練の充実
- 防犯灯の設置
- 資源回収
- 会員名簿の作成
- 公会堂の新設
- 自治会活動専用PCに過去の回覧等の資料を保存、再利用をしやすいようにしている。

- PCが苦手な人でも自治会長が務まるようにしている。
- 会計担当のPCにはExcelを活用して帳簿が記帳できるようにしている。
- SNS利用
- 役員手当等は今のままで良いのか。
- 役員の仕事の軽減
- 戸数が少ないため、集会時は原則参加としている。
- 有線放送により、連絡等を行っている。
- 組長の意見を重点化
- 自治会長会議は毎月行っており、3密を考慮している。
- 今年度より部会長と自治会長の意思疎通を図るため合同会議を開催しています。
- 福祉事業配食サービス（75歳以上独居生活者）第2回実施
- 子ども対象イベント、ソーメン流し、地区居住者対象フェスタ開催、その他多数のイベント事業を実施している。
- 自治会役員を各組順番で出すようにしている。
- 何事も役員全員で行事を実行する。
- 河川愛護活動
- 地区中の排水路掃除
- 秋の祭典
- 地域のリーダーに、何かの節目ごとに今まで行った事業の良かったこと・悪かったことを書き出し、また次の目標を書いて皆で意見交換する。このことによって他のチームの状況を知ることができる。
- 当自治会では各活動分野のリーダーを通じて活動しており、年初に一年間の行事計画を全て立てている。
- 公園花壇の管理をボランティアに頼っていたが、毎月第2日曜日を公園花壇の日に指定して、誰でも参加できるようにした。
- 道路の舗装工事
- 防犯灯設置、LED可にする。
- ゴミ置小屋1台設置

■井通地区・青城地区

- 過去構築した良質な組織運営面の継続
- 課題解決に向けて磐田市担当部署との連携
- 地域コミュニティの強化
- 組織、人材の活用
- 必ず活動に参加してもらうために順番制を活用している。
- 外国人とアパートの人達のゴミの出し方、分別がなかなかできない。何度注意しても実行に至らない。
- 地域の連帯感を醸成するため、行き合った時の挨拶、会釈を推進
- 会を継続していだけで余裕なし。
- 今年は新型コロナウイルス対策で。様々な行事をどのような形で運営するのか、または中止延期するのか、その対応に追われています。
- 新型コロナの影響で活動できないのが現状。
- 感染抑止として公民館活用団体に対し、出席者確認
- 健康状態確認、非接触型体温計での検温実施
- 政府支給のマスク回収、有効利用

- 回覧物の仕分け、配布は自治会役員4名で、短時間で終わる。
- 防犯ステーション駐在を利用し、地域の行事のまとめ、情報交換の場としている。
- 今は自粛で活動ができない（役員会は実施）。
- 次期役員を決めるための方法検討
- 下校時の子どもの見守り活動
- 防犯啓発活動、市内小学校への防犯教育（あぶトレ）への参加
- 要請により防犯講座への参加（講師）
- ゴミ収集日を日曜日に行っている（プラ、缶、ペットボトルに限定）。
- ゴミ立ち合いを全世帯対象で当番制に行っている（アパート世帯も含める）。
- ゴミ当番表は半期ごとに作成、また月2回の回覧時に1か月分の当番順を載せる。
- 各部会との連携を持てるよう打合せを行っている。一体感を持った活動に。
- ボランティア活動（サロン関係）
- 自治会役員の負担軽減。次期役員の設置、協力を実施。
- 月1回広報誌を発行して、当自治会の現状や各活動の紹介や説明を行っている（本年度のみの取り組み）。
- 公会堂をどう維持管理するか、または新築するかが最大の課題になっている。評議員会の回数を増やして協議している。
- ゴミ分別が不十分で徹底
- 組長さんとの連絡
- 毎年新しい役員の方々と年間行事を共にしています。一人ひとりの個性を大事にして、良い点を早く見出し、協力をお願いしています。
- 取り組んでいることは名前を早く覚えること。会議において発言を促すこと。活動地域において最も必要なことはコミュニケーションの場づくり。言動については個々の接触を積極的に取り出すこと。そのような行動を進めています。
- 自治会長を決めるため、3つの地区に分けて（約100世帯）、ローテーションを組んで実施するが、自治会長を決めるのは大変。やる人がいない。
- 見守りボランティアの拡充（5人→8人）
- 青パト車による区内巡視活動
- 通学路の草刈り
- 生活排水路、河川美化活動

■豊岡地区

- 毎月第一週をあいさつ運動強化週間としている。
- 地域のコミュニケーション強化と、いざという時に助け合う地域づくり
- 大災害はいつ起こるか分からない。そのため発生時の避難所としての公会堂にし、仮設トイレ、マスク、生理用品等、女性の声を活かした備蓄品の購入を進めている。
- 役員同士がメール登録し、常に情報交換し自治会運営にあたっている。
- 公会堂の修繕費（外壁塗装）を400万円貯めるために、本年度より経費30%カットし自粛運営を行う。
- 企業の定年延長で若い人材の確保が難しい。
- 世帯数不変でも人口減
- 災害に対する準備（堤防の枝切り、土嚢）
- 役員の出席回数に対する手当（少額）

- 自治会活動の不明点、不安の削減、安心して活動できるように説明
- 各自治会内で出られる人が、出られる時に出来る場所で防犯活動
- 役員の仕事をできるだけ減らす。
- 高齢化が進み、自治会活動（河川愛護活動、防災訓練）に変化が必要
- 役員会を設け地区全体の意見を把握する。
- 若い世代（30代～50代）の意見を聞く（次世代の声）。
- 新規加入者増による区内での融和策
- 楽寿会の活動（高齢者の集まりレクリエーション活動など）
- ふれあいサロン活動
- 住民が少ないため、役員名簿を作成するのに困っているため、重複しても良いように配慮をお願いしたい。
- 地域づくり協議会会費を一世帯当たり年間5,000円支出してもらっている（何十年も継続中）。
- 地域づくり協議会会費や国の補助金等を使い、“初日の出”、“桜まつり”等のイベントを行っている。
- 自分の考えだけでは判断できないことが多いので、迷ったら自治会長OBの方々に相談して決めている。
- 仕事もしているため、自治会の仕事で手が回らないことは、事務局を立ち上げて協力してもらっている。
- 子ども達の健全育成を中心に据えた事業
- 子ども達の活動を前面に出したイベント
- 事業内容も構成員の年齢層も異なる複数の団体による共同事業イベント
- 各委員や構成員による活動の分業化
- 高齢化が進み現状維持が精一杯の状態ですので、何とかやりくりしている。自治会の役だけでなく他の役（神社、寺院等）もある。複数の役を受け取ってもらい、何とか凌いでいます。
- 自治会長2回目の人があと7年間続き、3回目の人が3年続くと若い人（現在49歳）につなげることができる。
- 持病がありながら自治会長になる人が多い。
- 体育委員、自主防災女性リーダーを自治会の係としての手当をしたい。
- 自治会連合会と地域づくり協議会の組織の一本化「融合」
- 役割分担の明確化
- 自治会長の負担軽減「役割集中の見直しと任務の分散」

(3) 今後、取り組みたいこと

問8 貴団体の活動において、工夫していることがありましたら、ご紹介ください。また、今後取り組みたいと思っていることも教えてください。

■見付地区

- 高齢者が非常に弱いので、連絡網、支援体制の充実
- 三役の決め方
- 役員の公平化
- 当町内において新築で定住するべき土地は現在ありません。アパート、マンションでの会費収入の漏れを防ぎたい。
- 借家に入居する方々には自治会加入への積極的な働きかけを行っていく。
- 高齢者が気軽に集う場所（サロン等）を作りたい。
- 住宅増加に伴い、副会長→BL（ブロック）長、造語で検討
- 人口減少社会に合った「近隣自治会との合併」
- 災害に強いまちづくり
- 町内防災地図作りの推進
- 見付本通線、電柱地中化
- 見付地区の特徴、歴史文化を生かしたまちづくり
- 老朽化による自治会館の建て替え
- 講師不足で十分できない見付寺子屋教室の拡充（格差社会の一助になれば）
- ボランティアの人材と次期役員の育成（現在役員の主流が75～80歳）
- 未就学児のお母さん方に会の支援とお手伝いを依頼し、将来の人材育成にしたい。
- 人口、世帯数が増加に伴い、集会できるコミュニティセンターの建設要望
- 地域的に小規模開発工事で発展したので、東西南北の幹線道路要望
- 自治会設立60年で、公共施設が老朽化、更新していく費用捻出課題
- 幹線道路がないので、商店ができない。有事の場合、配給保管場所となるコンビニエンスストアなどの誘致。
- 町民会館をできるだけ開放して、開いている時は誰でも立ち寄って話ができるようにしたいと思っている。
- 防災のことをもう少し町民と訓練したり話し合いたい。
- 祭りの取り組みの検討会
- 地元、地域の歴史の研究と記録
- 分かりやすい防災組織の確立
- 小学校区内に大規模自治会が2町あり、拠点となるコミュニティセンターの必要性を強く感じる。
- 高齢化及び人口減少による自治会のあり方について検討中

■中泉・今之浦地区

- 敬老会は市が主催でやるよう働きかけたい。各自治体が勝手にやっているのは良くない。
- 普段出てこない人への行事の参加
- 年配の人でなく若い人の参加をお願いする。
- 選任の件は、組長は年配の人は辞めてもらう。
- 小グループの「見守り」組織構築（“互近助”組織？）

- 自治会館の耐震対策、一時避難所としての機能対応
- 役員の増員
- 中心市街地としての都市機能充足のためのまちづくり
- J R駅前という立地でありながら人通りが少なく、商業が衰退しているのはまちの玄関として好ましくない。この問題に取り組みたい。
- 組長の仕事をできるだけ減らす、シンプルにする。
- 役員、中核の手当を増やす。
- 役員のなり手を増やす。
- 情報伝達の改善、オンラインを考える（回覧は読まれないが、高齢者は必要）。
- 地域づくり協議会、地域ネットワークは組織が複雑で分からない。それを自治会に回されてもできない。
- 実効の上がる組織、分かりやすい組織を望む。
- 災害時の緊急事態が発生した場合、自治会会員（町民）の助け合いが頼みの綱となります。行政の定める指定避難所に頼る前に、自治会内で対応できる仕組みづくり。
- 自治会館の設備充実（自家発電機）
- 自治会としての防災補助品の充実（災害用トイレ、非常食）
- 自治会には加入しているものの（会費納入）、日々の自治会活動に参加していない世帯（アパート、マンション）が引き起こすごみの不分別、ごみ出しルール無視、不法投棄への対応。防犯カメラで監視、管理会社へのお願いと指導、ごみ対策課との連携。
- 行政の活動に対する関心度を高め、住民の意見、希望、提案、問題提起を行う取り組み
- 議員懇談会、議会傍聴
- ごみの集積所が老朽したため新設を考えています。
- 公民館のメンテナンスを計画したいと考えています。
- 隣近所の助け合い
- 各種委員をできるだけ長期化しないように引き継いで行くこと
- 役員の引継ぎをスムーズに。できるだけ多くの人に順番に役員をやってもらいたい。
- 少ない若者をいかに役員に育てることを考えています。
- 定期的な地域活動への参加者を増やしたい。
- 若い人の参加を増やしたい
- 防災組織の拡充
- 自治会の役員等選任の件（市役所、交流センターの押し付けばかりではダメ）
- 自治会役員や委員の引継ぎが十分ではない側面があるので、改善していきたい。
- 若い世代の方にも自治会運営（活動）上の情報を発信して巻き込んでいきたい。
- 借家の方にも対面で話して「隣家力」を高めていきたい。
- 自治会加入の良さ（恩恵）を体験、体感する活動を工夫して進めていきたい。
- まちの活性化
- 子育て、教育充実支援
- 子ども、若者、高齢者が互いに協力、支援し住みやすいまちづくり
- I Tを活用した地域活動効率化
- 自治会の役員任期が副会長1年、会長1年と規定より短い。会長職は3年くらいやらないとリーダーシップを得られない。
- 防災活動を今之浦公園とどのように取り組んでいくか。
- 地区内のお寺等のマップ作り

- 役員、ボランティアの補充
- 女性の役員を増やしていきたい。

■岩田・大藤・向笠地区

- 特に祭典は毎年決まった人しか集まってこないのが高齢者も参加もしくは見学できるよう、送迎できればと思っています（保険等難しいが）。
- 現状では役員のなり手がなく、活動の改善等をし、参加したいと思わせるような地区にしたいと思っています。
- 高齢者が安心して参加できるイベントの拡大（ソフトなお祭りや小さなイベント）
- 今後老人だけの自治会になっていくので、今のうちに公会堂は建て替えておきたい。
- 廃墟が増えると思うので、その取り扱いを決めておきたい。
- 車、渋滞箇所、マナーの見直し
- 不法投棄の撲滅（罰金制度強化）
- 防災、避難体制の確立
- 今後を見据えた地域の実態に合った持続可能な協議会づくり
- 女性、若者の活動への参画、参加
- 自治会役員の活動内容の積極的な公開、PR
- 地域企業をもっと巻き込んだ企画や紹介（企業が中心となったバザー等）
- 誰でもが気軽に役員を引き受けられるように、自治会活動の見直し、検討を行い、業務の縮小を進めることを継続していくこと
- 65歳まで仕事をしなければ老後の生活が安定しないので、役員の年齢を上げる（66歳以上）。
- 残念ながら今年度は実施できていない活動があるので、コロナ終息の折には必ず再開をしたいと思います。
- 自治会活動に対する住民アンケートの実施
- 女性が「自治会長」をできる環境づくり
- 役割の多様化による見直し
- 負担が一部の人に集中しない活動方法
- 役の精選
- 若い人が活躍できる組織づくり
- 若者の地元離れ
- 高齢者世帯のケア
- より若い人達の自治会活動への参画
- 自治会長の負担軽減

■西貝・御厨・南御厨・田原地区

- 防犯灯増設
- 若い人の参加を増やしたい。
- 公会堂の建て替え、市への陳情要請
- 地域全体で協力、参加できる行事等の検討策定
- 地域防災意識を高めたい（避難所開設や流れ、役割等）。
- 堤防の遊歩道を利用した桜の木の植樹
- 堤防のかさ上げ要請
- サロンをより充実（高齢者の生きがい）

- 地域と学校をつなぐボランティア（コミュニティスクール）
- 環境美化活動
- 人材育成
- 住んでよかったまちづくりのために…草花のある通りづくり
- 互いの意識づくりのために…小さな単位での防災グループ活動
- 優しい自治会として…活動、計画は簡潔に分かりやすく説明、回覧。5W1H。
- 自治会活動の負担の軽減、交流センター関係事業の縮小、廃止
- 年間の自治会活動においてあらゆる変動に対応できる行動が必要と思われる。
- 地域活動を市に委託したい。
- 各自治会で実施している事業（行事等）をまとめて地域で実施（負担軽減）
- 外国人との共生のための交流推進
- 防災拠点が無い。今の公会堂はハザードマップでは大雨時に浸水地域になる。高台の公園に公会堂施設を移転したい。
- 全年代で楽しめるボッチャなどの交流会
- 働いていても参加できる自治会活動（特に役員）の簡素化と分担
- 道路などの情報が変化しているので、安全化と安全教育
- 水害対策も兼ねた緑地帯の確保と楽しく管理できる体制づくり
- 各家庭での防災意識の向上
- ごみ出しのルールを守れない人に、どのようにすればルールを守ってもらえるか。
- 若い人達にどのように自治会活動に関心を持ってもらえるか、一から取り組みたいと思う。世代間格差をどのように融和させるか。

■天竜・長野・於保地区

- リタイア後、元気な方に再度活動に参加していただく。
- 地域活動のあるべき姿への真剣な議論、前年度踏襲活動の見直し
- 役員のなり手が少ないので、自治会活動をよりシンプルにしたい。
- 集会施設の更新
- 役員の低年齢化
- 自治会三役を組ごとにしたい。
- クレーマーの排除をしたい。
- コロナ対策をどのように進めるかが課題
- 理事3年以上、副会長2年以上は定着しているが会員複数年度以上を今後定着させる。
- 地域防災に関する自治会内での広報
- あまり大きくない自治会のため、防災や防犯に関連して昔ながらの『向こう3軒両隣』の精神で地域づくりができたと思います。
- 代々引き継がれている伝統と、若者や移住者達との共存
- 地域からスポーツに力を入れ、お年寄りにも健康でいつまでも長生きができるよう活発な活動に取り組みたいと思います。
- 1年交代の自治会長なので、前年度事業を引き継いでいるうちに1年が終わってしまう。
- 当団体の活動や目的を市民全体に認識してもらうための周知
- 女性が参加しやすい活動や意識の啓発

- 一斉配信メールを使った自治会員への連絡
- 困りごとや要望のメール化
- 防災、危機管理の充実。今の防災訓練はまだ危機意識が低い。本気の防災危機対応が必要。本当に地震が来た時に今のやり方で大丈夫かと思う
- 今行っている活動をより充実したものにして、より良い地域にしていきたい。
- 人口減少、少子高齢化への対応
- 他の地域から若い人達が来て住んでもらうような対策
- 地域の災害強化「災害に備える」態勢づくり
- 消防団員の減少の担い手不足の対応
- 各活動に専門の人を雇う。
- 現在の取り組みを継続し、組織づくりを確実なものにしていく。
- 親が病気などで自治会参加できなくなるまで出てこない人を参加させたい。

■福田地区

- 自治会長を一旦66歳くらいに戻し、経験者に再度依頼。未経験の方は2年任期としたい。会計の仕事を女性に引き受けてもらうよう調整したい。
- 組織編成の確立
- 次世代の若者の自治会活動への参加をいかにするか。
- 公民館の建て直し
- 災害発生時、避難困難者への対応をどうするのか。
- 高齢化対策
- 公民館を有効に活用しコミュニケーションUPを図る。
- 少ない世帯の自治会との合併に取り組みたい。
- 子ども見守り隊への参加協力者を募る。
- 青色パトロール車の取得を呼びかける。
- 町内会費の見直し
- 借入金の一括返金
- 近隣自治会との交流強化
- 防災関連（家庭防災の状況把握と避難方法）
- 自治会と地区の再編成に取り組みたい。
- 組織及び事業の見直しを進め、役員負担の軽減を図る。
- 高齢化への対応と地域コミュニティの再構築のため、高齢者見守り活動の充実を図る。
- 地域づくり協議会とさらなる活動強化
- 地域交流の活性化
- 現在の自治会の規模に合った活動の見直し（少子高齢化、収支、祭典など）
- 他の自治会との合併
- 役員への連絡手段の変更。紙→メール→SNSへ…。
- 地域に住む外国人とのコミュニケーション
- 人と自分に一日一善を心掛ける。
- 企業立地の推進
- 役員手当の見直し

- 役員の業務の分散
- 防災関連のことで、元々高齢者のみという家庭もあるが、平日の昼間は家にいるのが高齢者だけという家庭が多い。平日の昼間に何かあると自力では避難できない家庭が多く、避難体制の確立が必要だと思っている。
- 青パトや防犯パト、通学見守り等ボランティアへの謝金支給方法の研究
- 外国人居住者との意思疎通
- 地域の魅力を発信するためのSNSの活用の研究
- 地域人材の発掘と活用
- 今年は新型コロナのため活動ができませんでしたが、地域のコミュニティの活性化を図るイベントの企画。
- マンネリ活動の再構築。やらせているだけで効果が実感できない活動。
- 交通立哨、自転車マナー向上活動、青パト活動、のぼり旗
- 小さな自治会の合併、統合
- 行政や地域づくり活動の先進事例を紹介すること
- 自治会の役員の仕事ができるだけ少なくなるように、市に対して余分なことは省いていくように活動して、役員のなり手がなくならないようにする。
- 役員を年齢順としているが、後任となる人材がかなり若い世代になってきているので、70歳未満の方に再度役員をやってもらうことで調整している。
- 自治会の合併
- 自治会三役の対象年齢引き上げ（年金受給年齢と合わせる）
- 自治会役員の負担軽減
- 学府一体校
- 学校の建物の活用とビジネス化
- 防災活動など
- 高齢者の見守り活動
- 公民館建設（現在の公民館が老朽化したため）
- 自治会員の積極的勧誘
- 豪雨災害が頻発しているため、自治会として連絡網の作成を考えている。

■ 竜洋地区

- 団地構成6組が各10軒程度であるが1か所だけ5軒の島があり、ここを増やしたいが難しい。
- 公会堂、屋台小屋の建て替え
- 自治会規約及び細則の整理
- 各活動の手順書
- 地域のコミュニケーションを図るためにも、講師を招いて楽しめる集まりがほしい。
- 防災の中で特に水害に関して具体的な避難方針を策定すべきと考えています。
- 防災訓練による知識の向上
- 自治会への新入区者の推進
- 外国人の入区者への対応と付き合い方
- 自治会役員の選任の方法
- 田んぼ畑によくごみが投げ捨ててあるのを見る。月1回、委員でゴミ拾いに取り組みたい。
- 小さな自治会のためどうしても一世帯当たりの自治会費が高くなるので、これ以上増えることがないように支出の見直しや経費の積み立て等実行したい。

- 外国人との交流会
- サロン活動の活性化
- 言葉の問題がある外国人との関係
- 自治会規約の改正
- 地元の歴史、文化に触れあう機会づくり
- 地区での会合をPC等のできるシステムはどうか。
- 活動維持方法の検討
- 見える化と地域の現状、特色（年齢、人口構成、就労状況、高齢化等）を考慮した次世代への移行計画
- 役員の種類が多いので、兼務させて役員人数を減らしていく。
- 自治会費の軽減
- 高齢者の世帯が多く、健康状態についてはある程度定期的に把握できた方が良いと思う。
- 人材を確保するために人材バンクを設定したい。
- 古い部落体質の改善
- 若い人に積極的に参加してもらおう。
- 地域内の若者の参加を多くさせる
- 若者リーダーの育成
- 高齢者と若者の合同取り組みを、自治会だけでなく他の町へも。
- 空き家が多いため災害時の借家として有効利用できるような取り組みを市としても協力してほしい。
- イベントへの参加を増やすこと
- 子どもから高齢者の方ともお互い助け合っているように。
- 食糧、水等、家庭内備蓄の推進を図る。
- 各家庭が避難生活できるよう準備の推進
- 新規会員の加入（アパート入居者など）
- 若い人の積極的な役員登用（勤めていてもできる環境）
- 地域内コミュニケーションの充実強化を図っていく。
- 避難する場所、西小より北側区域にほしい。
- 天竜川堤防より降りる坂道に町名を入れてまちをPRしたい。
- お祭りの組織の見直し

■富岡・豊田東・池田地区

- 防災会の長期計画、自治会でできる災害対策が何かを見直し。
- 無理、無駄をなくす。
- 自治会費値下げの実施
- 洪水などによる避難場所
- 防災意識を高めると共に、具体的な手順の確立
- 近隣の教育施設との連携
- 磐田市の取り組み、一日一善活動を他人にもしていきたい。
- 地域活動できる施設がないので建設していきたいが資金がない。
- 人材資源の登録整備
- 子ども食堂の開設
- 田畑の整備、休耕地の発生防止

- 民生委員との共同活動
- 自治会の法人化
- 一部の人はごみ出しルールが守られていないので、分別ルールの徹底を図る。
- SNSの充実
- コミュニティ活動の見直しと、役員としてのやりがい等
- 公会堂の利用を活性化させたい。
- 若い人に参加してもらえるようアピールする。
- 案ではありますが、部会の中に自治会長部会を作り、現在5部会を6部会にすることを考えています。
- 子ども達の見守り活動の充実（見守り隊）、100名程度
- 女性の活用
- 協議会協力者の確保
- 役員手当の見直し
- 公会堂の建て直しに向けての会員の意識集約
- 役員改選時の方法、調整
- 若者の行事参加の呼びかけ
- 気候変動による線状降水帯のような想像を絶する災害またコロナ禍のような、今まで体験したことのないウイルス被害にどう立ち向かうか研究する。それこそ想像を絶するアイデアが発生するかも。
- まだ活動内容、レベルについてはリーダーの技量によることが多い。リーダーの育成等は大きな課題である。
- 鍵の必要のないごみ収集所
- 役員の選出方法を選挙に
- 公会堂新設

■井通地区・青城地区

- 他地区の優良な活動状況の吸収
- 有力な地域人材の発掘
- 専門性を有する人材の確保
- 地域への発信力を強化
- 地域の連絡は回覧が主となっているので、他の方法での連絡方法を考えていきたい。
- ごみの出し方を根気よく説明していきたいと思います。
- 決まりごとが確実に実践できるように広報する。
- 若い世代と年配の方々との交流など
- コロナの終息ができれば、若者間の交流の場が祭りに偏っているため、交流機会が増える活動を行いたい（スポーツ、文化など）。
- 公会堂新設計画
- 例年同様の活動が早くしたい。
- 地域で行っている事業の見直し
- 地域づくり協議会の必要性和目的の理解
- 地域づくり協議会への積極的な参加の啓発
- 地域づくり協議会の人材バンクへの参加者増加促進
- 特にアパート住民との交流が少ないため、フリーマーケット、住民による趣味の展覧会等の企画をする（自治会員の3分の2がアパート世帯）。

- 役員任期を決め、後継者の育成によりスムーズな交代ができるようにする。
- 単位自治会でできない事業を洗い出し、地域で対応する形を整える。
- コミュニケーションの充実
- 河川美化、草刈り等の奉仕作業による負担軽減対策
- 防災意識の向上
- 自治会役員の負荷軽減のため、活動内容の見直し
- まちづくり協議会で取り組んでいる活動の負担が大きくなっている。今後見直し、精選を提案していきたい。例えば、防犯ステーションの活動日や時間、納涼祭の内容を見直す。年々予算も役員動員数も拡大傾向にある。
- 役員の皆さんが同じ方向を見つめ、目標に向かって一致団結した活動をしたい。
- 70歳以上の方が10くらいの趣味クラブで活動している（約60名）。今後団塊の世代をどのように参加させるか。
- 100歳体操の充実
- 県道（磐田～細江線）の一部の歩道が極端に狭い（市道路課に陳情中）。来年度県に申請とのこと。

■豊岡地区

- 今年度はコロナ感染拡大で自治会員のコミュニケーションを強化する祭典やスポーツ行事、敬老会等全て中止となり、つまらない1年になりそう。早くコロナ感染症が終息したら新しいイベントを開催したい
- 人口が少なく役員のなり手がないため、全てのイベントに参加するが、もっと簡素化する工夫
- 敷地川に水位計の設置
- 指定避難所の認定
- 県道の整備（路面のひび割れ、落石）
- セニアカーで安心して通行できる歩道
- 役員のなり手の確保、発掘
- 役員会合の回数減
- 高齢者世帯に防災の対処方法等の検討
- 高齢化が進んでいるので、娯楽、スポーツを考える（高齢者向け）
- 自治会の会員で楽しいことをやりたい。
- 新規加入者増による区内での融和策についての下地づくり
- 若い人達の自治会活動の参加
- 山林や農地の整備（美化）につながるイベント
- 自治会長の任期が終わってもできる限り協力する。
- 若者委員会と女性委員会の設立
- P T A、民児協の取り組み
- 地域による地域のための人材育成
- 改革意識、意欲の醸成
- 地域課題をテーマとするディスカッションやワークショップ
- 文化遺産の発掘と伝承、継承
- 持続可能な組織の確立のための役員選出システムの構築
- 人材バンクの充実と活用
- 協議会に対する認知度を高めるためのP R
- 土砂災害の予防活動に取り組みたいです。
- 大雨時等の河川対策

- これからは女性にも今以上に役員に就いてもらいたい。
- 応援してもらわないとやっていけない。
- 体力のことも考え、工夫して場合によっては省略して若い人にも手伝ってもらうこと。例えばパソコンの打ち込み係を作る。
- 高齢者世帯増加による河川愛護（草刈り）対応
- 高齢者世帯への見守り強化
- 地域づくり協議会を主体とした自治会連合会の支部再編

このページは白紙です

5. 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症により、団体が受けた影響の程度

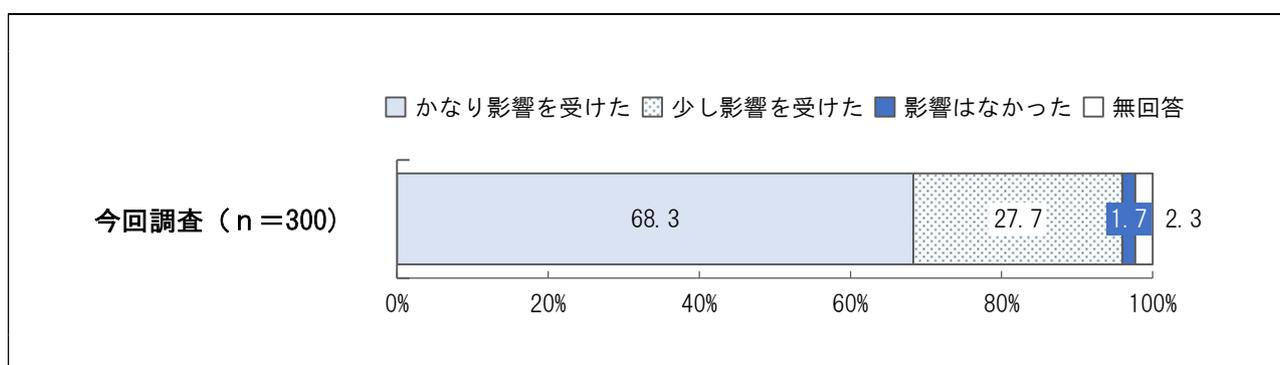
問9 新型コロナウイルス感染症により、貴団体はどの程度の影響を受けましたか？

<○印を1つ>

新型コロナウイルス感染症の『影響を受けた』地区は9割以上

■地域別の傾向

すべての地域で『影響を受けた』が約9割以上



■今回調査の結果

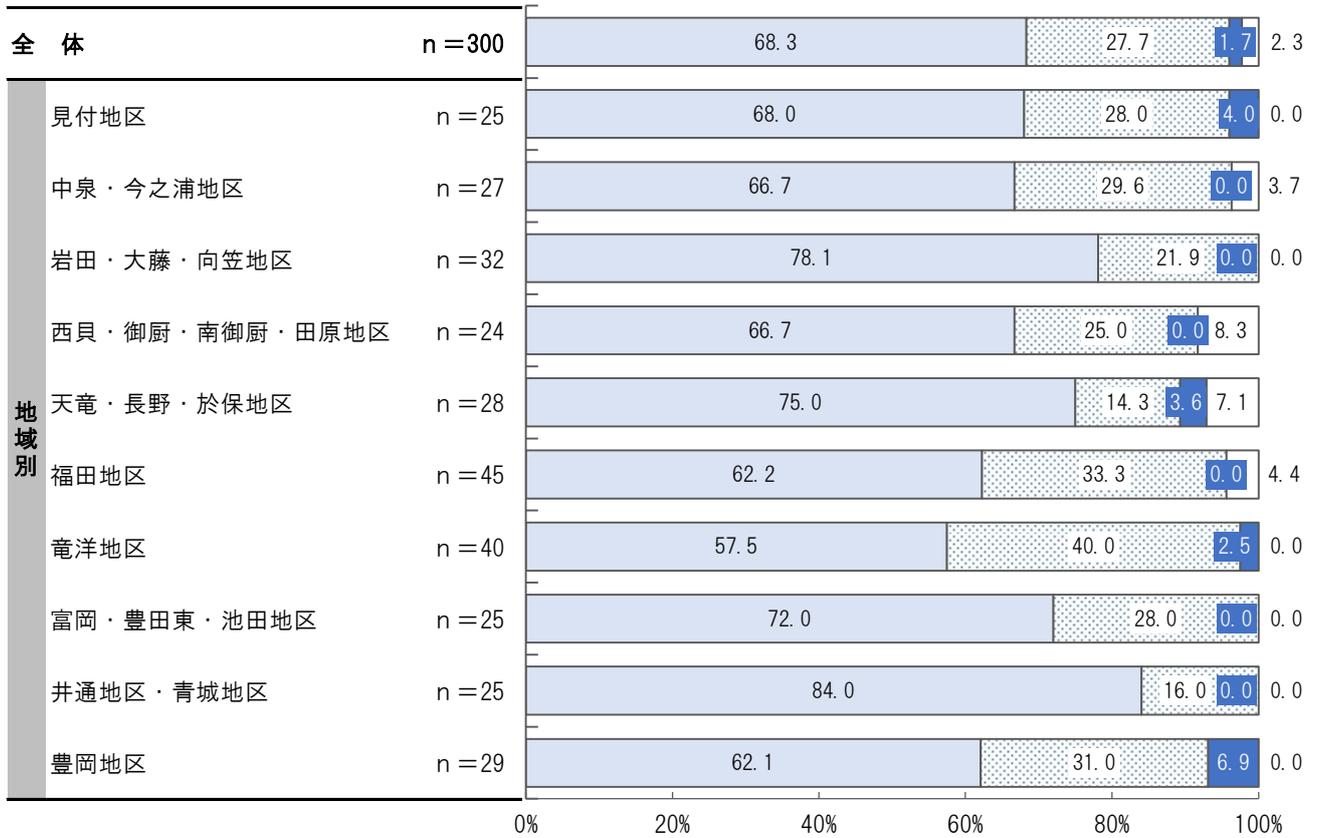
- ・「かなり影響を受けた」(68.3%) が最も多く、次いで「少し影響を受けた」(27.7%)、「影響はなかった」(1.7%) となっている。
- ・『影響を受けた』(「かなり影響を受けた」 + 「少し影響を受けた」) は96.0%となっている。

■地域別の傾向

- ・すべての地域で『影響を受けた』が約9割以上となっている。
- ・岩田・大藤・向笠地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区では、『影響を受けた』が10割となっている。

【地域別】

□ かなり影響を受けた ▨ 少し影響を受けた ■ 影響はなかった □ 無回答



(2) 団体が受けた新型コロナウイルス感染症による影響の具体的な内容

問9で「かなり影響を受けた」又は「少し影響を受けた」と回答した方のみ

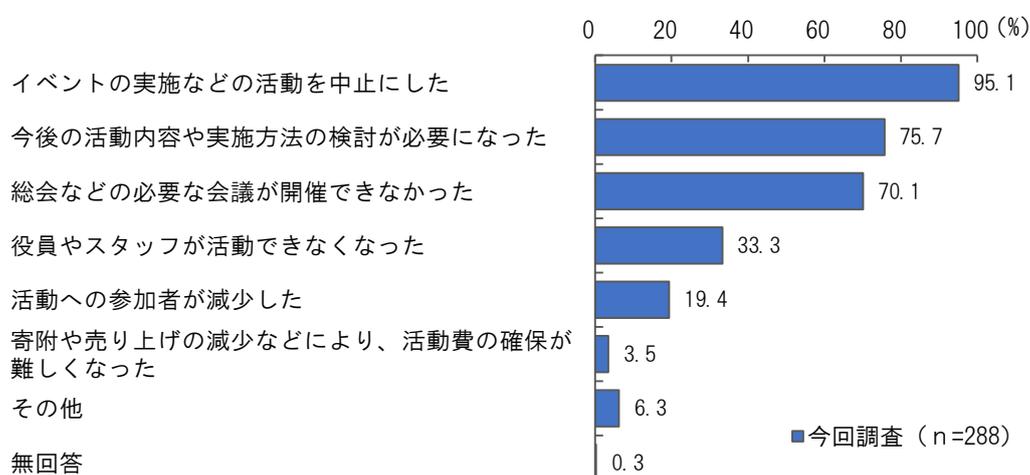
問10 具体的にどのような影響がありましたか？ <該当するものすべてに○印>

影響を受けた具体的な内容は、

- ・「イベントの実施などの活動を中止にした」
- ・「今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった」
- ・「総会などの必要な会議が開催できなかった」

■地域別の傾向

すべての地域で「イベントの実施などの活動を中止にした」が最も多い



■今回調査の結果

- ・「イベントの実施などの活動を中止にした」(95.1%)が最も多く、次いで「今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった」(75.7%)、「総会などの必要な会議が開催できなかった」(70.1%)となっている。

■地域別の傾向

- ・すべての地域で「イベントの実施などの活動を中止にした」が最も多い。

【地域別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
見付地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	・活動への参加者が減少した ・役員やスタッフが活動できなくなった	
	団体	23 団体	19 団体	18 団体	7 団体	
	割合	95.8%	79.2%	75.0%	29.2%	
中泉・今之浦地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	総会などの必要な会議が開催できなかった	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	活動への参加者が減少した	役員やスタッフが活動できなくなった
	団体	25 団体	21 団体	16 団体	9 団体	7 団体
	割合	96.2%	80.8%	61.5%	34.6%	26.9%
岩田・大藤・向笠地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	31 団体	25 団体	22 団体	11 団体	3 団体
	割合	96.9%	78.1%	68.8%	34.4%	9.4%
西貝・御厨・南御厨・田原地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	20 団体	17 団体	14 団体	9 団体	4 団体
	割合	90.9%	77.3%	63.6%	40.9%	18.2%
天竜・長野・於保地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	25 団体	20 団体	18 団体	16 団体	7 団体
	割合	100.0%	80.0%	72.0%	64.0%	28.0%
福田地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	41 団体	34 団体	24 団体	10 団体	7 団体
	割合	95.3%	79.1%	55.8%	23.3%	16.3%
竜洋地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	35 団体	26 団体	25 団体	8 団体	7 団体
	割合	89.7%	66.7%	64.1%	20.5%	17.9%
富岡・豊田東・池田地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	25 団体	20 団体	18 団体	11 団体	3 団体
	割合	100.0%	80.0%	72.0%	44.0%	12.0%
井通地区・青城地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	23 団体	21 団体	19 団体	12 団体	7 団体
	割合	92.0%	84.0%	76.0%	48.0%	28.0%
豊岡地区	影響	イベントの実施などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	活動への参加者が減少した
	団体	26 団体	22 団体	21 団体	5 団体	2 団体
	割合	96.3%	81.5%	77.8%	18.5%	7.4%

(3) 今後活動していくうえでの対策や工夫

問 11 今後活動していくうえで、どのような対策や工夫をしていますか？

■見付地区

- 新しい生活様式に則り、住民の安全を確保していくために情報を提供し呼びかけていく。
- 人数を限定しての開催
- 集合形式を文書配布にシフト
- 活動内容の見直し、削減
- 3密の徹底
- 来年もコロナの影響があれば4月の総会は委任状で行う。
- 祭りは中止にして神事のみ行う。
- 公会堂内での3密を防ぐため、節分会は愛宕神社境内で行う。
- 土砂災害指定区域が当所にありますので、関係世帯に公会堂の鍵を渡すこととしています。
- 感染防止策を徹底してできる限りの活動を継続していく。
- 活動への参加者を増やす工夫を考えています。
- 公会堂の消毒、感染防止策、密を避けるための分散開催
- 祭典などのイベントを縮小し、菓子等の配布とした。
- 夜の会合は昼間に変更し密閉を避ける。
- 人数を減らし密集を避ける。
- 26町自治会、非接触型体温計の配布
- 県・市の感染ガイドラインの徹底を図り、イベント、会議等を開催
- 自治会の連絡網の活用
- 小さい会合についてもソーシャルディスタンスを守り感染防止に努める。
- 高齢者の自治会活動への参加はできる限り控える。
- 自治会活動の規模縮小や中止を検討していく。
- 政府、自治体の感染者情報を中止して必要な措置をとる。
- 感染防止策をしながら多数の人が参加できるイベントを考えている（1日を2日に分ける）。
- 全自治会に非接触型体温計の配布（26自治会と交流センターに2個）
- 今までのイベント内容を分析し、感染危険の除去（例えば甘酒、綿菓子の提供中止等）
- 会議時間の短縮観点から分かりやすい資料、理解が得られる内容
- 工夫や対策はなかなか見つからない。
- 希望として役員から全世帯にダイレクトですぐ報告できるシステムがあれば招集しなくても良いと思う。
- 新型コロナウイルス感染予防でさらに役員、理事のなり手が少ない。若手、女性の活用を考えて活動方法を変更していく。
- 3密を防ぐ。集会人数の制限と、換気、検温、消毒実施。
- 組長会議など定例会議ができない。連絡箱への資料配布、メール、グループLINEで意思疎通を図る。
- 自治会月刊誌で活動報告と、行事日程等の連絡を行っている。
- 地域の環境整備は少人数で定期的に行っている。
- 町民会館にアルコール消毒を設置し、予備のマスク、非接触型体温計を置いた。
- 会合の時は場所を広く取り、換気して行っている。

- 今後のイベント時にも3密を避ける工夫が必要となるのでその対策を考えていく。
- 3密対策
- 組長会は中止（年6回予定）、役員会も大幅に減少
- 体温チェック、体調不良、感染が心配な方は出席させない。
- 参加、出席する人数の縮小や会議時間の短縮を図っている。市から出される感染防止の指針（敬老会開催について等）はとても参考になります。
- 住民の命を一番に考え、コロナ感染リスクを伴うものは実施を控える。
- 新型コロナウイルス感染症により、自治会の運営に苦慮しています。
- 自治会にはリアルな情報を逐次提供してほしい。正しい情報がないと、正しい判断ができない。
- 地域の安全、安心のため防犯広報車や回覧で、防犯、コロナ対策への呼びかけを行っている。

■中泉・今之浦地区

- 3密対策
- メール連絡の活用
- 書面回覧
- 3密、ソーシャルディスタンスを確保した運営
- 小規模で回数を増やして対応（草刈り等）
- 3密に注意してソーシャルディスタンス、フェイスガード等で感染に気配りして会議等を行う。
- 世界でコロナ菌について真実を知っている人はいない。ワクチンもできていない現実。
- 3密を確保し、マスク、手洗い。ストレス、睡眠、疲労に十分留意する。会議もそれらを徹底し、必要最低限にて行う。
- 乳幼児、高齢者の健康情報に特に注意します（弱者対応）。
- 今年は基本的にやらない。来年のことを考えていく。
- 自治会館使用時の換気
- 自治会館使用者の体温測定、マスク着用、手先消毒
- 自治会館内イベントの運営者はフェイスシールド着用、参加者登録（名簿記入）
- 会議、会合等は間隔を空けての席配置
- 3密防止のため、集まる機会をできるだけ少なくするよう努めています。多分この年度の会合は少なくなると思います。
- 自治会の皆様への説明責任を果たすよう努めています。
- 色々な行事に参加してもらえれば活動に興味を持ってもらえる。
- 非接触型体温計、消毒用アルコールを公民館に常備した。
- 高齢者サロンや体操など開催の是非について十分に意見交換した。
- 自治会長、副自治会長、民生委員の3人で全戸訪問し、意見を伺うとともに次年度の役員をお願いして回った。
- このコロナに対してはとにかく我慢して拡大しないように自粛し、落ち着くのを待ってそこから考えることだと思っています。
- 総会、イベントの実施をしていく。
- 心配しながらの行事会合は止める。
- 小さな組織では文書回覧だけでは意思疎通が難しいが、文書通達の方法を考える。
- サロン活動は高齢者の認知症予防のため、独居老人を重点的に訪問サロンを模索する。
- 敬老事業は在宅開催として、対象者全員に児童からの記念品やお祝い金を宅配する。

- 公会堂有料利用者には、感染症対策を厳格に行うように周知し、収入確保も図る。
- お囃子の練習などは、少人数で感染対象を徹底して行い、技術を継承していく。
- IT活用推進。できれば小中高生のモバイル機器活用にする地域活動参加。
- 防災訓練での感染症対策
- 各町（公会堂）での感染症対策と町内への徹底
- 高齢者の健康対策と感染症対策の両立
- LINEを利用して連絡を行う。
- 外国人との接触がない。特に小学校との父母接触が多い。今後の課題である。
- 来年度に向けてのイベント等の話し合い
- 地区自治会の予算の組み換え
- 各部会での今後どうするか話し合い
- 若い役員が増えているためホームページやSNSを使った情報交換
- 役が負担にならないよう、役員の仕事を整理していく。

■岩田・大藤・向笠地区

- 感染症対策を実施し、参加者の負担感を少なくする。
- まだまだ新型コロナの影響は残ると思うので、3密にならないのは当たり前で、マスク、消毒等必需品になるので、活動する場に必ず用意することになるでしょう。
- イベント、会議など状況により簡素化を図る。
- 高齢者の在宅での地域活動参加のため、回覧を丁寧に行っている。
- 大規模イベントはなくして小規模にしていきたい。
- 公会堂会合時、3密にならぬようにしている。
- 公会堂玄関にアルコール設置（体温計検討中）
- 少人数での会合、決定後回覧で確認してもらう。
- 停電発生時の対応品購入（ラジオ、ランプ、仕切り品）
- 防災上のコロナ対策及び避難場所のあり方の検討
- 人が集まるイベントや集会への3密回避の徹底
- 高齢者世帯の見守り活動、実態アンケートの実施
- 市、近隣自治会の情報収集
- 地域での大きな行事（ソフトボール、バレーボール、体育祭、文化祭等）は全て中止とした。高齢者比率が高いため、安全を優先。
- 夏祭り等で子どもの思い出づくりを創出させる企画もできず、地域コミュニケーションが低落して行くことを懸念。
- 子どもの活動はできるだけ実施できるようにしたい。
- 拡大しすぎた数々の行事、活動を見直すきっかけとしたいと考え、市を含む関係機関との協議を経て自治会活動、業務縮小を進めたいし、改革を継続できるようにしたい。
- 3密対策として、消毒液やマスクの準備に加え、窓の開放、大広間でソーシャルディスタンスを意識して着席しての会合などは当たり前として実施。
- 事前に資料を配布し、説明を省略、短時間での会議を実施。
- できるだけ回覧物で済ませる。
- 集会はできる限り減らして、回覧などを活用していく。

- 近所同士で声を掛け合うことを増やしていく。
- 3密を避けて、マスク、消毒液の使用、体温計で防止策をとる。
- ガイドラインを決める。
- 室内で行う行事は中止を考える。
- 今後、行事内容を検討する。
- 基本的に3密を避ける。
- これから色々な病気が出てくる可能性があるので、ウィズ疫病で改善、改良し生活しやすい環境づくりをする。
- コロナが終息しない限り、活動には大きな制約があります。
- ただ中止するだけでなく、少しでもできることを、安全第一に各役員と協議していきたいと思います。
- 3密を避け少人数での役員会の開催
- 総会のあり方を再度検討（各班からの代議員別）
- 会議の回数を減らし、LINEを利用して情報伝達
- 祭典等の行事の内容の見直し
- 間隔が保てる人数の集会
- マスク着用
- 公会堂、入室時のアルコール消毒
- 会食を止め、持ち帰りとする。
- 会合は3密を避け屋外での開催も検討
- 重要な決定事項は書面決議書を回覧して決めている。
- 高齢者の増加に対する負担軽減（草刈りへの不参加）
- 不要と思われる会議の廃止

■西貝・御厨・南御厨・田原地区

- 公会堂に消毒液設置
- マスク着用
- 消毒、空調換気装置の購入整備（予算の見直し）
- 役員同士の細かな打合せ開催、実行
- 地域企業への協力要請
- 交流センターの会議室が限られているので、小規模会議（役員のみ）を開く。
- グラウンドを使ったスポーツイベントを取り入れる。
- マスクなど対策
- 3密を避ける新しい生活様式
- 会合の削減、文書決裁
- 大人数での活動は控える。
- 回覧板でお知らせ等の詳細を伝える。
- 行ってはいない、若い人材がいない。育成のしようがない。
- 会合、打合せはより少人数として2～3部制
- 打合せ、会議など内容を確認して画一的な会合はせず、その必要性を吟味し、双方向の場合は別に設定。
- 令和2年は特別な1年であった。この経験を生かし、どんな時代にも対応できるような状態にしておくことが必要である。
- 会議は3密対策の徹底と換気等の留意

- 行事（イベント等）は計画時点の感染状況による判断
- 伝達方法で書面と封筒を多く使用するようになった。
- 規模縮小と3密回避の方策の検討と実施
- 必要な行事でできるものは、役員など少人数で維持している。
- 外でできるもので、子どもや老人の参加しないものはマスク着用や密を作らないようにしてやっていく。
- 先行きが不明で、情報を集めながら役員会を開き判断しつつ活動していきたい。
- 会議など引き続き3密の徹底
- 新型コロナに関して3密を避けるため、会合等ではかなり気を遣っている。

■天竜・長野・於保地区

- 毎月の組長会を4分割にし、少人数で実施
- 感染リスクが高いと思われるイベントや会議の中止
- 縮小開催のイベントや会議の3密対策、検温、手指消毒の実施
- コロナの影響で自粛したり中止したりした活動について、今後見直ししなくて良いものは、この際止めたら良いと思う。
- 現状だと今後の総会開催は3密で無理であり、早期情報提供と委任による議決を増やせるか検討中。
- 少人数による3密の解消
- 手の消毒とマスク着用
- 3密を防止するように心掛ける。
- 当面は大人数で集まる会合は中止にする。
- 基本会合時はマスク着用、アルコール消毒を徹底する。
- 総会など役員のみ少人数で会議等を開催する。
- 3密を避け、会合時人数制限、マスク、手洗い
- 屋内での活動は特に3密にならないようにする。
- 手の消毒などで殺菌していく。
- 毎月定例会を文書による伝達で対応した。
- 公会堂の使用は目安として、10人以下2時間以内とする。
- 飲食を伴う会合は、弁当持ち帰りにて対応した。
- 区民参加のイベントは全て中止とした。
- 新型コロナウイルス感染症にも注意し、イベントや活動の実施も減少した対応で進めたい。
- 自治会活動をしていくうえで密にならないように工夫をする。
- コロナも長引きそうなので、活動とどう折り合いをつけるのが課題である。
- 指針をもとに密を避ける活動を心掛ける。
- 情報発信を密にしたい。
- ショートメールにて連絡。その後通知で詳細連絡
- 現場の確認
- 公会堂入口に手指消毒液やマスクを置いている。
- 非接触型体温計を購入し、参加者の検温をする。
- 国や県や市からの指導をしっかり守りながら活動を続けていきたい。
- 3密を避け、感染者が発生しないようにしていきたい。
- 主に防災にて。自主防災活動をより強固にするために防災士の育成に対応

- 特にイベント、避難所での活動の担い手として多くの女性の参加
- 「災害時安全カード」を全戸に配布
- 高齢者見守り、高齢者サロン、生活支援、災害時の対応
- 会議資料を前もって配布し、会議の時間短縮
- 文書による意見交換
- 少人数による活動
- 手指消毒、検温の実施、マスク着用、名簿の作成
- コロナ対策をしっかりととり、必要な会合等は極力中止にしない。
- 高齢化が進み、現状を守るようにしています。

■福田地区

- これまで通りアルコール消毒を公民館入口にて義務付ける。
- 広場草刈りでは密にならないよう人の配置を調整する。
- 3密を避ける。
- 会合時の換気と消毒及び間隔並びに時間
- 10人単位で代表者を決め会議を行う。
- 市からの活動費補助
- 感染防止対策を徹底する。
- 3密を避ける。
- 自治会の役員の減少に力を入れて考えたい。
- マスク着用
- 公民館に消毒液を置く、公民館での飲食は避ける。
- 2m以上離れて活動するよう心掛ける。
- 活動において最少人数とする。
- 国、市からの対策方法を厳守
- 情報の収集を早めに取り対応を考える。
- 防災として考える。
- 感染防止策の徹底
- 事業実施の有無をその都度協議して判断するのではなく、マニュアル化してオートマチックに決定できるシステムの構築
- 大人数や、飲食が伴う集会の中止
- 3密の回避、マスク着用、消毒
- 活動の可否を十分検討している。
- 外国人が多いため、様々な言語のポスターやチラシを作成し、全体のマナー向上に努めている。
- 対策を考え中
- 現状は役員のみでの会議で、自治会内展開は各担当役員が会員宅へ行っている。
- 定期回覧の有効活用…活動、取り組み内容の告知、決定
- 人が集まるのが難しいので、会報等文書でできるだけ情報を発信し、共有したい。しかし、文書だけでは内容が上滑りする（現実味がない）ので、必要な場合は3密にならないよう気を配りつつ集会を開く。
- 地域に高齢者が多いため、3密防止を徹底する。
- 不要不急の会合の自粛

- きめ細かな情報発信
- 新型コロナウイルス感染症を防止するために、できるだけ自治会活動を自粛する。
- できる限り3密を避けること。
- 役員の相談事など、以前はどこかの家で行っていたが、少人数でも公民館を使うようにしている。
- 自治会活動において、体調の気になる方は欠席で結構です、としている。
- ロの字型で行っていた会合を、学校のように全員前向きとするよう変更した。
- メール、ラインを使った役員間の情報交換の促進
- 不必要な活動の見直し
- Y o u T u b e や Z O O M 等を活用した新しいスタイルの催し、会議を研究したい。
- 3密回避、マスク着用、手洗い
- 書面による賛否採決
- イベントの見直し
- メールの活用（役員同士や行政との交信）
- できるだけ全体集合しなくても大丈夫なような組織づくりに取り組む。
- 感染予防対策（3密回避、マスク着用、手指消毒、検温）を行ったうえで、必要最小限の活動のみ実施
- 非接触型体温計、アルコール等の手指消毒液を購入
- 役員を年齢順で選出している。
- ソーシャルディスタンスの実行（人数を減らす）→役員のコミュニケーション不足になる。
- コロナによりなくても良い会議などが分かってきた。
- L I N E グループで役員間の情報を共有→L I N E を嫌がる人がいる悩み
- 回覧板を通信システムにしてほしい。紙、印刷代が減るでしょう。仕分けて配布を月2回は大変です。
- 時代に合わない慣習、行事の見直し
- 行政、公益団体との協働による事業実施
- 健康チェックを参加者に対して行う。
- 個人との距離を2m空ける。
- 感染予防対策、マスク、手洗いうがい、会議室の人数減
- 社会活動は慎重に継続する。何でも中止は避ける。
- 3密を避けながら総会ができないか検討中
- 回覧板、掲示板などを利用し集会をなるべくしないようにしている
- 会合を行う時は、手の消毒、換気し、対面にならないようにしている。

■ 竜洋地区

- 集会や会議は極力少なくする。
- 窓を開ける。
- サーマルカメラによる体表体温測定の実施後、入室
- ソーシャルディスタンスを心掛ける。
- 高齢者が多く、ひとり暮らしの家庭や病気がちの人等、自治活動に消極的な方もいるため三役の中に女性を登用（副会長や会計）しています。
- 自治会活動が原因で新型コロナウイルス感染が起こらないように注意する。
- 草刈り等、全て自主参加とした（参加者激減）。
- 現在の感染状態では、自治会として責任を持っていないので大人数が集まる活動は実施できません。
- 3密を避ける意味からも対策が難しい。
- 会議の参加者は最低限、開催時間も最短時間に絞り3密な環境を作らない。
- 感染症予防の基本となるマスク着用、こまめな手洗い、積極的換気を徹底する。
- 集会は3密を避け少人数で行う。
- 行事の内容を回覧等でしっかり伝える。
- 予定の行事を実施して良いか迷う。
- 行事をしても意見があり、中止をしても意見があり迷う。
- 行政の判断があればありがたい。
- 体温チェック、マスク、手の消毒
- 協議案件は少人数にして行い、3密を避けて極力重要度の低いイベントは見送る方向で活動する。
- 自治会員への連絡などは有線放送や回覧板にて行い、極力人との接触を避ける。
- 公民館の窓等を開け、換気をよくして会合等を行う。
- 検温と消毒液の設置
- マスク着用
- 3密を防ぐ。
- 会議を始める前から、窓は全開にしておく。
- マスク、消毒、3密の徹底
- 会議の時間を短くする。
- 会食をしない（弁当配布で済ませる）。
- 時間短縮、回数減少、3密を避ける。
- 会議にマスク着用要請、会として予備のマスクを用意する。
- 活動を中止している。
- 私共の自治会でも平均年齢が年々上がっていますので、健康管理には十分注意をする。
- 総会等の大人数が集まる機会を減らす。文書の配布でカバー。
- 時代の変化に応じて、活動やイベント行事はある程度変えていくことを考えていく。
- 活動時間を短縮して内容の濃い活動をしていきたい。
- 公会堂に消毒液、消毒ウェットティッシュの設置
- 集会時はマスク着用、換気
- マスク着用
- 消毒液の装備
- ソーシャルディスタンスの徹底

- 密集地域なのでコロナの感染も、一人が出たらあつという間に広まってしまうような気がするため、収束するまでは全て我慢。
- 掛塚地区は特に道が狭いので、災害に弱い地区だと考えている。
- 掛塚地区全体での取り組みが大切で、今すぐすべきことである。
- 大人数での会合を抑える。
- 総会は回覧で代替えとした。
- 新型コロナ感染に対して、外国人の方の意識が低いので、何回も説明する。
- 公会堂での総会ができないので、なぎの木会館会議室を利用する。
- 自治会活動の実施方法等を検討する（新たな方法）。
- 会議は極力回避
- 祭典中止にして少人数により神事のみ
- 情報交換はなるべくLINEにて。
- 「うつらない」「うつさない」を声に出し、地域住民への意識付けに心掛けている。
- 3密の回避。効率的な会合の実施（必要最小限の会、時間など）。
- 密にならないようにする。
- 自治会役員の選出にあたっては早めに打合せをして準備していく。
- 住民からの要請によって道路等の修繕について巡回を多くして対応する。

■富岡・豊田東・池田地区

- 会員への感染対策の啓蒙活動（回覧等）
- 自治会館、集会所使用のマニュアル化は終わっているので実施されているかの確認
- マニュアルの2か月毎の見直し
- 役員会等、大人数の場合、複数回に分けての開催を行う。
- 三役（会長・副会長）が感染者になった場合の代行者を決めてある。
- 連合会など他の自治会の取り組みを参考にして、良いところは取り入れていきたい。
- 感染対策を徹底したうえでの活動を考えたい。
- 役員の役割の見直し
- 3密を避けた新しい自治会活動をしていく。今までのやり方を見直す良い機会。ピンチをチャンスに変える。
- 検温、手洗い、うがい、マスク、開催時間と人数の絞り込み
- 感染対策を自治会として行うことは難しい。できることを前向きに取り組むしかない。
- 地区事業に参加していただき、自治役員の人材発掘
- 草刈り…除草剤の散布、組長等役員だけの作業
- 組長会…半分に分けて実施
- 会館利用時は「マスク着用、換気、距離を保つ」ことに留意している。
- SNSの活用
- できるだけ役員会を減らし、重要な決定事項のみ役員を招集して意見を聞き方針を決めている。
- 事業の見直しと対策の中身
- 感染者が出た時の当人、家族のフォローはどこまでできるか。
- 自治会からのお知らせ（A4版）により、独自の活動の周知広報をしていく。
- 予防対策をしつつ、屋外の清掃等は極力実施していく。
- 集会は最少人数で行う。

- 現時点では対策について考えが及ばず苦慮しています。
- 体温チェック、アルコール消毒、マスク着用の徹底
- ソーシャルディスタンスの確保
- 活動する場を限定していく。
- 室内換気を定期的実施する。
- 会議等ができなかった分、回覧等で情報発信を多くしていく。
- 各自健康管理に注意する。
- 3密を避け、会合等最小限の人数で行う。
- 新型コロナウイルスの一日も早い終息を願っています。
- 密になるような会合は全て中止とする。
- 今はとりあえず感染拡大防止を努力する。
- クラスターに気を付ける。
- コロナ禍はそれなりに努力するが、特殊詐欺、交通事故、また子どもの健全育成を忘れずに。
- 回覧、広報等で広く地域住民と交流していく。
- 地域の役員各種リーダーを通じて幅広い地域活動にしていく（防災、婦人防火クラブ、福祉委員、保健委員、民生委員、班長、PTA、子ども会、祭典役員、若連、なかよしサロン、花の会、神社総代等）。
- 何でも中止するのではなく、できることをする。
- 活動範囲の変更、今年度中止より決定に迷う。
- 屋台引き回し。祭典委員の変更。来年度の予定の検討。

■井通地区・青城地区

- 的確な情報の収集
- 具体的な感染対策の実施
- モデルとなる活動事例の収集
- 磐田市（まちづくり団体等）からの個別指導を期待
- 7/25 現在においては、3密、ソーシャルディスタンス等を図り15人以上の集会はしない。
- 現在、磐田市や浜松市でコロナの感染者が増加しているので再度検討が必要。
- 集会など、集合しにくい情報周知の機会を増やす。
- 自治会の活動及び予定を回覧日に配布したいと思います。
- 自治会だよりを作成して活動状況を細かく会員へ伝えている。
- 会話の増加、会話の重大さへの理解
- 敬老会で商品券の配布のみにするなど、密を避け簡略化
- 祭典でも屋台運行中止、イベントの中止
- 会議の少数化、短時間化。
- 事前資料の配布
- 社交辞令、不要な話、余談の禁止
- 住民の健康チェックにより感染者を出さない。
- 集会での3密を避けるためには皆で声掛け、実施
- 非接触型体温計、アルコール消毒液の設置を検討
- コロナ禍により活動を簡素化する。
- 会合実施時、マスク着用、手消毒、人の間を周囲1m空ける。そして換気。

- ただやる決断より止める決断も考える（会場変更も検討）。
- 非接触型体温計で参加者の体温測定をする。
- イベント前、各人2週間前から体温測定。37.5度以上あれば参加しない。
- 3密の可能性のある会議の中止と3密を避ける対策
- 不要不急の外出を控える。
- マスク着用の徹底。石鹸による手洗いの徹底。
- 行政に望むことはコロナ感染者の入院前の軽症者の待機場所の確保
- 3密を避けた必要最小人数と時間を設定しての活動
- 各連絡は回覧等を利用。またスマホ等の活用。
- 会議や打合せの場のソーシャルディスタンスとマスク着用、消毒の徹底
- イベント、会議等の実施時は、はっきりした指針を出してほしい。
- マスク着用、3密を避け、手指消毒等による感染拡大防止策は活動する中で必要不可欠。
- 敬老会開催方法を変更し、敬老を祝うため記念品を配布する。
- 環境美化奉仕作業の時間短縮→草刈り機導入
- 定例の会議（組長会等）は、議題の内容により開催を判断する。
- 公会堂の使用上の注意を決めて、住民に知らせ感染防止に努める。
- 公会堂にアルコール消毒液やマスク等の備品を備える。
- 活動においてはソーシャルディスタンスに配慮してもらう。
- コロナ関係でイベントも会合等も注視で今までに経験したことのない状態なので、今までの役員さんに相談や意見など色々伺っている。
- 各部会間の理解と協力を得るため、本年より部会役員会を毎月開催することにした。
- 役員会において部会事業の報告、案内、内容等の説明をし、他部会からの協力及び事業への参加を促し部会間交流を深めることとした。
- 公民館利用者は入館時に体温測定、手洗い消毒の実施、マスク着用の確認
- まずはコロナが下火になれば、打合せは容易ではない。活動以前の問題。

■豊岡地区

- マスク着用、外部での会合
- 会合等、開始時間の厳守、短時間での開催
- 住民に役員から声を掛け、情報収集と共有化を図り早期対応に努める。
- コロナのために諸々の総会や会合が中止になりましたが、それでもあまり不便は感じないので、これを機に簡素化をしていきませんか。
- コロナで運営が自粛になったので今後は活動の見直しをしていく。
- 集合を減らし、必要案件はメール等で伝える。
- 人数を減らし美化活動を行う。
- 密を避けてできるだけ行動
- 3密を避ける。
- 河川愛護を実施した時、集合を避けた。
- 感染防止に対する生活習慣（マスク・手洗い等）の周知
- コロナ対策指針に基づく活動。3密回避、ウィズコロナ。
- 会合ができない状況の中でより多くの情報、資料の提供を心掛けている。

- 新型コロナウイルスに対応するため、県、磐田市の対策を重視。
- 会議は短い時間と少ない人数で。活動内容を検討。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の強化
- 活動内容の変更
- 密集にならないように各班長に重要なことを連絡する（全体の集会は止める）。
- 専門家の「新型」の知見説明を待っている。
- 部落の人達がコロナ感染しないよう呼びかける。
- イベントの回数を減らす。
- 活動する人数を減らす。
- 話し合いの場所では、マスク、3密を守る。
- 情報を整理し、文書にして郵送している。
- 会合は広い会場で人数を絞り、短時間で大切なことに重点を置いて実施
- 事業を中止とする場合も指示を発するより、地域の中での論議を大切にす姿勢で、会議や事業の自粛期間は、充電期間と捉えている。
- 災害防止に重点を置き、活動していきます。
- 基本的に班長会などでは、換気、アルコール消毒、マスク着用、人と人との距離、授業と同じ一方向対応
- 自治会の中の皆さんが顔を合わせる機会を多くしたい。穏やかな雰囲気の中で話し合いができたらと思う。
- 感染予防対策をしっかり認識していただく。
- 予防が不可能の場合は勇気をもって中止する。
- コロナ関係のニュースをしっかり見て学んで生かす。
- 予防の方法を区民の皆様に周知させていくための現実的な研究をする。
- 班長会等3密回避を考慮して、大部屋で短時間としている。
- 情報はできる限り文書化して情報伝達
- 総会、会議の規模縮小や時間短縮、簡素化
- イベントの統合

6. まちづくり全般について

(1) 自由意見

問 12 これからの磐田市のまちづくりのためのご意見やご提案(アイデア)、夢など、どんなことでも結構ですので、ご意見をお聞かせください。

※複数の分野に該当する意見は、いずれか一つの分野に割り振って掲載しています。なお原則として、回答された文字のまま表示しており、一部、誤字脱字の修正や加筆、固有名詞等は削除を行っています。

分野1 産業・雇用・観光・移住定住

1 元気な農林水産業の育成

- 70年生きてきて農家に育ち、東京の大学を出てふるさとに戻り感じたことは、①駅前が閑散として寂しいこと。飲みに行きたいと思えば浜松に出る。②若者が集える公園がないこと。③就職したい企業が少ないこと等。何の魅力もないと思ってしまいました。今この年になって感じることは、農作物の品質がどこよりも素晴らしいのではないかということです。①～③のないものねだりの改善も、若者を磐田に呼び戻すうえで必要ですが、もっと農業の近代化に力を入れ、日本一を目指したら良いのではないかと思います。
- 農業の担い手不足により農地保全策は健全なまちづくりに不可欠。生活環境の向上策として、下水道整備は急務。自治会役員の負担の軽減策として、回覧、配布物の強力な削減。ネット環境整備の促進、補助制度の確立。自治会長等への情報伝達方法の改善（電話や紙ベースから、メール配信へ）。
- 少子高齢化社会に対する対策の強化。耕作放棄地解消への支援及び抑止対策の強化。行政のスリム化と市民に分かりやすい仕組みづくり。
- 磐田市として地域ごとにそれぞれの顔がある。地域の特色を活かした行政対策を行ってほしい。金太郎飴でない対応を望む。自然環境、住環境、防災対策（特に地震、洪水対応）は抜群に良いのが磐田原であり、ここの開発をもっと進めるべきだ。茶を中心とした農業振興はもう限界であり、このままでは耕作放棄地が増加し、住環境も悪くなる。企業の農業参入、大規模農家育成も現状の農家情勢では振興できない。農地法上の問題もあると思うが前向きな対応を望む。遠州豊田PA工業団地内の「健康ランド」の進出計画はどうなったのか。企業誘致の約束は3か年で営業開始ではなかったのか。企業の取り組み任せではなく、市として積極的に商業努力をしてもらいたい。コロナ感染対策に絡む外出自粛等で難しい時とは思いますが。

2 中小企業等の競争力強化と企業立地の推進

- 企業誘致も必要だが、所在する企業を大切に、より成長するような応援をすることを重点化すべき。
- 静岡県西部地域の特色は①「モノづくり＝中小企業」が活発、②三方原台地、磐田原台地を有し、早くから水利事業も進められたので農業も盛ん。この2点をベースに西部地域共有で、産業の近代化、次世代化を支援すべきと考えます。その西部地域の中で磐田市の特徴（役割）をどうすべきか考える必要があります。ざっくり考えて、天竜川以西と比べると、土地余力があり廉価でもあるので、①②を踏まえた田園工業地帯の高齢者も子育てもしやすい住宅街（住みよいまちづくり）の位置付けが良いと思います。子育てしやすい環境、高齢者も安心できる介護付き住宅の充実、先端産業を支える人材を育てる教育、平地で緑が少ないので、緑化公園等々…。
- 積極的な企業誘致。その対策等も。住みやすい磐田にするために、特に子ども達の優遇策を考えてほしい。

- 磐田原の農地転用ができるようにしたい。東名高速以北の発展がなく、世帯数も増えていかない。お茶も安く、生産者は年々減ってきている。使っていない土地、放置の土地も多く見られる。磐田原には公園がない。子どもが（大人も）集まる場所として何か必要なのでは。災害が起きることも考え、移住できるような場所にしてほしい。
- 向笠、大藤地区は公共交通機関が少なく不便な状態が何十年も続いており、長年の農地規制が新しく住む人へも制限されています。このため平均年齢は上がり続けています。子どもも少なくなったため、小学校が維持できず、小中一体の構想になるのかも知れませんが、このままでは一体にしてもいずれは入学児童が減り続けて、一体校さえ維持できなくなると思います。農地の維持も多くは日中の仕事の後や土日で行われ、多くの農地保有者は手放したいと思っているようです。まずは北部地域の開発と企業誘致、それに伴う住宅地供給により、若い方の定着を促す政策への転換をしていただきたい。
- 低迷する地場産業の見直しと、それを担う人材の育成に注視してほしい。
- 近い将来、多種の企業誘致をし、インフラ整備も行い、日本という国の中央付近というポイントをアピールして『一大産業立市』を目指す。浜松よりも安価で土地を提供し、日本のシリコンバレーを目標に、外国人をどんどん受け入れて、まず経済の発展をし、若者を増やし、高齢化の波を抑え、老人にも住みよい環境を整える。参考にする国はシンガポールとかマレーシア辺りでしょうか。
- すみませんが、仕事と自治会活動の両立に苦勞するばかりで考えている時間が取れません。電動二輪（三輪）車の有効活用。
- 就職する企業が少ないから、若い人は外に出て行き、戻ってくることはありません。今後10年は減少傾向にあります。私のいる地区は、あと10年もすれば空き家が増えていくと思われます。財政難と人口減少がすぐそこまで来ています。地区の大型合併、企業の積極的な誘致、空き家対策、道路・橋・水道の保全管理などをしていただきたいと考えています。

3 産業を担う人材の育成・就労の支援

- 天才起業家を連れてきて新たなジャンルの会社を起業する。
- 磐田市の人口減少が進む中、人を大切にし、増やす政策が必要と考えます。それに合わせて高齢化も進みます。高齢者もまだまだ働ける人も多数います。その働ける高齢者「技能高齢者」を有効に使える仕組みを作るべきと考えます。高齢者が中年層に技能を伝えて、中年層が、若者に伝承をする仕組みです。それを広い分野で実施できるようにすると良いと考えています。
- 高齢化は避けられない現実であり、県外の大学へ行った子ども達が帰ってこないのも現実である。専攻したことがやれる受け皿はどうしても都市の方が多く、本人達も帰ってこない。磐田市として都市に負けない魅力がほしい。
- 人材資源の登録整備。例えば、大工。災害時に持てる才能を活かしてもらい共存を図る。子どもの貧困対策として、子ども食堂の開設（開設、運営が困難）。方法等工夫して実現したい。
- 若い世代の移入を増やすこと、Uターン転職を増やすことが肝要だと思います。そこで、若い世代にとって魅力的なまちづくりができればと思います。磐田で子育てをしたいと思うような支援ができればと思います。例えば学習支援ボランティアの組織化など、官・民が協力できる体制づくりが大切だと思います。

4 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化

- 夢は大きく、国分寺の再建、周辺の公園化、道路アクセスの整備等、市の核となるものを作り、人を呼び込み、活性化を図る。
- 当地区には商業施設がない。ぜひ大型の商業施設の誘致の検討を要望します。
- 市民文化会館の跡地は中泉地区の町内の意見をもう少し取り入れて住民との話し合いをお願いしたい。どのようにするか事前に説明をしたら良いと思う。

- 今之浦公園リニューアルに伴う地域イベントの活性化と市民文化会館の有効活用を期待します。
- 3年前シカゴに行った際、入国審査でパスポートの住所から「磐田市から来たのか！磐田市はオリンピックメダリストを2名も出している。素晴らしい。」と褒められた。磐田市は海外から高い評価を受けているが、我々住民はそう感じていない。また、総合計画の基本施策で、スポーツの振興、文化の振興、教育、福祉、防災、農業、いずれも質の高い取り組みではあるが、総合力として魅力に欠けるのでは。まずは静岡県で一番を強くPRし、また目指している取り組みを市民に分かりやすく情報誌に整理すればどうか。磐田市は一言で何が売りなのか。
- 当市はJR駅を3駅持つ。それぞれの駅周辺の特徴、あり方がこれから問われると思います。磐田市の課題は3駅を中心に賑わいづくりが絶対条件になる。ラグビー、サッカーで全国的に有名になった。しかし遠くからの来街者はタクシーに「ジュビロードを通ってください」と運転手に告げる。「今乗ってきた所がジュビロードです」と運転手。乗客は車の中で振り返って驚いている。以前ヤマハ発動機に就職試験で来た学生達が、JR磐田駅前を見て、試験を受けずに帰ってしまったということで、一時有名な話題となった。これでは産業が育たない。まちづくりの起爆剤として大きなビルができ、マンションもできたが、それで市や商工会議所も次の手がないまま放置された中心市街地。これを我がまち、地区として都市機能の充足を図り来街者に充実した都市空間と満足を味わっていただくよう努力したい。軽トラ市、ジュビロード夏祭りには十分駐車場がないのにあれだけの人が集まる。大事な条件は、磐田市民会館跡地とJR磐田駅の回遊と、国分寺、市役所を交えた回遊性の豊かさだ。その周辺に中小企業が盛んに進出し、民間資本を引き出し、有効なまちづくりが根付く。農高、新県立農大、北部の工業化された温室野菜はやがて全国でも有名な農業地域として発展するだろう。私達の住みたくなる磐田っていいな！というまちが必ずできる。上記についてこれからも私達は夢実現のため歩み続けたいと思う。
- ①人口減少、少子高齢化に向けての事業の充実。土地利用、福祉、産業、医療、子育て、住宅（生活）環境など。このための市のビジョンを市民に周知。県、国への積極的アプローチ。磐田はいいところと思わせる、住みたくなるPR、メディア活用。②災害に強い磐田。インフラ整備、防災対策。③個性豊かな磐田。磐田ならではの特徴というか、市民と共に自慢づくり。
- ららぽーと磐田の近所にテーマパークを設置する。
- 島根県（松江、石見銀山）へ旅行に行った時、現地の方のおもてなしに感激した。駅員さんもウェルカムの姿勢があふれていたし、石見銀山付近の地元の中学生も心地よい挨拶をしてくれて心が温かくなった。付け焼き刃ではこうもいかないだろうから、地元根付いたものがあるかと思われる。磐田市には色々な特徴あるもの、資源が揃っているが、それを使いこなす人、外から来る人達を歓迎する心を自然と持てるような風土を作っていくことが必要ではないか。
- 天竜川河口の東側の広大な敷地（公園周辺）に一大レジャーランドの建設。例えば磐田海岸海洋水族館でドリームランドにする。水のまちづくり。近隣にはショッピングモールとする。
- 魅力ある施設があると良いと思う。例えば、ららぽーとができて東名を使って遠くから足を運ぶ人がいるのに、周りに何もないうえわざわざ磐田に降りようとは思わない。ららぽーと周辺は土地が多くあるので、田舎にあるのにわざわざ足を運びたくなるような施設があると良い。例えば、掛川果樹園、藤枝蓮華寺池公園。県外だと、ラコリーナ（滋賀県）、アクアイグニス（三重県）。御厨駅周辺はこれからですから大変期待しています。桶ヶ谷沼、兎山公園、竜洋海浜公園など手を加えればもっと良くなる場所は多くあると思う。どうか若い世代の意見も取り入れて変わってほしいです。
- 池田の熊野の藤の花をメインにした観光。兎山公園の河津桜を増やし、市民が楽しめるまちにしたい。年寄りが活躍できる場を作ってあげたい。熊野の長藤の時のおでん、道の駅での高齢者の参加。
- 若い人が多く集まる市にしてほしい。

- 副市長がジュピロ磐田の役員になりました。強いチーム（1部定着）にして、サッカーを全国から見に来てもらって観光もしてもらおう。しかしながら、浜松に比べ磐田は観光地が少ないのは否めません。また磐田に来たらこれを食べよう的な特産物もないため、本当にジュピロしかない印象です。お茶、シラス、きんつば…これくらいしか浮かびません。
- 大人や子どもが遊べるプールがほしい。
- ららぽーと周辺をもっと活用して人が集まる環境を作ってほしい。磐田病院まで続くまちづくり。公園整備と管理（遊具の保守や補修）。磐田駅前が寂しすぎる。人が集まる工夫。

5 移住定住の推進

- 一般企業ではまず利益を出し、将来に向けた投資をしていき、働く者の安心感を制度設計し、家族や地域を支援。普通はこう考えると思うが、では市の運営と将来への道しるべを考えると、まず必要になるのは財源確保（企業からと市民となるが）。①企業誘致をもっと積極的にやってほしい。地域的には倉庫より生産、物流、IT関係中心に。②流動人口よりベッドタウン的な居住地域が望み。さらにコンドミニアムのような若い世代に魅力的な、1棟で最大6世帯くらいの小型建物が良く、こういった建物を複数集結とジムを兼ねた集会設備をセットにしたニュータウンづくりを希望。持ち家では将来的に同じ問題が発生する。この構想は、居住者はあるタイミングで転居し、流動的に働き世代を循環させることができる。資金がないと何もできない。それではますます諸制度も遅れる。悪スパイラルです。
- 30歳～50歳で独身の人が非常に多く（結婚しない？経済的にできない？）、それが少子化につながっている。婚活パーティーなどを実施し、市を挙げて婚活を促進し、子どもを3人でも4人でも安心して産めるような社会にしてほしい。そしてまちに子どもの声があふれるようになってほしい。子どもが増えれば経済全体も安定、上昇するはずです。婚活、多産化を推進する部署を設置すべきです。高齢化が進み、所有している土地（主に畑）の管理ができなくなっている。子どもはいない。または県外に移住し戻ってこないなど、売りたい安くても売れない。買いたい手もない、借り手もない、など八方塞がりです。希望すれば、宅地に転用して売れるようにしてもらいたい。子どもが増え、住宅地の需要が増えれば…。いずれにしても、多産化を促進し、若い世代の人口が増えれば色々な問題が長い目で見て解決していくと思います。
- 社会は人材で成り立っているので、人口減少は対策が必要だと思います。自治会内を見ると独身者が結構多い。結婚できるお見合いイベントを企画し、子どもを増やす取り組みを行い、次に人を育てる取り組みが必要だと思います。磐田市は産業はそれなりにありますので、人材を増やすことをお願いします。
- 竜洋地区（調整区域、掛塚地区）への定住人口増のための取り組みをお願いしたい。
- これからの磐田市を支えていく人達（小・中・高校生）等、幅広い住民にも将来の磐田市の姿の意見を求めたらどうでしょうか。この若い人達が磐田市に生涯定住してもらうためにも少し考えていただきたい。
- 若者世帯の移住促進に向け、子ども、子育ての支援制度が整っていることをより積極的に外部へ発信してはいかがでしょうか。生活を充実させる観点から、防災や福祉など日常生活に役立つ、国や県も含めた補助制度、支援制度を一覧で紹介する文書を配布してはどうでしょうか。
- 磐田に住んで30年ですが、その間に海外10年、他県5年住んでおりました。磐田は大きな特色はなく、地味なまちですが、大きなウィークポイントはないと感じていました。しかし、最近孫ができ、その相手をしているうちに、磐田の残念な点が分かり始めました。磐田は工業団地が各所にあり、また企業誘致もある程度積極的であり、インフラづくりは進められており、現在は人口増減が平均より上かと思っています。しかしながら、工場を誘致し市外から新たに移り住んだ人達がこの磐田をどのように評価するかにより、定住率や企業のさらなる進出に影響があるかと思っています。私が感じた小さな点ですが、孫を連れてのベビーカーでの散歩や、たまにすれ違おうお年寄りの車椅子、保育園などの数人を載せる子ども運搬車がせつかくの散歩道を利用できないルートがあるのです。今ノ浦川の

堤防は市街地では舗装され整備されていますが、その堤防に上がる道、降りる道が整備されておらず、子育て中のママさんがベビーカーで散歩できないルートがあります。せっかくの良い散歩道ですが、磐田市の優しさが伝わりません。磐田市の優しさが若い世代に伝わり、長く住み続けることができれば、企業の誘致にもプラスになると思います。箱物も必要なのでしょうが、常にそこに住んでいる人々は箱物から受ける影響より、日々の小さな環境（段差、石ころ、木陰、ベンチなど）に心が和むでしょう。

分野2 自治・スポーツ・文化・歴史・共生

1 コミュニティと市民活動の活性化

- 自治会員の数が増えすぎている。どんどん増加している。市民生活に行政、自治会が関与しすぎだと思う。もっと簡略化できないか考えたいです。
- 小さな自治会（住民が少ない）は、事業によっては合同で行うとか工夫していくことが必要だと思います。若い人の意見を取り入れるとか、意見を出させることが必要で、任せることが大切になってくると思います。
- 市からの連絡は、紙媒体による各戸配布と回覧により行われていますが、これらの実施は自治会内で大きな負担となっております。現在であれば電子データとしオンライン配信すれば負担も少なく、効率も良く、さらにペーパーレス化もできます。電子メディアが使用できない家庭については、自宅のテレビで見られるようなシステムを構築したら良いのではないのでしょうか。このようなアンケートであればオンライン入力はできるのでは。
- 高齢化も進み、私の地区だけか分からないが活気がない。まちづくりにおいても斬新に進めるべきである。
- 当自治会では河川水門操作業務を受託していますが、梅雨や台風シーズンには浸水被害を防止するため、夜通して水位監視することもあり、かなりの負担になっています。センサーと連動した水門開閉装置を設置していただくと助かります。現在は停電になってしまうと水門操作は手動で行うしかありません。各種の申請や通知（このアンケート）は、電子化できるものは早急に電子化を進めていただきたいです。印刷代、紙代、郵送代などのコストが節約できるはずですよ。
- 幸せはいつも自分の心が決める。磐田に住み幸せを感じる時。①地域、家族のつながりを感じる時。自治会で困った時（コロナ等）助けてくれる仲間がいる。4世代で暮らす家がある。②自然歴史の豊かさを感じる時。コロナ対策で外に出られない時、自転車で人のいない所（自然の中）を走った。静かな神社等がある。③働ける場所、集う場所があると感じる時。生きていくために働くだけでなく、人の役に立っていると感じる。ボランティアや役もできる。④スポーツや文化を楽しむことができる。
- 磐田市の市民として市及び自治会とパイプを強くして一人ひとりが安全、安心なまちづくりを通して住みよい社会になれば良いと思う。
- 行政からの発信に対し、納得いくまでキャッチボールをして進めて行くこと。会議等では本音の意見が十分に交わされているかの懸念がある。役員が個別に把握して解決するのが現状かと思うが、他地区にも共通の課題があると思えるので、会議の場で共通認識することが大切。そのために、会議資料の事前配布により、あらかじめ問題点・疑問点を把握したうえで会議に臨めば、当局（事務局？）説明も短くでき、意見交換の時間も今より取れるのではないのでしょうか。
- 少子高齢化によって子ども会、祭典等の行事が今までのように実施できなくなっている。人口が減少してきているので自治会活動の見直しが必要。
- 近隣自治会と交流があれば…。
- 現在の環境変化において、ネットは重要と考えます。各自治体でZOOM等のオンライン会議ができるような環境構築を願います。また、自治会参加者（自治会費加入者）と非加入者の差があまりないように感じる。このままだと加入者が減少し、自治会活動は難しくなる。ある程度の格差があっても良いのでは。

- 地域ボランティア活動ができる人材づくり。
- ルールや規制があつての社会生活ですが、行政から降りてくる仕事や行事には毎年同じ、通常どおりが一番で、どこか仕方なくやらされている感が付いて回る。もう少し、発想を柔軟にできれば楽しい時間に変えていくこともできると思う。例えば、当自治会では青パトボランティアでペアの年齢を変えてみたり、パトロールもするがその中での会話も楽しんでもらったりすることで、家の中に居がちな高齢者（75歳くらい）の外出機会を増やしている。やはり、人との会話や、現地を見ることで現実的な思考となる。情報は、人から伝えられる方が印象に残りますしね。
- 補助金行政が多く気にかかる。防災倉庫の申請について悪用して多くの補助金を受けるような自治会があるのではないかとと思われることがあった。公民館の建て替えについても市からの補助が出るようだが、我が自治会は公民館の建つ土地が借地（寺院が地主）のため、建て替えの許しが下りない。よって建て替えの話は消滅した。公民館の補修等にも補助は行われるのでしょうか。新しい公民館を建てた他の自治会が羨ましく思う。
- 【女性の活躍推進】70歳まで働くようになり、地域自治活動に協力していただける人は少なく、時期的にも短くなっている。本来住民の半数を占める女性の協力が可能となれば、いくつかの問題は解決できる。女性人材の育成、発掘、現役員や男性の意識改革など、市の協力を得ながら運動展開できないだろうか。【空き家、空き地の活用】高齢化等に伴い空き家、空き地が急速に増えている。移住、定住の受け皿としてこれらを活用するとともに、住民の子弟、知り合いにも活用できる可能性を発信し、地域が持続可能な社会の仕組みを構築できないだろうか。【産業振興】コロナ禍で物や食糧は自給できないということを痛感した。農業、水産業、工業、サービス業等の交流を深め、新たな需要や新業態を研究する場を設け、地域経済の活性化を促す。金融機関のやっている異業種交流やマッチングに市も積極的に関与してほしい。
- ①自治会連合会組織と地域づくり協議会組織を早く統合すべし。遅すぎる。②小さな自治会の合併を推進すべし。③マンネリ活動は再構築すべし。交通立哨・のぼり旗→講習会へ切り替えるべし。中高生の自転車マナー指導→講習会へ切り替えるべし。青パトは狭い村内走らせるな。→防犯カメラに切り替えるべし。④行政からの連絡が紙と郵送。到底エコ推進とは言えない。メール希望者を聞いてメールを活用すべし。同時に公民館、公会堂にはパソコンとプロジェクターを常備すべし。⑤地域づくりの先進事例を紹介してほしい。⑥こういう意識調査も紙を使うな。⑦とにかく行政のデジタル化が遅れている。⑧先進市を見習い、調査すべし。デジタル化先進市。⑨市民への教育はYouTubeを使うべし。講習会などすぐに活用できるはず。⑩意識調査係さんご苦労様です。磐田市のためにちゃんと生かしてください。
- 全国的に自治会の活動が以前は市で行われていたことが自治会に丸投げになったものが多々あるようなので、市でできることは市に戻して自治会の役員の仕事はなるべく少なくなるようにお願いします。自治会の役員を決めるだけでも大変なこととなっていて、年を取っても働かなければならない人も多数になってきています。市の会合等もできるだけあまり意味のないものもあると思いますので、減らす方向に持って行った方が良いかと思います。
- 人口減少が続く中で、コンパクトシティづくりが必要になってくると思います。豊岡、豊田、竜洋、福田、旧磐田にコアを作り、そこを中心にまちづくりを進めていくことが必要だと思います。まちづくり協議会は市民の集合体です。この協議会に地域の団体を集結させ、縦割りから横割りの組織づくりを実施し、顔の見えるまちづくりに協力していただきたいと考えています。
- 市長は南部地区をあまり重視していないように見えていますが、取り組みを具体的に箇条書きで示していただきたい。私自身は自治会長をやるのが2回目ですが、前回8年前と比べると、あまり変わっていないように思える。ただし今年は新型コロナの影響で、イベント集会、会議など全て取りやめになっているため、はっきりとして対策は分かっているのが実情ですが、前回自治会長を経た年から昨年まで防災会長をやっていたのですが、防災への取り組みが年々簡単になってきて、以前のように報告のための訓練になってきてしまい、実情に沿っていないように見える。事務局も各自治会に任せようという姿勢は分かるが、自治会は1年ごとに人が変わってしまうので、前年と同じようにやっていたら住人に叱られないで済むという安易な考えの会長が多いということを知っているのか疑問である。

- 住民の高齢化が進んでいる中、河川愛護等の事業に対し負担が大きい。現在各自治会にて実施している敬老会ですが、市内対象者がある程度の平等性は保たれているか、各自治会の負担が大きく感じられる。市役所職員の勤務について、フレックス制が導入されていないようであれば是非導入を検討してはどうか。市民からすれば相談等に行く時間帯が広がる。
- ドブ掃除作業について、100名くらいの人が集まるのでどういう風を実施するか悩んでいる。文化面で、美術、芸術作品を展示する場所を文化会館内とかに作ってほしい。防災面では東名高速道路に避難できるような階段も検討してほしい。
- 元気のいいシニア世代が増えています。自治会ごとでボランティア組織ができると良いと思います。ただし、役員はやりたがらないので小さな組織で、お茶代やちょっとした道具代の補助があると良いと思います。
- 地域の活動を活性化するために、自由に使える予算を協議会に配分してほしい。ヒモ付きの部分と、何にでも使えるものに。協議会活動の拡大のためにも、事務局体制の充実（職員数の増加）をしてほしい。
- 若者や若い世帯の人達に対して自治会活動が理解できるような宣伝や啓発運動のお願い。また転入者に対しても同じで、地域住民支え合って協力して生活していることが理解できるような工夫がほしい。
- 少子高齢化に伴い、美化活動（奉仕作業）が困難。
- 少子高齢化、人口減少が進んでいく中で、これからはますます地域の住民同士の支え合い、助け合いが重要になってくると思う。そして市民目線のまちづくりに向けて、今こそ住民自治の原点に立ち、市民と行政、議員の協働によるまちづくりの推進を図っていくことが求められていると思う。一案として、住民自治の原点である市民参加のまちづくりに向けて、地域づくり協議会ごと市内23ブロックで、住民主導のまちづくり会議（ワークショップ）を立ち上げ、地域の特性を生かした提案を求めていったらどうか。まちづくり会議の構成と意見の取りまとめは行政（センター長）が担当することとし、市民が何の縛りもなく自由に発想が出せる雰囲気づくり、わがままな発想も出るが、提案された意見を精査し、整理統合をして、市の将来像として総合計画に位置付けることを条件で、市民参加を楽しんでもらうことも必要と考える。
- ①地域の公会堂を日常的に利用してもらえよう、できるだけオープンにしたい。例えば、昼はサロン・喫茶店化、夜は居酒屋。②単位自治会の仕事の中で、地域協議会または交流センターに移せるものは移していく。例えば、河川の助成金の支給申請、自治会への助成金は一括に協議会振り込みにするなど。③コロナの影響で単位自治会の「敬老感謝会」を本年度は中止し、商品券のみの配布としたが、これを機に事業の見直しを検討するべきである。④道路脇の除草作業は業者任せにせず、道路に面した住宅、会員等に行ってもらようよう市から提案してはどうか。⑤各自治会が独自に除草作業をする場合は、市として資材（草刈り機、砂、土、軽トラ）を無償で使用してもらえよう、交流センターに配置してはどうか。
- 各戸への配布物が多いので、ネットでデータ受信可能な家庭にはペーパーレス化を図る。
- 市のアクションが遅い。地域の方への報告がしにくい。
- 花火の打ち上げ場所が変更になったため、家から見られたものが何も見えなくなった。どの家庭も花火大会の日は親戚や友達を呼び花火を楽しみ、会場にも歩いて行けた。会場は今の場所で良いと思うが、打ち上げ場所の変更を考えてください。

2 スポーツの振興

- ナイター設備のある野球場の整備
- スポーツ大会の誘致

- 磐田市から、かなりの良いスポーツ選手が出ている現在、スポーツのまちとして発展できればと思います。スポーツには若者が集まるので発展の源です。身近な所でスポーツができる場所や器具等、施設があれば良いと思います。観光としては遠江国の国府、国分寺を作り磐田のシンボルとするのも良いと思います。高齢化時代に入り、お年寄りが生きがいを感じるまちとして、娯楽やお年寄りに合ったスポーツ体操をしてコミュニケーションを取るのも孤独防止にもなると思います。
- ジュビロ磐田のホームタウンとして何が必要か。全国に通用する選手を育成するためには、スポーツクラブが必要だと思います。新潟、平塚など。そのために行政として支援する方法を考えてほしいと思います。今のジュビロでは応援のしがいがありません。
- 磐田市を全国区としているイベントは、やはりサッカー（ジュビロ磐田）であると感じています。モータースポーツで子ども達、市民が楽しめるイベントなど開催したら良いと思う。市内カートレースなど。
- ジュビロを強くして。
- 老人や子どもが気軽に集まれる場があると良い。例えば小さな図書館、小さな商店街など。空き家が多くなったので防犯のためにも空き家をなくしてほしい。地域のために活用できるものもあるのではないかな。

3 文化の振興と歴史遺産の整備、活用

- 日本全体の人口が急速に減少する中で、魅力に欠ける市町村は淘汰されてしまうように思います。生き残りをかけた都市間競争に残るには、磐田市に住んで良かったと思えるようなまちづくりを今後もハード、ソフトの両面で進めていくことが大切です。実際に新駅の開業、医療の充実、小中一貫教育、ジュビロのサッカー、ラグビーとその広がり、可愛い「しっぺい」など、魅力的で住みやすいまちづくりが継続的に行われていると思います。私が希望するのは、市民の心の拠り所となるような地域の歴史をもっと市民に広めてもらうことです。市内には遠江国分寺跡や銚子塚古墳をはじめ、多くの歴史遺産があります。これらを積極的に活用していくとともに、磐田の歴史を学べる博物館のような施設を作っていただければと思います。
- 本来市が行うものが地域づくりに委託されているものが多すぎる。自治会長の負担が大きい。内容の見直し必須。公園の樹木（桜の木）が老木化しており、至る所に落下して、子ども達、老人達に当たりそうで危険。公園課に申し出るも対応なし。何かあってからでは遅いし、責任はどうしてくれるか。今之浦公園の工事で小さな公園には手が回らないのか。至急対応（剪定伐採）を望む。総じて対応が遅い。予算、人手等を理由にして後回し。途中経過を連絡すべき。常識。学校で教わらなかったか。
- 「美しい磐田」を目標に、芸術的センスを取り入れるようキャンペーンを組んだらどうでしょう。

4 共生社会の推進

- 外国語のごみ出しメールを作成。

分野3 子育て・教育

1 子ども・子育て支援の充実

- これからは高齢者福祉事業よりも、少子化対策事業を重視すべきである。敬老会等の行事、予算は廃止して、シングルマザー等の育児貧困家庭の支援金に回す方が良い。

- 色々な施策が考えられる中で、私は「子育て、教育環境の充実、強化」が今後の地域の発展のために最も重視されるべきことと考える。磐田には気候温暖、交通アクセスの充実など、住環境としては県内の他の地域と比べても魅力ある土地柄であり、その特色を生かし、人が集まる地域として発展させるべくその目標に向かって諸施策を施したい。そしてその視点からテーマを推進したい。
- ①【人づくりと子育てコミュニティの醸成、環境教育を目的とした図書館併設公園】磐田市では「子ども図書館」ということで、子育て支援と図書館機能の複合化を図っています。素晴らしい事業で大賛成ですが、残念ながら福田地区には子育て中のお母さん達が自然に集まりママ友の輪を広げられたり、幼少期から本に自然と触れる機会を増やせたりするよう仕掛けができていません。豊田図書館は福田からでは行きやすい道路がなく非常に不便で、図書館にあまり積極的でないママさん達が行きにくい場所です。そこで提案ですが、福田中幼稚園の跡地に遊具を設置し、図書館と遊具と駐車場がある福田中央公園にしてほしいと思います。交流センターではママ向けのイベントも可能です。遊具があると子育て中のママ達が自然に集まるようになります。また、小学生なども集まります。その跡地の横には図書館があります。普段、あまり図書館に子どもを連れて行かないママさん達も、夏の暑い時期や冬の寒い時期には遊具で遊ばせつつ、図書館に入る機会も増えます。小学生も同様かと思います。自ずと本に触れる子ども達が増えると思います。そのように幼少期から本に触れる子ども達が増えれば、5年後、10年後には本に親しむ中高生を少しでも増やすことになり、地域の人づくりにもつながるかと思います。さらに、図書館や交流センターでは子育てママや児童向けのイベントも開催できます。例えば、ごみの問題を含め環境を守ることの大切さを子どもと共にお母さん達にも伝えることで、環境の時代に対応していける人づくりにもつながるかと思います。
- ②【産業連携によるスポーツ強化&健康寿命延伸～人づくりと産業づくり】こんなまちづくりができたらという夢です。既に磐田市ではジュピロを中心としたまちづくりや卓球場などの整備、スポーツ部活によるスポーツによるまちづくりを進めています。それらをさらに推し進めて、近隣大学などと連携を強化し、スポーツ科学、健康科学の研究とITの開発を推進します。スポーツ科学やITを活用することで、全国レベル、世界レベルの選手の育成や高齢者が楽しく健康寿命を延ばすことにつなげていきます（シティプロモーションにも活用）。また、スポーツ科学やITの技術力強化と人材育成を通じて地域の産業振興を図っていきます。新規産業が発達すれば若い人材も集まり地域の活性化につながります。そうした取り組みを市全体で金銭面、人材面から支援していけたら良いと思います。
- ①磐田市民の未来を純粹に考え、理不尽なしがらみにとらわれることなく、公平な立場を堅持して、政策を推進している現況を維持、持続してほしい。②子育て、教育分野は特に期待。「子育ての教育は磐田」のキャッチフレーズを推進してほしい。③スポーツの環境に恵まれている利点を生かし、スポーツの市を推進して元気があふれる市を期待している。サッカー、ラグビー、卓球、サッカージュピロの復活が夢。④外国人が多く住んでいる地の特徴を生かして、スマートアグリカルチャー事業をさらに発展させ、農業、工業の発展で人口減少社会を防いでほしい。⑤市民が住みたいまちは、安心安全のおだやかなまち。犯罪の少ない、犯罪者を出さないまちを実現させたい。⑥地区で考えている地区ごとの祭りではなく、磐田市全部が盛り上がる「市民のお祭り」があると素晴らしい。

2 特色ある教育の推進

- ①小中学校の普通教室へのエアコンが設置されたが、コロナウイルス対策により特別教室も活用している学校もあるので、全教室へのエアコン設置を。②指定避難場所が河川のそばや危険箇所にある施設が指定されているため、地域における訓練実施も不安です。また、市の避難所開設班担当も不安だと思う。③新駅「御厨駅」ができたが、駅からのバス発着もなく、また東新町系統の路線も運行終了では利用客増も望めません。地域活性化のためにも市内3駅を含む磐田市全体の公共交通体系を検討してほしい。④防災資機材の仮設トイレ（ベンクイックS型）は設置に時間がかかりすぎて使用不可です。簡単に設置できる仮設（簡易）トイレの整備を願う。

- 福田地区地域づくりの検討。【主旨】①小中一体校の方針に沿って、福田中学校を、福田小学校の敷地を中心に集約する。教育の視点（少人数）より豊浜小学校を集約することも考える。②学校の建物及び跡地は、（１）緊急指定避難場所及び指定避難所として機能を充実する。（２）地域の活性化のために、校舎を活用した事業の創設と学校スポーツ及び市民スポーツ施設として、市民サークルへ部屋の貸出、郷土館など市民文化の拠点として、ベンチャー企業への部屋の貸出など産業創設の拠点として利用を図る。【目的】①津波からより確実に中学生を守る。②中学校が南の端に位置しているので福田のほぼ真ん中に移すことにより、中学生の通学の負担を軽減し安全を確保する。③小中一体校の理念を实践する。④地震・津波・水害を想定した水害への備えとして、緊急避難場所及び避難所の機能を備えた小中一体校を作る。⑤図書館・中央交流センターは現在地に残し災害の備え対応できる施設として、文化の発展充実を図る。⑥子どもを安心して育てられるまち、災害対策が施されたまちとしてイメージアップを行い、福田地区の人口減少に歯止めをかける。⑦地震発生時の交通の流れを変え、交通の混乱を避けることで福田南地区の安全に寄与する。（１）南地区の住民の避難、南→北。（２）緊急車両、北→南。（３）中学生を避難させるための親の迎え、北→南（これらを減らすことにより、ぼう僧川に架かる橋の移動を確保する）。【ポイント】①福田中学校の建物・敷地。（１）指定避難場所及び指定避難所として機能を充実する。②環境の良さ（海と砂浜と松の緑）と駐車場が広く取れることを生かして、（１）今ある施設を充実させ、これらを利用したスポーツ施設・合宿所として運用する。野球場、武道場、体育館、サッカー場、テニスコート、市民プールなど駐車場が十分に取れるため、大きな大会も招致できるようにする。（２）市民サークルへの部屋の貸出、郷土館など市民文化の拠点として、ベンチャー企業への部屋の貸出など産業創設の拠点として、利用する。③豊浜小学校の統合。（１）緊急指定避難場所及び指定避難所として機能を充実する。（２）地域活性化の原点として、小学校として残したいが、一学年20名くらいなので統合した方が教育的に良いのでは…。小学校の徒歩通学は負担が大きいためスクールバスなどを考慮する。中学校を移転により豊浜地区の中学生の安全や通学の負担軽減ができる。（３）豊浜小学校は豊浜地区のほぼ中心に位置し立地条件が良いため、（１）体育館、プールなど建物・土地を利用し市民サークルへの部屋の貸出、郷土館など市民文化の拠点として、（２）ベンチャー企業への部屋の貸出など産業創設などとして、地域活性化を図る。【補足】福田中学校は私もまた私の子ども達も卒業し、砂浜、海岸、松林、ひばりの鳴き声やウォーターボーイズのレガシーとして愛着のある学校です。2019年9月13日には創立70周年の運動会を感慨深く見学いたしました。しかしながら、2011年3月11日に東日本大震災が発生し、あの津波の映像を思い起こすたびに、万が一の時の中学生の姿を想像すると、とても心配になります。①どのような津波が来るのか、②防潮堤が早くできてほしい、③ぼう僧川に架かる橋も古く耐震工事はされていると聞くが大丈夫だろうか、④万が一の時中学生の親達は心配して中学校の方に向かい、狭い橋は混雑し犠牲者を増やしてしまうのではないかと、⑤ぼう僧川は氾濫しないか、中学校は挟み撃ちにならないか、⑥子ども達を安全な所に置き、いざという時は躊躇なく自分達の避難を考えたい、近くの別の中学校へ通わせた方が良いのではないかと、とか色々な思いが巡ります。⑦究極の選択として、土地購入を別の地域としたり、転居したりとかかすと思います。また、福田中学校は学校区の南の端に位置し、ぼう僧川の堤防や自転車道など心配で長い通学路になります。豊浜地区、北部地区、西部地区の遠い所では約4kmと自転車通学とはいえ厳しいものがあります。
- ①御厨駅、ながふじ学府一体校、新市民文化会館などが整備されている旧磐田市、旧豊田町以外の地域の産業、教育、文化機関、交通網等の整備と充実。既存の施設や文化財等を市全体の発展のためにどう結び付けていくか。②小中一貫教育や一体校（学府構想）の全体像が分からない。ながふじ学府、向陽学府、…その後はどうなっていくのか。小学校がなくなることは、その地域に大きな変化を与える。③水谷・伊藤選手の卓球での活躍、ジュビロのサッカー・ラグビーなどスポーツ面で話題の多い磐田市ですが、その他の文化面の育成にも力を入れてほしい。小学校5、6年生のジュビロ観戦は本当に必要なのでしょうか。何かと外部からの要請が多い学校の教育活動に少なからず影響を与えていると思う。もしも学校が忙しくないのなら、芸術、文化鑑賞会などに変えていくのも一案。④新型コロナウイルス感染症対策では「医療体制」「教育支援」「経済支援（企業・家庭）」など様々な課題が山積しています。政府のようなちぐはぐな政策にならないようによろしく願います。今後の市の財政も心配です。

別件ですが、7月末に唐突に依頼された「家庭の防災点検実施依頼」について意見があります。7月に避難所運営会議があったが、その時にこの件の説明もなかった。①チラシの表にある「裏面に点検票があります」の文字が小さい。表だけを見て処分してしまう家庭もあり得る。回覧版には市からのもの以外に、地域協議会や各自治会の回覧物や配布物がある。②集計表を後日回覧することになり二度手間。しかもチラシを確実にとってあるかも懸念される。③一覧表には「例」の下に番号があるだけでどこに書けばよいか分かりにくい。④一番の問題は「プライバシーの保護」の視点が軽視されていることである。回覧板は地域で回覧順が決まっている。回ってくる順番で「どの家庭がどのように回答したか」が、後で記入する人に分かってしまう。また、それを懸念して正直に回答しない家庭も出てくることが考えられる。現時点の情報として、「組長のところに戻ってきた時に半数以下しか記入されていないので、回覧をやり直した」という組もあった。また、「うちは何も対策をとっていないようで嫌だ」という人もいた。チラシの下の方（切り取り線以下）に回答欄を設け、切り取って回収袋に入れるなど、個人のプライバシー保護に留意してほしい。

3 子ども・若者の健全育成

- 今後の磐田（静岡）を背負っていく子ども達が、明るく元気に挨拶できる青年に育ってほしい。私は交通指導隊（3年目）、青パト（8年目）、子ども見守り隊（16年目）となりました。子どもと接するのが好きで、自分から挨拶できる子どもが減ってきている気がします。挨拶できない子どもは、どうしても印象が薄く、暗いイメージがします。学校でも挨拶の重要性は十分説いていると考えますが、併せて家庭でも、よく子どもに言い聞かせてほしいと思います。私の個人的見解ですが、両親がきちんとした挨拶ができない家庭の子どもは、どうしても挨拶ができません。まずは将来の人材育成の基本の基本から。

分野4 健康・福祉

1 地域福祉の推進

- 自分の住宅地域は、市内でも生活利便性が低く、交通弱者になった時など将来の不安を感じさせる地域である。地域でスーパーマーケット（宅配も行う）や巡回オンボロバス（小学校が遠くになっても低学年の運搬に使える）などを経営し、ちょっとしたお小遣い稼ぎにもなって、高齢者になってもあまり不便を感じさせないような地域になれば良いと思う。
- 核家族、高齢化が進んできており、その人達への生活維持支援の充実。
- 高齢者社会が進む中で高齢者が日々気兼ねなく集まれる施設があれば、それぞれが生きがいをもって楽しい人生が送れるのではないのでしょうか。

2 高齢者福祉の推進

- 市民にはそれぞれ立場、年齢、地域、考え方などによって市に対する見方が異なりますが、できるだけ様々な声を吸い上げ反映されるようなまちづくりを期待したい。その中で最も大きな問題は高齢者のことです。私の親族は高齢のため運転免許証を返納することに決めました。しかし、そこで公共の足はない。タクシーは金がかかるなど、返納させるのに大変苦労しました。それは一つの例ですが、様々な市民が安心して暮らしていけるまちに果たしているのか疑問です。市がやろうとしていることが机上の空論になっていないか、市長はじめ役所・議員の皆様が街中に降りてきて街の皆さんの生活を肌で感じ取ったうえで市政を見つめていただけたらと思います。

- 今の日本、磐田の最大の課題は「高齢化」だと思います。ひとり暮らしの高齢の方も増加しているのが現状です。そういう方々への支援等をどうしていくか予算面を含めて計画的に対策していくことが重要と考えます。2つ目の課題は、少子化の問題です。日本の国が今後とも発展するかは人材に関わってきます。少子化をなくす努力をしないと日本はきっと取り残されると考えます。3つ目の課題は、安全な日々を送るということです。外国人の方も増え、安全面では心配です。ぜひ防犯カメラの設置を置くなどして犯罪をなくす努力をすることが大切と考えます。4つ目の課題は、教育の機会均等です。新しい校舎で学ぶ子はやる気が倍増するでしょう。でも古い校舎で学ぶ子にとってはどうでしょうか。古い校舎には修理が多くかかると思います。予算付けも例年通りではなく、古い校舎には予算を多くするなどの配慮が必要と考えます。もしそれができないなら、新しい校舎を考えるべきです。
- 高齢化、少子化が加速していくと思うので、それに対する対策を考えていく。
- いつまでも安心して住めるまち、住んでいて良かったと思えるまちづくりを目指してほしいと思います。具体的には、自分自身だけで生活していくことが難しくなった時、速やかに入居できる高齢者施設が整っていて、料金も心配せずに利用できる程度で、介護の質も良い施設の整備をお願いしたい。防災面では、自然に立ち向かうのは大変です。安全面を考えるとキリがないので、そこそこの整備で良いのではないかと思います。万一に備え、避難所に指定されている所のパーティションやダンボールベッドの確保などの整備を進めていただきたい。

分野5 防災・消防・安全安心

1 危機管理・防災対策の推進

- ①防災に強いまちづくり。柴田山遊水地の有効活用。貯留施設を地下に設け、地上に公園、運動場、駐車場として利用。いざ災害時に防災の拠点として住民の避難場所に充てる。②空き店舗、空き家が増加傾向の中、歴史、文化の街並みを維持しながら若者が食べ歩きできる商業の集積を図る。③藤枝市の官民連携のまちづくりを参考。活性化連絡会を作る。駅周辺等、より住みやすく賑わいあふれるまちにするため、イベントの開催、空き店舗対策、再開発事業等、様々な事業に取り組む。
- 今之浦地区は内水面氾濫による水害が何回も発生し、強い危機感を抱えています。行政による対策により、住みよい環境づくりを特にお願ひしたいと思います。例えば、水位センサーをつけて氾濫する前にポンプ場のポンプを稼働させることなどはすぐできると思います。安全、安心なまちづくりに市の協力を必要としています。対策の実行をお願ひしたいと思っております。
- 北部の調整区域を見直し、北部が発展していくと良いと思います。海に近い所は津波が心配です。
- 災害に強いまちづくり。企業誘致の推進。地産地消の推進。介護医療体制の充実。外国人との共生ができるまちづくり。
- 防災対策は考え直さなければならない。ハザードマップでは大雨で浸水する恐れがある。地震では液状化する恐れのある場所に小学校、公会堂があります。これでは防災拠点にはなりません。避難所運営をどうのこうのという前に、どこに避難所を設けるかが問題ではないでしょうか。我が自治会では最適な場所があります。それは高台の公園です。50年、100年に1回と言われる災害が毎年起きている昨今です。公園を潰して公会堂を建設（駐車スペースを確保する）し、防災拠点とするのが一番良いと思います。
- 異常気象に対応できる河川の整備。氾濫対策、草刈り。道路の整備。生活道路の整備。夢は、ジュビロ磐田 J 1 リーグ優勝。市を挙げて応援、支援していく。
- 防潮堤をできるだけ迅速に進める必要があると思います。少子高齢化は磐田市の大きな課題と思われます。他の地域から若い人達がこの地区に来て家を建てるのが可能になるように、土地についての法律（青地）について制限を緩和するよう検討して行くことが大切であると思います。台風等で一時的に避難する場所は、学校の体育館から避難設備の整っている地域の交流センターにしていく必要があると思います。

- ①自然災害が多発する市、減災に向けた社会インフラの整備。②自然環境（山、川、海）を生かしたまちづくり。③人口減少を見越した政策の実施（外国人の誘致、観光）。
- 防潮堤の早期完成の実現、福田中学校の移転。
- 南海トラフが懸念される中、津波避難タワーや防波堤の増加によって津波計画区域に住む住民の安全が確保されることが望まれる。
- 当方は海岸に近いので、津波に対する不安が大きいです。まずそこを解決してからだと思います。
- 大雨時の洪水が怖いので、川の整備に力を入れてほしい。
- 市の海岸部は東北地震の津波以来、生活基盤としての人気は下降し、地価の下落が続いています。千年に一度とも言われる災害の準備として、防潮堤の嵩上げ工事も行っています。現在、BGやキャンプ場は県外の評価も非常に良いと聞きますし、昆虫公園も日に日に知名度も上がって来館者も多くなっているように見受けられます。天竜川河口ではマリンスポーツをする人も多く見受けられ、また釣りに至っては多くの魚種が望めるので人気も高いです。こんな魅力のある海岸部を今後も多くの人々が楽しめるように、施設の整備をするのも市の活性化につながるのではないのでしょうか。
- 【防災について】防潮堤整備計画（2030年まで）はやっと完成した。また天竜川下流域の土砂、草木が取り除かれ住民の津波・遡上への心配はやっと少し減少した。避難所の見直しはまだまだ必要であり、地震・洪水・津波等の避難所・避難場所機能を検討すると、かなりの数で収容能力が足りず、準備の必要がある。天竜川、太平洋が間近で、ハザードマップの浸水地域ばかり。【新文化会館・教育・定住について】小中一貫教育下、中学生が小学生の学習を月1回マンツーマンで見ている。新しい試みで、仲間意識、こんな先輩になりたいと小学校にやってくる。小学校の放課後児童クラブはこの新たな会館の建設によって、室内スポーツ広場もあって、雨天でも遊べる。またボランティア活動により各所のスクール、絵、書道、工作も利用できる。この新館は高齢者の広場、サロンの機能を持つし、小学生の放課後の講師にもなる。ここでは町の歴史の展示説明を聞くことができます。誰も注視しない今の展示館を移転する。ここでは江戸時代からの文化財を展示し、文化に触れる機会を増やす。江戸時代の文化財の「街歩き」を年数回実施している。洪水、台風、地震の避難所・避難場所として考えられる防災避難機能を付加した施設となっている。高齢者にも優しい。【福祉について】ゲートボールをやる広場が文化会館の周りにある。ラジオ体操も開催場所としている。買い物支援、ごみ出し、見守り支援等々の活動拠点がある。自転車、徒歩で気軽に寄れる。相談機能もあり。
- 台風、集中豪雨により天竜川、ぼう僧川が氾濫し、決壊するのではないかと不安がよぎります。またいつ避難したら良いのか判断できません。近隣にライブカメラがあれば状況を見守ることができると思います。避難指示を出す説得力にもなります。
- 住みよい（安心・安全）地域づくりのため、河川の整備をお願いします。
- 豊田東地区に住んでいるのですが、東小学校があと何年でなくなるのか、その後土地はどうなるか、避難所としての機能等はどうなるか。
- 浜松市同様、早く防波堤を作るべし。
- 住みやすい地域に早期に実現していただきたい。特に水害、土砂災害など雨が降るたびに不安になるので少しでも不安が和らぐようになれば良いと思います。
- 災害を受けた時に生活のライフラインの充実（道路、水道）、獅子ヶ鼻公園の立ち入り禁止はいつまで続くのか。獅子ヶ鼻公園の立ち入り禁止中（人が入らない時）に整備した方が良い。災害などの時、途中経過を知らせてほしい。報告がない。災害の起きる前に事前に木を切ったり、枝を切ったりしたらどうか（停電の可能性あり）。役の数が多すぎる。小さな自治会はブロック単位で役員を出す。1単位の人数、軒数を決めてそれを基準にする。
- 南海トラフが懸念される中、津波避難タワーや防波堤の増加によって津波計画区域に住む住民の安全が確保されることが望まれる。
- 当方は海岸に近いので、津波に対する不安が大きいです。まずそこを解決してからだと思います。

- 海岸整備のさらなる推進。今ノ浦川の河川護岸運動の推進。

2 市民生活の安全・安心の確保

- 安心、安全に生活できることが一番。感染症対策、防災、防犯、医療体制の充実を最優先とし、頑張ってください。衣食足りて礼節を知る。コロナ終息後、文化の前に経済を。
- 老若男女が安心安全に暮らせる市にしてください。
- 青パトの見守りに行ってから私は2期目になりますが、西部地区にはほとんど人影を見ないのが現況。主な場所には、防犯カメラ設置の方が効果があると思う。また2000ccクラスの自家用車で行っているの、狭い路地が多く、危うく接触寸前もあった。青パトの継続について今後は協議会で検討することとします。
- 地域の人達が、安心して生活ができるまちづくりをお願いします。
- 市民が安心安全に暮らすために、高校生等の通学路の街灯の設置をお願いしたいと思います。学生から夜道が怖いという声をよく聞きます。
- 新型コロナウイルス感染者情報の更新が遅い。子ども達の通学路に、より多くのグリーンベルトの設置。豪雨災害とコロナ対策のできる避難所の必要性。

分野6 都市基盤・環境

1 計画的な土地利用の推進

- 東名磐田IC周辺の整備をしてください。高速道路の出入口は、どこでも商業施設、飲食店、ガソリンスタンドなどが目立ちます。場所によっては倉庫や工場などがたくさんある所もありますが、ほとんど何もない所は少ないと思います。袋井IC他の周辺に行って、飲食店を探すことなどないように、区画整理等で商業施設を作ってください。静岡産業大学は1994年頃、市が多額のお金を出して誘致して、磐田キャンパスを開校したと聞いています。大学では市民講座を開講、サッカー等で活躍していますが、周辺は文化・教育施設には程遠いような気がします。駅からは大池などの素晴らしい景観もあり、その周辺から美術館、文化会館、スポーツ施設などを配置して、文化・教育エリア（区域）にできたら良いと思います。まちづくりですので、何も短期的にできなくても、将来こんな風になっていくと夢を描けるようになれば良いと思います。ヨーロッパの街などでは100年以上の歳月をかけて都市建設を進める所も少なくありません。何も「〇〇力、ナンバーワン」などと一等賞になる必要はありません。ごく普通に住みやすく、ここに住んで良かった、さらには、いつかこんなまちになって行くと、街の将来像を皆で話し合っていけるような、自分が住むまちを自分達で創っていくと考えられるところが良いと思います。
- 農地については柔軟な対応により有効活用を図る。商業については活性化が期待できないので工業団地の造成、企業立地を推進し、それに伴う人口の増加、税収入増を図るべきだと思います。
- 近い将来、自動運転の四輪車が実用化されると思う。それを前提に、自動運転車の活用、また市民の行動様式の変化を予測、検討し、これからのまちづくりや商業振興策を考えていただきたい。
- これは無理なこと、また夢かもしれませんが、磐田農高を市有地に移転して、中央の大きな土地を色々な面で利用できたら、かなり市の活性化につながると思いますが。
- 現状として、分散化→閑散→沈滞。打開策。磐田駅をハブと位置付け、その付近をドーム化し風雨を凌ぐ、役所、図書館、文化会館、病院等の公的機関を集約、歩いて30分くらいで移動できる範囲に置く。また大きな設備がいないソフト産業を誘致し、磐田駅辺りに本社機能を置いてもらう。駅以外は工業団地を増やし、日本の得意な製造業を誘致し雇用を増やす。野菜工場もしかり。一も二も産業。

- ①自分の自治会には耕作放棄地や使われなくなった畑がたくさんあります。土地を買って家を建てたいという声をたくさん聞きますが、その土地には家を建てられないという規制があり、土地の売買ができません。使いたい人がいれば自治会の人数も増えるし、荒れた土地も減ります。もう少し自由に家が建てられるようにしてほしいと思います。②市民会館の設置に対し、コロナ感染に向けた対策は立てられているか。今まで同様、舞台活用ができるのか。野外ステージの構想はあるのか。コロナ前の建設計画が進められているのであれば、今後の活用が心配されると思います。③これ以上コロナ感染を増やさないために無料のPCR検査体制、抗体検査体制を至急構築していただきたい。コロナに対し、市の抑止に向けた取り組みが全然見えないと思います。④防災訓練に向けた防災活動ではなく、実務に向けた防災の提案や取り組み（特にコロナ対策）がまだできていないのが残念。コロナで8月の防災訓練は中止、12月6日の訓練のシナリオがまだできていないのでは、秋の台風本番に向け自治会としてどのように動いて良いか、早急に掲示してほしい。
- 高齢化に伴い、農業の後継者不足により、耕作放棄地が多く見られることから、地目変更を容易にできるように対策し効率的な活用を考えてください。このままにしたら荒れた土地が多くなります。
- 磐田市は海岸、平地、台地そして山林に恵まれています。このことを生かし、観光及び産業、農業を主に計画の上、それに関わる居住地域を形成することが望ましい。年代、世代別に利用できる補助金、サービスを分かりやすく一覧にして広報する。
- 磐田市のまちづくりに直接は関係ないが、今現在北部地区は人口減少、農地放棄、農業従事者不足等々あり、現在も厳しいが、これから数年、土地をどうすれば良いか困る人がもっと多数出てくるでしょう。農地転用を許さない農地法、畑の中に埋められたかん水のため、一生支払わなければいけない分担金。それがガンで北部の頑丈な大地には他から家を建てたくてもできません。竜洋、福田等、海岸近くの方は津波が怖くて引っ越ししたくてもできません。それでは他の市へ移住したくなるでしょう。磐田市の人口は減る一方です。人口が少しでも減らないよう考え、北部地区にも家を建てることができれば磐田インター近く「ゆめりあ」辺りは工場等がもっとできて、その社員も北部地区に家がほしくなるでしょう。浜松、袋井を見てください。東名高速道路より北側に、個人宅を新たに建築できないなんてことはないでしょう。磐田市だけ特別なのです。それが磐田市の弱点であり、現時点での汚点です。昔、お茶が高く売れた時期が汚点です。今は昔の何分の1で何ともなりません。早く市政の判断で自由に売買できるよう助けてください。大勢が困っています。

2 公共交通体系と道路網の整備

- 各道路脇の草が多く、見た目が悪い。道路の白線、黄色の線、停止線が薄い所が多い。
- 通学路に関係する道路及び歩道の整備
- ①各地域にまんべんなく分散する施設や施策ではなく、人口減少や少子高齢化や環境美化を想定した長期ビジョン構想のもと、まちづくりや施策を行ってほしい。基本となるのはメリハリのあるコンパクトシティ化と安全便利な移動手段（人中心、人にやさしい）。②将来にとって最も基本となることは子育て、教育人材育成の充実。将来を担うのは子ども、若者であり、親は子どものことを第一に考える（祖父母も同じ）。子育て、教育環境の良い所に家族は集まる。良い人材が多い所に事業者は集まる。将来の磐田市を担う人材を育て集めることは、磐田市の継続的・持続的発展につながるのではないかと思う。

- 天竜川に架かっている橋の数を増やす。どの橋も通勤、帰宅時間になると大渋滞を起こしています。橋の入り口、出口の交差点から数百メートル。大渋滞しているにも関わらず、狭い民家前の道を信号機を避けるために、速度を落とさず通過していく車がたくさんあります。子どもがいる家もあり、大変不安になっていると思います。一般の人達が信号機のある交差点で、順序良く待っているのに、脇道を通り自分だけは早く行きたいと運転している人を見ると腹立たしく思います。ルールが守れない人は損をするような道路づくり、先のことを考えお金がかかっても立体交差点などを作っていくべきだと思います。渋滞による無駄な資源の消費、排ガスによる地球温暖化防止にもなります。
- 将来、運転免許を返納しても気軽に外出できるような交通インフラの整備。自動運転が実現すれば可能と思います。
- 新駅ができたが通勤・通学だけの駅にしたいので、周辺の整備や宣伝をして外来者に来てもらえるようにしたい。また生活の場として高齢者・障がい者が外出できるよう小型バス（定期バス）路線を確保してもらいたい。高齢化をしていく中で空き家も増えてくるので、新しい人に来てもらえるよう市と協力しながら町をつなげていきたい（インフラはもうあるので）。御厨地区に埋蔵文化施設を作ってもらいたい。分所みたいなものでも良い。広い道ができたが、事故の防止のため徹底した道路の安全整備や周辺の住人（通勤圏にある地域も）に安全教育を地域や市、警察と協力して行っていきたい。大雨が多くなり、かつ台地（上流）の開発が進み水を吸収する地面が減り、コンクリート地面ばかり増え、急激な出水が道路の水没を促進している。安心できる河川づくりを考えてもらいたい。
- 行き止まりの道路を減らす。うちの町内には多く、間違っ入ってくる車も多い。通勤時間帯に道路が渋滞する原因として、右折帯がなく渋滞する→右折帯を設置していく。通学路の歩道を両側に設置していく。集中豪雨による水害（線状降水帯）被害が各地で発生しています。いつ起きるか分かりません。身の回りの地形や土地の高低差がホームページの海拔図は拡大しても地図が見にくい。数字だけの記入で高低等分かりやすいように。昔は田んぼが多かった地域にも家ができて、平坦になってしまった。田んぼが貯水池の役目になっていたがこれで良いのか。
- 和口橋を早く直してほしい。御厨駅までのバス路線がほしい。
- 磐田市になってから竜洋が活性化されていない。なぎの本会館などもう少し気軽に活用できるよう、竜洋にも市内コミュニティバスの運行を多くしてほしい。
- 少し前までは茶畑だった所がソーラーや耕作放棄地になってきていて、景観が悪化している。市街化調整区域の線引きの見直しが必要と感じている。
- 県道磐田横川線の道路拡張、路肩の強度化。

3 良好な住環境の整備

- 御厨駅ができ、新入会者がどんどん増えている。今は村でもだんだん町になっていくような気がしています。
- ①子ども達（特に幼児）の遊び場が少ない。浜松か掛川等では多目的な大きな公園があるが磐田市にはない。②磐田市の広域放送が反響し、聞きづらいところがある。③通学路の見直し。主幹路には緑線を引き表現する。注意する所は大きく表示する。④新型コロナウイルス感染症の注意を常に呼びかけ、衛生面での必要用具の情報、対応策を広報通知する。家庭内防災の一つとして行う。
- 運動公園の整備。特に春先と夏場にかけての草刈り等をやってください。
- ①豊田駅周辺や歩道等に草が茂っている。ただある周期では刈っていると思う。目線が違って市の職員も担当は違うにせよ、車が多く見られる。私は他から豊田駅（南北同じ）を利用した人が来たら、何だここはと思う。自分も仕事で出張して多くの駅を利用したが、ちょっと他の駅と違い残念に思う。対応策としては、周期を短くするか、生え具合で刈る。②豊田町駅北西側にある駐在所誘致用地は何十年も空き地であるが、どのように考えているか。税金の無駄遣いです。近隣地区と協力し合っ誘致ができないか。駄目なら他に活用するとか検討してほしい。

- 磐田のまちづくり、どうしても人口の多い市街地へ目が向いている。市街地には一通りの基盤整備ができていていると思う。中心地から離れた竜洋、福田、豊岡地区への住環境整備を望む。周辺地域の整備には市街地に比べ、少ない予算で効果的な成果が得られる。河川改修や下水道整備、道路拡張など一向に進んでいません。チョビチョビと予算を付けるのではなく、ドーンと予算付けして一気に整備してもらいたい。市街地と周辺地域の交流の場を増やしてほしい。市職員、市議会議員、各種団体役員はもっと周辺部に足を運び実情を把握してもらいたい。

4 環境にやさしい社会の確立

- 静かに落ち着いた暮らしができる地域になるよう努めたい。今ある自然環境を残し、将来に渡って保持していきたい。
- 年に2回春先と秋に排水の草刈りをしますが、法面の角度がきつく滑って危険ですので、何とかありませんか。

5 快適な生活環境の確保

- ごみの不法投棄が多く悩んでいる。またスタッフが高齢のため、人から人への伝達、次年度へつながらない。
- ①ごみ問題に対する市の対策が見えない（未回収ごみ等）。②住所と参加自治会が合わない。③卓球のオリンピック代表を、市として全面的に応援する姿勢が見えない。④コロナウイルスに対する自治会活動の方針を市が明確に指示を出してほしい（イベントや会合の開催など）。
- ①環境問題では行政にお願いしたいことはたくさんあります。道路とか上下水道や排水（雑排水）等。②住宅件数も減少してきていまして、近隣地区との合併問題も話には出していますが、良い返答もありません。これからも進めていくつもりですが。③これからの磐田市の方向性については、地区ごとに話し合えば良いと思いますが、地元で農業をやっている人や自営業にて頑張っている若者達の意見を聞くことが大事だと思います。今までより、これから地元で生きていく人の生活のしやすさ。④火葬場は福田まで行くには遠すぎる。中間か北部にも必要だと思います。
- 新駅ができてバス路線が廃止になるなど、新駅が生かされる要素もなく高齢化ばかり進んでいく。ひとり暮らしの車を持たない老人がどのように搬入ごみを捨てるのか。ダンボール等も収集はなくどうすれば良いのか、自治体のごみ置き場に持って行ってもらえなかったごみの山を、なぜ自治会長が片付けなければならないのか。これでは自治会長になりたくないのは当たり前です。分別ごみの区別が細かすぎる。

分野7 行財政改革

1 効率的・効果的な行政運営の推進

- 用事があり時々市役所に立ち寄りますが、前と比べますと随分各職員さんの感じが違います。挨拶、声掛けをしていただき、こちらも大変気持ちが良いです。市政も市民に寄り添う気持ちで考え、行動していただければありがたいと思います。まちづくりの基本は住みやすさだと思います。私も転勤族でしたが、結婚した次女が名古屋に住んでおりますが、磐田市の方がコンパクトで近くに何でも揃っていて住みやすいと言っていました。小中高学校、図書館、スーパー、コンビニ、飲食店等、デパートらしき店もあり、確かにそうだなと思ったことがありました（磐田市見付在住）。ところで市役所本店はあと何年使う予定ですか。防災上のこと、各支所、各課分散型で頑張っておりますが、将来の設定は早い方が良いのではありませんか。
- 磐田市全体として中心部から豊岡方面や南東部など予算の配分に大きな偏りを感じる。中泉、見付に対する向上が感じられない。交流センター1つにしても見付は古く、改良の予定も見られない。

- 具体的に何かアイデアが…とは記述できませんが、磐田市のまちづくりに欠かせないことは「現場・現実・現物」でもって市民とコンセンサスを図ることかと考えます。行政（市議会）で進められること。市民（ボトム）からの提案されたこと。いずれの推進もコンセンサスを図らないと、うまくいかない場合が多々あります。
- 人口の少ない所は合併を進めてください。
- 第一に今の市民に何が必要で何が大事でどんなことをしなくてはいけないのか等、しっかり考えてから市政を行ってほしいと思っています。市民会館が新しくできないうちに古い所を解体してしまい、そこを使用して合唱コンクールをしていた中学校はどこでやるのか。しかも他へ行くとなったらそのバス代はどこから出すのか。聞いた話では、資源回収を通常より1回多くやって、その資源とするとのこと。市民に不安や不満をできるだけ持たせないようにお願いしたいと思います。
- 住民の目線で住みよいまちづくりを。歩いて買い物に行けるか、宅配等の充実（ネット販売でなく普段の生活に必要な食糧、生活用品）。バス路線廃止の見直し。市財政からの補填検討。高齢者、ひとり世帯への定期的な声掛け。電話確認等（民生、児童委員への依頼も可）。各課の皆様には、道路回箇所の修繕、道路沿いの草刈り等、迅速な対応をいただきありがとうございます。各世帯からは様々な要望が出されます。これからもお手をかけると思いますがよろしく申し上げます。
- 【所感】磐田市の活性化のためには人口増加、企業誘致が重要と考えます。そのためにはまず現住民が、磐田市に住んでいて良かった、これからも住み続けたいと思えなければなりません。皆がそのように思えれば自然と住民も増え、企業も増えていくと思います。「住みよいまちづくりを行うためには原資（資金）が必要です。原資を確保するためには納税額を増やす必要があります。納税額を増やすには納税者（住民、企業）を増やすことが必要です。そのためには住みよいまちづくりが必要です。」と堂々巡りの議論になってしまいます。住みよいまちとは、①安心、安全が感じられる（犯罪が少ない、災害被害が少ない、医療体制が整っている）、②利便性が高い（買い物する場所が多く、近い。公共交通機関が充実、安い。）、③子育てがしやすい（幼稚園、学校が多く、近い。教育費用が安い。）、④街が楽しい（楽しく参加できるイベントがある。街中に人が多く、活気がある）、⑤誇れるまち（閑静、歴史文化を感じる。土地代が安い。）⑥生活コストが安い（税金、公共料金、土地代が安い）、⑦働く環境が整っている（企業が多い、勤務時間が短い、最低賃金が高い）。これらは「総合計画における31の基本施策」にはほぼ織り込まれていると思いますので着実に進めていただきたい。【提案】磐田市には「ヤマハ発動機」「NTN」「スズキ」等大手製造業の工場があり、どちらかという工業都市の観が強いですが、福田漁業を中心とした漁業、高級ハウスメロン生産、高台地区の製茶等の第一次産業も盛んです。しかしながら第一次産業（農家）は下記の理由等でイメージが悪く、後継ぎや若者の新規就労が危機的な状況です。①天候に左右され、休日もあつてないようなもの。②季節による繁閑の差で安定収入が得られない。③暑い寒い労働環境と力仕事。これらのことを踏まえ、輸送機器工業製品の生産技術力と第一次産業の生産ノウハウ及びバイオ技術を融合した「食料工場」を構築させて、磐田市内食料自給率70%を目指す。さらに既に開設された農林環境専門職大学、歴史ある県立磐田農業高校との連携で若者の従事者を増やす。既に磐田市内でも一部の企業で実現されていますが、行政と民間が共同しての第三セクター方式のプロジェクトとして進める。「食料工場のイメージ」①社会組織として人材確保、所定労働時間の管理、人事制度に基づく処遇、②ハウス生産が可能なのは、冷暖房完備の室内生産、③屋外生産品には自動走行トラクターとドローン散布機等による自動化の推進、④直売施設を併設して、会員（磐田市民）には特別価格での販売、⑤バイオ研究機関と協力しての研究併設、⑥地元農家の方は従業員として働いていただく、⑦地元出身者の優遇（地元学校卒業生、Uターン等）、⑧託児所併設により女性が働きやすい環境整備、⑨農業体験や新技術と触れ合うことができるイベントの定期開催、⑩個人に貸出可能なプライベート田畑エリア設置。行政の役割…立地場所の確保。国、県からの補助金の確保。高校、大学、専門学校への就職支援。JAとの調整（販路、既得権益）。協力民間企業の税制優遇。企業の役割…技術者の派遣及び技術提供。開発費の投資と株主としての提言、指導。会社運営のノウハウ提供と指導。

- 市議会が機能していない。市（市長）の政策発言を議員または職員に理解させてから発表してもらいたい。国分寺跡地の公園化、今之浦の遊休市有地の公園化は、災害時での使用目的があるのか。
- 今之浦市有地や磐田駅前の桜の伐採など市民の残してほしいとの要望に対して、適切な回答がなく、またその後の実施対応など説明不足の上、開始するのが性急に感じます。無視しているとは言いませんが、一時保留、延期して見直すことも必要ではないかと思います。行動することは良いですが、無理を通すと市民との感覚のズレが大きくなることを危惧します。
- どの分野においてもバランス良く発展した総合力ナンバーワンのまちを目指し、長期に至った活動は理解し評価します。今後はここまで進んだ磐田市を見て目指す姿に向けた重点指向の迅速な活動を望みます。
- 特に集合住宅居住者については、自治会に個人情報伝わらないケースが大半となっているにも関わらず、住民へのサービス提供は自治会に負担をかけているのが現状。市役所の機能を改善すべき。
- 市が交流センターに出向き、まちづくりのための意見交換会をやったらどうか。2～3か月かけて23か所回ったらどうか。アンケートだけでは十分な意見反映ができない。31項目は総花的であるので、最終点として3項目に絞ったらどうか。
- いわたホットラインを活用し、配布物を削減する。磐田市ホームページに各自治会の伝言板を作って各自治会のイベントや訃報の情報を載せられるようにする。自治会連合会のホームページでも良いです。民生委員の選定に大変苦勞しています。磐田南地区全体で民生委員とサポーターとで見に行く方法で検討してください。民生委員を経験した方は、2回目は絶対受けてもらえません。民生委員の制度も見直す時期になっていると思います。市民に任せることが難しいと思います。
- 市民を大切に。
- ①市からの回覧物が非常に多いと思います。広報いわたの中に集約できませんか。②新型コロナウイルス感染がまだまだ安心できません。そのような中、新しい生活環境を築いていかなければなりません。検査体制を充実して、万が一に備え、病床数の確保は早目の対応を願う。③消防団の組織強化問題、団員加入問題について特に検討してもらいたい。④支所の要望申請等の受付対応が非常に良い。今後ともよろしく願いいたします。
- SNSの活用
- ①磐田市の強みを生かしたビジョンを対外的に発信すべき。現状は総花方式で磐田市の魅力が出ていない。②地域別での運営は地域の特性を生かし役割を細分化させる。個別特性を生かし、市民全員の参加意識を高める。③無駄無理を排除し中長期的な財政基盤の充実を図る。人気取りの表面的な施策が羅列されている傾向。④磐田市の基本施策は全体的には妥当。ただし、主な行動内容を精査すると実質的な効果が上がるか、検討の余地が多い。より実効性の高い手法、施策を検討すべき。
- 磐田市では「いわたホットライン」があります。市内、小中学校では活用していますが、地域別がないため、100年以上前から同様の回覧しか連絡方法がないというのはどうなのでしょう。確かに高齢者はスマホを持っていない人が多いので回覧の方が確かであるとは言えますが、全体の世帯を踏まえれば、地域地区のホットラインがあると助かります。聞くところによれば一時期検討されたことがあったらしいです。再度検討を願いたいです。
- 全戸配布物を回覧にすると、かなりの経費削減になると思います。その分、他の活動に回せます。
- 全戸に配布されている広報いわたは冊子全体に費用が掛かり過ぎています。第一段階として、いわた羅針盤くらいにする。最終的には新聞のようにする。豪華にすれば関心を持って見てもらえることなどない。経費削減を願います。子育て支援について。保育園、こども園の新設は良いが、園の現場は保育士不足で深刻な問題になっている。
- ウィズコロナの時代は、人が移動しなくてもオンラインで様々なことを行える世の中になるものと想定されます。市ではそんな先行きを見越し、周辺自治体に先駆けて多くの家庭にて専用のネット環境を整備し、高齢者のタクシー予約からあらゆる行政サービスが自宅にいながらにして受けられると良いと思います。また、様々な国籍の方が等しく教育を受けられ、市民として、納税者として自治会員として当たり前のように活躍できるようにしていければ良いのではないのでしょうか。

2 持続可能な財政基盤の確立

- 磐田市に納税して良かったと思えるお金の使い方に期待します（箱物でない）。とにかく今はコロナが収まらない限り何も始まらない感じがするので、それからですね。
- 幅広く意見集約し、税金の効率的な運用を。
- 中心街ばかりの活動ではなく、北地区及び山間地域の活動に重点を置いてもらいたいです。

3 機動的な組織体制の構築と人材の育成

- 将来的には、日常生活圏に行政の出張所を配置すべきと思う。そこに高齢者、子育て支援、社会教育、まちづくり防災の職員を数名配置し、住民組織とよく議論し、地域内にある公共施設を密接に連携しながら施策を展開することが必要と思われる。このことが地域の将来展望や諸問題を解決する力となるのではないかと。特にコロナ危機の中で、小規模、分散型、ネットワークの新たな時代づくりを考えたい。
- 以前から、iプラザ3階各窓口に行っていて感じていたことですが、職員の方々が近づくだけですぐに対応してくれていました。今年度、会長を務め始めて本庁、西庁と訪ねても同じように職員の方々が優しく接して下さります。市役所に行くことが一切苦になりません。市職員の対応姿勢をいつまでも…。市民第一。
- ①磐田市役所職員の担当業務の、専門知識の底上げ。一部の人に十分な知識がなく、対応が不適切なことがある。また、チェックミスと思われる配布物も多くあり、チェック体制が十分か疑問。②予算配分が画一的であり、必要などころに的確に配分されていない。自治会の世帯数、面積、要望事項等、密な算定が必要。当初予算が画一的にならざるを得ない予算項目であった場合、その後年度内支出を柔軟に変更してほしい。
- ①磐田市の職員皆さんが「行動する」が徹底していて驚きました。昔の公務員のイメージなしです。頭が固くてごめんなさい。地域づくり応援課、道路河川課、池田交流センター、一本の糸で結ばれています。上記の継続をお願いしたい。継続は力なり。市民の考えが職員に伝わっています。きっと素晴らしい磐田市になります。②小さな声。池田の長藤、枯れてきています。市はもっと力を入れてください。県の力も借りて。力を入れているかもしれませんが、貴重な文化財です。大切にしてください。
- 要望等で市役所を訪問すると、回答として「条例で決まっています」との返事ですが、その答えに誠意が感じられません。

このページは白紙です

Ⅲ 調査票

令和2年度（2020年度）
磐田市市民意識調査

《回答ご記入上の注意》

1. この調査票は、自治会長、支部・地区長、地域づくり協議会長様にお送りしています。ご本人様が回答をご記入ください。
2. 調査票や返信用封筒（切手不要）にお名前を書いていただく必要はありません。
無記名でお答えいただきますので、どなたがお答えしたかわからないようになっています。
3. お答えいただいた内容は、調査の目的以外に使用することはありません。
4. 回答は回答欄の番号に○印を、また（ ）内には具体的にお書きください。
5. 回答の記入が済みましたら、記入漏れがないかをご確認の上、**8月11日（火）**
までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにお近くのポストにご投函ください。

【お問い合わせ先】 磐田市企画部秘書政策課 政策・行革推進グループ

〒438-8650 磐田市国府台3番地1

電話：0538-37-4805

FAX：0538-36-8954

E-mail:kikaku@city.iwata.lg.jp

1 貴団体のことについて

問1 貴団体の属する地域をお答えください。〈○印を1つ〉

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 見付地区 | 2 中泉地区 |
| 3 今之浦地区 | 4 岩田・大藤・向笠地区 |
| 5 西貝・御厨・南御厨・田原地区 | 6 天竜・長野・於保地区 |
| 7 福田地区 | 8 竜洋地区 |
| 9 富岡・豊田東・池田地区（豊田中学校区） | 10 井通地区・青城地区（豊田南中学校区） |
| 11 豊岡地区 | |

問2 貴団体の世帯数をお答えください。〈○印を1つ〉

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 25 世帯未満 | 2 25～49 世帯 |
| 3 50～99 世帯 | 4 100～199 世帯 |
| 5 200～299 世帯 | 6 300～399 世帯 |
| 7 400～499 世帯 | 8 500 世帯以上 |

2 地域（磐田市）の特性について

問3 貴団体が日頃活動されている地域の強み（良い点、活かすべき点）は何だと思えますか？

〈○印を3つまで〉

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1 地域の連帯感・協力等 | 2 地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災） |
| 3 地域を支える人材 | 4 習慣・気質 |
| 5 自然環境・地形 | 6 産業 |
| 7 歴史・文化 | 8 交通・立地条件など生活利便性 |
| 9 景観 | 10 公園などの施設の充実 |
| 11 人口・世帯数の増加 | 12 その他（ ） |

問4 貴団体が日頃活動されている地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）は何だと思えますか？

〈○印を3つまで〉

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 アパート居住者、外国人との交流等 | 2 地域活動への参加・協力意識 |
| 3 優秀な人材・リーダーの不在 | 4 風習、気質 |
| 5 環境問題 | 6 産業（農業・商業等）振興 |
| 7 文化振興（伝統の維持等） | 8 生活環境（道路、交通、上下水道等） |
| 9 防災対策 | 10 少子高齢化、人口減少 |
| 11 急激な人口増加（新規転入者の増加など） | 12 その他（ ） |

3 磐田市の今後の取り組みについて

問5 磐田市では、総合計画において下表の31の基本施策に取り組んでいます。今後の取り組みとして、特に重要であると思うもの、優先すべきと思うものはどれですか？5つまで選んで、優先度の高い順にその取り組みの番号を記入してください。

優先度	← 高い 優先度 低い →			
番号				

問6 日本全体が人口減少局面を迎えているなか、磐田市では、2060年（令和42年）に総人口13万6千人を確保することを目指しています。（※2020年3月末人口：16万9,673人）総合計画における下表の31の基本施策のうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うものはどれですか？5つまで選んで、その取り組みの番号を記入してください。

番号				
----	--	--	--	--

【表】総合計画における31の基本施策

分野	基本施策	主な内容
産業・雇用・観光・移住・定住	1 元気な農林水産業の育成	・次世代型農水産業などに参入する企業への支援 ・耕作放棄地 [※] 解消への支援及び抑止対策の促進 ※耕作の目的で使われておらず、引き続き使われる見込みのない農地
	2 中小企業等の競争力強化と企業立地の推進	・事業継承をする中小企業等への支援 ・工場等の新增設を行う企業への支援や企業誘致の推進
	3 産業を担う人材の育成・就労の支援	・求職者へ就職支援に関する情報を提供 ・UIJターン就職の促進（首都圏などで合同企業説明会や面接会等の開催）
	4 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化	・軽トラ市の開催支援 ・磐田まちめぐりゼミナール [※] の開催 ※商店主が講師となり、お店の専門的な知識や情報、コツを無料で受講者に伝える講座
	5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	・インスタグラムなどSNS [※] を活用した市の魅力発信 ・「しっぺい」を活用した市内外でのPR活動 ※インターネットを介して人間関係を構築できるスマホやパソコン用のWebサービスの総称
	6 移住・定住の推進	・小中学生向けの就労・起業啓発事業の実施 ・Uターン就職をした方への奨学金返済の一部補助

分野	基本施策	主な内容
自治・スポーツ・文化・歴史・共生	7 コミュニティと市民活動の活性化	・地域づくり協議会の設置・支援 ・自治会活動や自治会公会堂整備などへの支援
	8 スポーツの振興	・2つのジュビロ(サッカー・ラグビー)を活かした事業の実施や各種大会やイベントの誘致・開催支援 ・既存のスポーツ施設の計画的な改修・修繕の実施
	9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用	・文化芸術鑑賞会(展示会やコンサートなど)の開催や文化芸術活動への支援 ・遠江国分寺跡の整備事業の推進
	10 学習機会の充実	・交流センター講座の開催や学びの庭・学びの師・学びの友 ^{※1} の発行 ・地域資料のデジタル化や電子書籍サービス ^{※2} の推進 ※1:生涯学習関連の情報誌 ※2:デジタルデータで作成される出版物(電子書籍)を、検索・貸出・返却・閲覧できるサービス
子育て・教育	11 共生社会の確立	・外国人市民への情報提供や外国人情報窓口 ^{※1} の設置 ・男女共同参画やLGBT ^{※2} に関する講座や講演会の開催 ※1:外国人の生活相談又生活に関する情報等を常駐するスタッフが多言語で対応する窓口 ※2:レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)の頭文字をとった性的少数者の総称
	12 子ども・子育て支援の充実	・子育て相談機能を備えた「ひと・ほんの庭にこっと」の開設・運営 ・保育枠確保に向けた施設整備への支援
	13 特色ある教育の推進	・中学校区単位での小中一貫教育 [※] の推進 ・小中学生の広島平和記念式典への派遣や、中学生の海外派遣の実施など、体験を重視する教育の推進 ※小学校と中学校の教育課程を調整し、一貫性をもたせた体系的な教育方式
	14 子ども・若者の健全育成	・放課後児童クラブ [※] の拡充(対象者6年生まで)や民間児童クラブへの運営補助 ・子どもから若者までのあらゆる相談に対応する「こども・若者相談センター」の設置 ※児童に対し、放課後や長期休業中に保護者に代わって育成支援を行う施設

分野	基本施策	主な内容
健康・福祉	15 地域福祉の推進	・福祉ボランティア活動への支援 ・生活困窮者の就労を含めた相談窓口の設置など、自立に向けた相談体制の充実
	16 高齢者福祉の充実	・高齢者在宅福祉サービス(在宅介護手当、タクシー券、紙おむつ券助成等)の実施 ・高齢者相談・支援体制(地域包括支援センター※などの)拡充 ※高齢者およびその家族からの相談の受付や、高齢者の見守り、心身の状態にあわせた支援を行う高齢者の総合的な相談・サービスの拠点
	17 障がい児者福祉の充実	・障がいのある方の各種相談や情報提供などを行う障害者相談支援センターの設置 ・障がい者福祉施設整備への支援
	18 健康づくりの推進	・特定健康診査※やがん等の検診事業の実施 ・健康講座や健康相談を行う「まちの保健室」事業の実施 ※心筋梗塞や脳血管疾患、糖尿病等、生活習慣病の要因となるメタボリックシンドロームに着目した健康診断
	19 地域医療体制の充実	・市立総合病院の施設・設備の充実など、機能強化の推進 ・救命救急センターと急患センターの連携による救急医療体制の強化
防災・消防・安全安心	20 危機管理・防災対策の推進	・大規模停電対策事業や海岸堤防整備事業の推進 ・木造住宅の耐震化への支援や耐震シェルター※設置補助など、家庭における防災対策の推進 ※地震で住宅が倒壊しても寝室や睡眠スペースなど一定の空間を守ってくれる装置
	21 消防・救急体制の充実	・消防団の組織強化(団員確保や装備の充実など) ・消防車両や資機材の整備及び貯水槽の耐震化の推進
	22 市民生活の安全・安心の確保	・防犯カメラの設置など、地域の防犯活動への支援 ・子どもや高齢者を対象とした交通安全教室の実施
都市基盤・環境	23 計画的な土地利用の推進	・駅、インターチェンジ、幹線道路、区画整理、公園などの計画的な整備の推進 ・磐田市景観計画※に基づく良好な景観形成への誘導 ※景観法に基づく良好な景観形成を維持するための計画

分野	基本施策	主な内容
都市基盤・環境	24 公共交通体系と道路網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路や生活道路、通学路の整備 ・JR御厨駅の設置や新東名スマートインターチェンジ[*]の設置の推進、デマンド型乗合タクシーの運行充実など、公共交通・交通拠点の整備・充実 ※高速道路の本線上などに設置されているE T C専用のインターチェンジ（I C）のこと
	25 良好な住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・今之浦市有地・今之浦公園整備事業の推進 ・空き家の除却への支援や中古建物リフォーム補助制度の実施など、空き家対策事業の推進
	26 水道水の安定供給と下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・漏水・断水事故等を軽減するための老朽管の更新や管路の耐震化の推進 ・既設の上下水道施設の計画的な維持管理と長寿命化の推進
	27 環境にやさしい社会の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者のエコアクション 21 認証取得に対する支援 ・アース・キッズ事業[*]の実施や市民・団体が行う環境保全活動への支援 ※子どもたちがリーダーとなって、家庭で地球温暖化防止に取り組む実践型教育プログラムのこと
	28 快適な生活環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄対策の推進 ・多様化する墓地需要に対応するため、駒場霊園内に「合葬墓^{*1}」と「芝生区画^{*2}」を整備 ※1：永年合葬式の納骨施設 ※2：全面芝生の洋風墓地で、カロート（納骨スペース）が地中に設置してあり、その上に墓石を建てる区画
行財政改革	29 効率的・効果的な行政運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画を推進するため、市長と市政を語る会や訪問市長室[*]の実施 ・ホームページの改善や電子申請による行政手続きの簡素化の推進 ※市長が市内で活動する個人や市民団体、企業等を訪問し、現場を実際に見て、皆さんの声を聞くことで今後の市政に活かすための活動
	30 持続可能な財政基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度[*]の活用や有料広告等の収入による自主財源の確保 ・利用可能性のない遊休未利用地の売却 ※自分の意志で応援したい自治体（都道府県・市区町村）を選んで寄附できる制度
	31 機動的な組織体制の構築と人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・組織機構の見直しや適材適所の人員配置の実施 ・人事活用制度を活用した人材の育成や研修などの実施による職員の資質向上

4 地域活動について

問7 貴団体が活動をする上での問題点は何ですか？<○印を3つまで>

- 1 役員のなり手が少ない、又は調整が難しい
- 2 定期的な地域活動への参加者が少ない
- 3 高齢化が進み、若い人の参加が少ない
- 4 自治会の会員（会費収入）が少なくなりつつある
- 5 会費以外の収入がない、又は資金を確保する方法がわからない
- 6 活動に伴う役員の責任が重い
- 7 集会などの活動を行うための場所の確保が難しい
- 8 他の自治会の活動状況やボランティアに関する情報が少ない
- 9 その他（)

問8 貴団体の活動において、工夫していることがありましたら、ご紹介ください。また、今後取り組みたいと思っていることもお教えてください。<箇条書きでご記入ください>

現在、取り組んでいること

-
-
-
-

今後、取り組みたいこと

-
-
-
-

5 新型コロナウイルス感染症について

問9 新型コロナウイルス感染症により、貴団体はどの程度の影響を受けましたか？

＜○印を1つ＞

- 1 かなり影響を受けた 2 少し影響を受けた 3 影響はなかった

▶ 問10は、問9で「1 かなり影響を受けた」「2 少し影響を受けた」とお答えの方にお聞きします。

問10 具体的にどのような影響がありましたか？＜該当するものすべてに○印＞

- 1 イベントの実施などの活動を中止にした
2 活動への参加者が減少した
3 今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった
4 寄附や売り上げの減少などにより、活動費の確保が難しくなった
5 役員やスタッフが活動できなくなった
6 総会などの必要な会議が開催できなかった
7 その他 ()

問11 今後活動していくうえで、どのような対策や工夫をしていますか？

-
-
-
-

アンケート調査は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

8月11日(火)までに、返信用封筒に入れ、
切手を貼らずに、お近くのポストにご投函ください。

令和2年度（2020年度）
磐田市自治会等意識調査 調査結果報告書

発行 令和3年3月

編集 磐田市 企画部 秘書政策課 政策・行革推進グループ

〒438-8650 磐田市国府台3番地1

TEL 0538-37-4805 / FAX 0538-36-8954